

医療の質指標(Quality Indicator)定義一覧

出典：京都大学Q I Pプロジェクト、(http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/)、「Quality Indicator/Improvemnt Project(Q I P) 医療の質と経済性の評価・向上にむけて～診療パフォーマンス指標の他施設比較」.(参照 2021-7-1)

※下記の指標番号をクリックしていただくと個別の指標定義にページ移動します。本頁以降の個別定義は指標番号の昇順に並んでいます。

分類	指標番号	指標名称
脳卒中	549	脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、入院2日目までに抗血小板療法もしくは抗凝固療法を受けた症例の割合
	0837	脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、退院時に抗血小板薬を処方された症例
	0842	脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、入院中に未分画ヘパリンを投与されなかった例の割合
	2004	脳梗塞の診断で入院し、リハビリ治療を受けた症例の割合
	2005	脳梗塞の診断で入院し、入院後早期にリハビリ治療を受けた症例の割合
	2081	脳梗塞患者の退院時スタチン処方割合
	2125	脳梗塞症例の肺塞栓・深部静脈血栓症の発症率
	5001	脳梗塞の診断で入院し、抗痙攣薬を投与しない割合
呼吸器系	2093	院内肺炎症例の平均抗菌薬投与日数
	2095	院内肺炎症例の治療軽快割合
	2121	手術実施患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率
循環器系疾患 薬剤	2006	心不全患者へのβブロッカー投与の割合
	2007	心不全患者へのACE阻害剤もしくはアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤投与の割合
	2132	アスピリン内服患者の退院時酸分泌抑制薬（PPI/H2RA）処方率
循環器系疾患	0598	経皮的冠動脈形成術（PTCA）を受けた後、同日あるいは翌日までに冠動脈バイパス術（CABG）を受けた割合
	2078	急性または慢性心不全患者に対する心臓リハビリ実施割合
消化器系	2037	急性胆嚢炎に対する入院2日以内の超音波検査実施割合
	2126	胆管炎・急性胆嚢炎に対する入院2日以内の超音波検査実施割合
	2138	急性膵炎に対する入院2日以内の造影CT実施割合
整形外科	2046	大腿骨頸部骨折における早期リハビリ開始率
	2114	大腿骨頸部骨折の早期手術割合
	2115	大腿骨転子部骨折の早期手術割合
乳がん	2038	T1-2,N0,M0乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検率
	2049	T1-2,N0,M0乳がん手術患者に対する腋窩リンパ節郭清実施率
糖尿病	2075	糖尿病入院患者に対する栄養指導実施率
化学療法	2133	シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤の投与
	2137	EC（エピルビン、シクロスファミド）療法後の急性期予防的制吐剤の投与
精神科	2127_1	75歳以上の入院症例でトリアゾラムが処方された割合
	2127_2	75歳以上の入院症例で長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合
	2127_3	75歳以上の入院症例でトリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合
緩和ケア	0517	がんの疼痛管理のため、長時間作用型麻薬に加えて短時間作用型麻薬等のレスキューを用として処方された症例の割合
感染症	2023	抗MRSA薬投与に対して、薬物血中濃度を測定された症例の割合
	2031_4	市中肺炎症例に対し、尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例
	2031_6	市中肺炎症例に対し、入院当日から抗菌薬を投与された症例
	2031_7	市中肺炎症例に対する、注射抗菌薬開始時の抗緑膿菌薬投与割合
	2107	血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合
	2108	抗MRSA薬投与症例対して、細菌検査を実施された割合
	2124	広域抗菌薬使用時の血液培養実施率
	2124_2	広域抗菌薬使用までの培養検査実施率
	2128	経口第3世代セフェム処方が経口抗菌薬全体に占める割合
	2129	経口カルバペネム処方が経口抗菌薬全体に占める割合
マネジメント	2048	薬剤管理指導実施割合（実施患者数ベース）
	2071	悪性腫瘍症例に対する退院支援の割合
	2079	糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への栄養管理実施割合
	2080	糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への早期栄養管理実施割合
	2089	他院よりの紹介の有る入院の割合
	2090	DPC入院期間II以内の割合
	2091	DPC入院期間III超えの割合
	2102	誤嚥性肺炎症例に対する退院支援の割合
	2103	認知症を伴う症例に対する退院支援の割合
	2104	薬剤管理指導実施開始日
	2105	悪性腫瘍・誤嚥性肺炎・認知症の症例に対する退院支援の割合
	2116	外来インスリン治療症例への糖尿病透析予防指導実施割合
	2120	服薬指導 b. 安全管理が必要な医薬品に対する服薬指導実施率
	2139	薬剤管理指導入院3日以内実施割合（実施患者数ベース）
周術期抗菌薬予防投与	3321	周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：乳房切除術
	3331	周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：腹式子宮摘出術（開腹）
	3391	周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）
	3411	周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：人工関節置換術
遵守率 予防的な投与期間	3322	周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：乳房切除術
	3332	周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：腹式子宮摘出術（開腹）
	3392	周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）
	3412	周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：人工関節置換術
遵守率 予防的抗菌薬の薬剤種類	3323	周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：乳房切除術
	3333	周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：腹式子宮摘出術（開腹）
	3393	周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）
	3413	周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：人工関節置換術
遵守率 薬剤種類および投与期間	3324	周術期予防的抗菌薬の薬剤種類および投与期間遵守率：乳房切除術
	3394	周術期予防的抗菌薬の薬剤種類および投与期間遵守率：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）
	3414	周術期予防的抗菌薬の薬剤種類および投与期間遵守率：人工関節置換術

名称：がんの疼痛管理のため、長時間作用型麻薬に加えて短時間作用型麻薬等のレスキューを頓用として処方された症例の割合

指標番号：

QIP：0517

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：緩和ケア

名称：がんの疼痛管理のため、長時間作用型麻薬に加えて短時間作用型麻薬等のレスキューを頓用として処方された症例の割合

意義：がん患者に疼痛はよく起こる。疼痛の管理のためには長時間作用型麻薬だけでなく、突出痛の抑制のための短時間作用型麻薬等のレスキューも必要である。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の、がんと診断され、長時間作用型麻薬（内服、貼付）を処方された症例

分子：分母のうち、短時間作用型麻薬等のレスキュー（内服、座薬）を処方された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、がんの診断を受けた症例。主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名のICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ3	
ICD-10コード	病名
C5	悪性新生物

- 4：このうち、長時間作用型麻薬を処方された症例。E/Fファイルの薬剤情報の点数コードのいずれかに、以下のいずれかのレセ電コードが含まれる症例

分母のデータ4

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1149038	622003301	トラマドール塩酸塩	トラマールカプセル2.5mg	○	○	○	○		
1149038	622003401	トラマドール塩酸塩	トラマールカプセル5.0mg	○	○	○	○		
1149038	622366101	トラマドール塩酸塩	トラマールOD錠2.5mg			○	○	○	○
1149038	622366201	トラマドール塩酸塩	トラマールOD錠5.0mg			○	○	○	○
1149038	622404701	トラマドール塩酸塩	ワントラム錠1.0・0.5mg			○	○	○	○
1149117	622081101	トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン	トラムセット配合錠	○	○	○	○	○	○
1149117	622647501	トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン	トララセット配合錠「ケミファ」					○	○
1149117	622648001	トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン	トララセット配合錠「YD」					○	○
1149117	622648701	トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン	トララセット配合錠「ファイザー」					○	○
1149117	622649101	トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン	トララセット配合錠「マルイシ」					○	○
1149117	622650101	トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン	トララセット配合錠「DSEP」					○	○

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1149117	622650601	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「TCK」					○	○
1149117	622652201	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「EE」					○	○
1149117	622652301	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「日医工」					○	○
1149117	622652901	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「三笠」					○	○
1149117	622655601	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「サワイ」					○	○
1149117	622657101	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「トーフ」					○	○
1149117	622658501	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「日新」					○	○
1149117	622659001	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「あすか」					○	○
1149117	622660201	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「共創未来」					○	○
1149117	622661501	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「サンド」					○	○
1149117	622661701	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「杏林」					○	○
1149117	622662301	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「武田テバ」					○	○
1149117	622664001	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「JG」					○	○
1149117	622665301	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「日本臓器」					○	○
1149117	622666801	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「オーハラ」					○	○
1149117	622666901	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「TC」					○	○
1149117	622667701	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「Me」					○	○
1149117	622668501	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「SN」					○	○
1149400	620000258	トラマドール塩酸塩	トラマール注1●● 1●●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	610406378	モルヒネ硫酸塩水和物	MSコンチン錠6●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	610432049	モルヒネ硫酸塩水和物	カディアンカプセル2●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	610432050	モルヒネ硫酸塩水和物	カディアンカプセル3●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	610432051	モルヒネ硫酸塩水和物	カディアンカプセル6●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	610453027	モルヒネ硫酸塩水和物	MSツワイスロンカプセル1●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	610453028	モルヒネ硫酸塩水和物	MSツワイスロンカプセル3●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	610453029	モルヒネ硫酸塩水和物	MSツワイスロンカプセル6●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	610453130	モルヒネ硫酸塩水和物	モルペス細粒2%	○	○	○	○	○	○
8114004	610453131	モルヒネ硫酸塩水和物	モルペス細粒6%	○	○	○	○	○	○
8114004	618110023	モルヒネ硫酸塩水和物	MSコンチン錠1●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	618110024	モルヒネ硫酸塩水和物	MSコンチン錠3●mg	○	○	○	○	○	○
8114004	620002002	モルヒネ硫酸塩水和物	カディアンスティック粒3●mg	○	○	○	○		
8114004	620002003	モルヒネ硫酸塩水和物	カディアンスティック粒6●mg	○	○	○	○		

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
8114004	620002004	モルヒネ硫酸塩水和物	カディアンスティック粒12●mg	○	○	○	○		
8114004	620002425	モルヒネ硫酸塩水和物	ピーガード錠2●mg	○	○	○	○		
8114004	620002426	モルヒネ硫酸塩水和物	ピーガード錠3●mg	○	○	○	○		
8114004	620002427	モルヒネ硫酸塩水和物	ピーガード錠6●mg	○	○	○	○		
8114004	620002428	モルヒネ硫酸塩水和物	ピーガード錠12●mg	○	○	○	○		
8114005	620003165	モルヒネ塩酸塩水和物	パシーフカプセル3●mg	○	○	○	○	○	○
8114005	620003166	モルヒネ塩酸塩水和物	パシーフカプセル6●mg	○	○	○	○	○	○
8114005	620003167	モルヒネ塩酸塩水和物	パシーフカプセル12●mg	○	○	○	○	○	○
8119002	610470005	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコンチン錠5mg	○	○	○	○	○	○
8119002	610470006	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコンチン錠1●mg	○	○	○	○	○	○
8119002	610470007	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコンチン錠2●mg	○	○	○	○	○	○
8119002	610470008	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコンチン錠4●mg	○	○	○	○	○	○
8119002	622303501	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放カプセル5mg 「テルモ」		○	○	○	○	○
8119002	622303601	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放カプセル1●mg 「テルモ」		○	○	○	○	○
8119002	622303701	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放カプセル2●mg 「テルモ」		○	○	○	○	○
8119002	622303801	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放カプセル4●mg 「テルモ」		○	○	○	○	○
8119002	622521701	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放錠5mg「第一三 共」				○	○	○
8119002	622521801	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放錠1●mg「第一 三共」				○	○	○
8119002	622521901	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放錠2●mg「第一 三共」				○	○	○
8119002	622522001	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放錠4●mg「第一 三共」				○	○	○
8119002	622540101	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン錠2.5mg「第一三 共」				○	○	○
8119002	622540201	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン錠5mg「第一三共」				○	○	○
8119002	622540301	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン錠1●mg「第一三 共」				○	○	○
8119002	622540401	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン錠2●mg「第一三 共」				○	○	○
8119002	622576301	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコンチンTR錠5mg				○	○	○
8119002	622576401	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコンチンTR錠1●mg				○	○	○
8119002	622576501	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコンチンTR錠2●mg				○	○	○
8119002	622576601	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコンチンTR錠4●mg				○	○	○
8119002	622685301	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放錠5mgNX「第一 三共」					○	○

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
8119002	622685401	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放錠 1●mg N X 「第一三共」					○	○
8119002	622685501	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放錠 2●mg N X 「第一三共」					○	○
8119002	622685601	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン徐放錠 4●mg N X 「第一三共」					○	○
8119003	622549801	ヒドロモルフォン塩酸塩	ナルサス錠 2mg				○	○	○
8119003	622549901	ヒドロモルフォン塩酸塩	ナルサス錠 6mg				○	○	○
8119003	622550001	ヒドロモルフォン塩酸塩	ナルサス錠 12mg				○	○	○
8119003	622550101	ヒドロモルフォン塩酸塩	ナルサス錠 24mg				○	○	○
8119400	622685701	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン注射液 1●mg「第一 三共」 1% 1mL					○	○
8119400	622685801	オキシコドン塩酸塩水和物	オキシコドン注射液 5●mg「第一 三共」 1% 5mL					○	○
8119500	648110014	複方オキシコドン	複方オキシコドン注射液 1mL	○	○	○	○	○	○
8119504	648110012	複方オキシコドン・アトロピン	複方オキシコドン・アトロピン注射 液 1mL	○	○	○	○	○	○
8219001	622036901	フェンタニルクエン酸塩	アクレフ口腔粘膜吸収剤 2●●μg	○	○	○			
8219001	622037001	フェンタニルクエン酸塩	アクレフ口腔粘膜吸収剤 4●●μg	○	○	○			
8219001	622037101	フェンタニルクエン酸塩	アクレフ口腔粘膜吸収剤 6●●μg	○	○	○			
8219001	622037201	フェンタニルクエン酸塩	アクレフ口腔粘膜吸収剤 8●●μg	○	○	○			
8219002	622212701	メサドン塩酸塩	メサペイン錠 5mg		○	○	○	○	○
8219002	622212801	メサドン塩酸塩	メサペイン錠 1●mg		○	○	○	○	○
8219003	622350501	タペンタドール塩酸塩	タペンタ錠 25mg			○	○	○	○
8219003	622350601	タペンタドール塩酸塩	タペンタ錠 5●mg			○	○	○	○
8219003	622350701	タペンタドール塩酸塩	タペンタ錠 1●●mg			○	○	○	○
8219700	620007678	フェンタニル	デュロテップMTパッチ 2. 1mg	○	○	○	○	○	○
8219700	620007679	フェンタニル	デュロテップMTパッチ 4. 2mg	○	○	○	○	○	○
8219700	620007680	フェンタニル	デュロテップMTパッチ 8. 4mg	○	○	○	○	○	○
8219700	620007681	フェンタニル	デュロテップMTパッチ 12. 6m g	○	○	○	○	○	○
8219700	620007682	フェンタニル	デュロテップMTパッチ 16. 8m g	○	○	○	○	○	○
8219700	622041901	フェンタニル	ワンデュロパッチ●. 84mg	○	○	○	○	○	○
8219700	622042001	フェンタニル	ワンデュロパッチ 1. 7mg	○	○	○	○	○	○
8219700	622042101	フェンタニル	ワンデュロパッチ 3. 4mg	○	○	○	○	○	○
8219700	622042201	フェンタニル	ワンデュロパッチ 5mg	○	○	○	○	○	○
8219700	622042301	フェンタニル	ワンデュロパッチ 6. 7mg	○	○	○	○	○	○
8219700	622177901	フェンタニル	フェンタニル 3 日用テープ 2. 1m g「HMT」		○	○	○	○	○
8219700	622178001	フェンタニル	フェンタニル 3 日用テープ 4. 2m g「HMT」		○	○	○	○	○
8219700	622178101	フェンタニル	フェンタニル 3 日用テープ 8. 4m g「HMT」		○	○	○	○	○
8219700	622178201	フェンタニル	フェンタニル 3 日用テープ 12. 6 mg「HMT」		○	○	○	○	○
8219700	622178301	フェンタニル	フェンタニル 3 日用テープ 16. 8 mg「HMT」		○	○	○	○	○

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
8219700	622228201	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ2. 1mg「明治」		○	○	○	○	○
8219700	622228301	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ4. 2mg「明治」		○	○	○	○	○
8219700	622228401	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ8. 4mg「明治」		○	○	○	○	○
8219700	622228501	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ12. 6mg「明治」		○	○	○	○	○
8219700	622228601	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ16. 8mg「明治」		○	○	○	○	○
8219700	622305201	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ2. 1mg「テルモ」		○	○	○	○	○
8219700	622305202	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ2. 1mg「テイコク」					○	○
8219700	622305301	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ4. 2mg「テルモ」		○	○	○	○	○
8219700	622305302	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ4. 2mg「テイコク」					○	○
8219700	622305401	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ8. 4mg「テルモ」		○	○	○	○	○
8219700	622305402	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ8. 4mg「テイコク」					○	○
8219700	622305501	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ12. 6mg「テルモ」		○	○	○	○	○
8219700	622305502	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ12. 6mg「テイコク」					○	○
8219700	622305601	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ16. 8mg「テルモ」		○	○	○	○	○
8219700	622305602	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ16. 8mg「テイコク」					○	○
8219700	622505001	フェンタニル	フェンタニル1日用テープ●. 84mg「明治」				○	○	○
8219700	622505101	フェンタニル	フェンタニル1日用テープ1. 7mg「明治」				○	○	○
8219700	622505201	フェンタニル	フェンタニル1日用テープ3. 4mg「明治」				○	○	○
8219700	622505301	フェンタニル	フェンタニル1日用テープ5mg「明治」				○	○	○
8219700	622505401	フェンタニル	フェンタニル1日用テープ6. 7mg「明治」				○	○	○
8219700	622628101	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ2. 1mg「トワ」					○	○
8219700	622628201	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ4. 2mg「トワ」					○	○
8219700	622628301	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ8. 4mg「トワ」					○	○
8219700	622628401	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ12. 6mg「トワ」					○	○
8219700	622628501	フェンタニル	フェンタニル3日用テープ16. 8mg「トワ」					○	○
8219701	621988502	フェンタニルクエン酸塩	フェントステープ1mg	○	○	○	○	○	○
8219701	621988602	フェンタニルクエン酸塩	フェントステープ2mg	○	○	○	○	○	○

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
8219701	621988702	フェンタニルクエン酸塩	フェントステープ4mg	○	○	○	○	○	○
8219701	621988802	フェンタニルクエン酸塩	フェントステープ6mg	○	○	○	○	○	○
8219701	621988902	フェンタニルクエン酸塩	フェントステープ8mg	○	○	○	○	○	○
8219701	622643101	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ1mg「第一三共」					○	○
8219701	622643201	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ2mg「第一三共」					○	○
8219701	622643301	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ4mg「第一三共」					○	○
8219701	622643401	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ6mg「第一三共」					○	○
8219701	622643501	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ8mg「第一三共」					○	○
8219701	622645901	フェンタニルクエン酸塩	フェントステープ●, 5mg					○	○
8219701	622696801	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ1mg「テイコク」					○	○
8219701	622696901	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ2mg「テイコク」					○	○
8219701	622697001	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ4mg「テイコク」					○	○
8219701	622697101	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ6mg「テイコク」					○	○
8219701	622697201	フェンタニルクエン酸塩	フェンタニルクエン酸塩 1日用テ ープ8mg「テイコク」					○	○

5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1：短時間作用型麻薬等のレスキューを処方された症例 E/Fファイルの薬剤情報の点数コードのいずれかに、以下のいずれかのレセ電コードが含まれる症例

分子のデータ1

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1149038	622003301	トラマドール塩酸塩	トラマールカプセル2.5mg	○	○	○	○		
1149038	622003401	トラマドール塩酸塩	トラマールカプセル5●mg	○	○	○	○		
1149038	622366101	トラマドール塩酸塩	トラマールOD錠2.5mg			○	○	○	○
1149038	622366201	トラマドール塩酸塩	トラマールOD錠5●mg			○	○	○	○
1149117	622081101	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トラムセット配合錠	○	○	○	○	○	○
1149117	622647501	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「ケミファ」					○	○
1149117	622648001	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「YD」					○	○
1149117	622648701	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「ファイザー」					○	○
1149117	622649101	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「マルイシ」					○	○
1149117	622650101	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「DSEP」					○	○
1149117	622650601	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「TCK」					○	○

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1149117	622652201	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「E E」					○	○
1149117	622652301	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「日医工」					○	○
1149117	622652901	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「三笠」					○	○
1149117	622655601	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「サワイ」					○	○
1149117	622657101	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「トーフ」					○	○
1149117	622658501	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「日新」					○	○
1149117	622659001	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「あすか」					○	○
1149117	622660201	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「共創未来」					○	○
1149117	622661501	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「サンド」					○	○
1149117	622661701	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「杏林」					○	○
1149117	622662301	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「武田テバ」					○	○
1149117	622664001	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「J G」					○	○
1149117	622665301	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「日本臓器」					○	○
1149117	622666801	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「オーハラ」					○	○
1149117	622666901	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「T C」					○	○
1149117	622667701	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「M e」					○	○
1149117	622668501	トラマドール塩酸塩・ア セトアミノフェン	トアラセット配合錠「S N」					○	○
1149400	62000258	トラマドール塩酸塩	トラマール注 1●● 1●●mg	○	○	○	○	○	○
8114002	618110015	エチルモルヒネ塩酸塩水和物	エチルモルヒネ塩酸塩水和物	○	○	○	○	○	○
8114002	628502001	エチルモルヒネ塩酸塩水和物	エチルモルヒネ塩酸塩水和物「第一 三共」原末	○	○	○	○	○	
8114003	618110016	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩水和物	○	○	○	○	○	○
8114003	618110017	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩錠 1●mg	○	○	○	○	○	○
8114003	620001273	モルヒネ塩酸塩水和物	塩酸モルヒネ錠「マルピー」 1● mg	○	○	○			
8114003	620008346	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩水和物「第一三共」 原末	○	○	○	○	○	○
8114003	620009255	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩錠 1●mg「D S P」	○	○	○	○	○	○
8114003	620009256	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩水和物「タケダ」原 末	○	○	○	○	○	○
8114003	628503102	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩水和物「シオノギ」 原末	○	○	○	○	○	○
8114005	610470010	モルヒネ塩酸塩水和物	オブソ内服液 5mg 2. 5mL	○	○	○	○	○	○

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
8114005	610470011	モルヒネ塩酸塩水和物	オプソ内服液 1●mg 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	620009277	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 1●mg「シ オノギ」 1% 1mL	○	○	○	○	○	○
8114401	620009278	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 5●mg「シ オノギ」 1% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	620009279	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 2●●mg 「第一三共」 4% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	628504000	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 1●mg「第 一三共」 1% 1mL	○	○	○	○	○	○
8114401	628504304	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 1●mg「タ ケダ」 1% 1mL	○	○	○	○	○	○
8114401	628504405	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 1●mg「タ ナベ」 1% 1mL	○	○	○	○	○	○
8114401	628504500	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 5●mg「第 一三共」 1% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	628504804	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 5●mg「タ ケダ」 1% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	628504905	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 5●mg「タ ナベ」 1% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	628505102	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 2●●mg 「シオノギ」 4% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	628505304	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 2●●mg 「タケダ」 4% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	628505405	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 2●●mg 「タナベ」 4% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	640407022	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 1% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	640453051	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 4% 5mL	○	○	○	○	○	○
8114401	648110009	モルヒネ塩酸塩水和物	モルヒネ塩酸塩注射液 1% 1mL	○	○	○	○	○	○
8114700	660432005	モルヒネ塩酸塩水和物	アンパック坐剤 3●mg	○	○	○	○	○	○
8114700	668110001	モルヒネ塩酸塩水和物	アンパック坐剤 1●mg	○	○	○	○	○	○
8114700	668110002	モルヒネ塩酸塩水和物	アンパック坐剤 2●mg	○	○	○	○	○	○
8119002	620004413	オキシコドン塩酸塩水和 物	オキノーム散●. 5%	○					
8119002	622016901	オキシコドン塩酸塩水和 物	オキノーム散2. 5mg	○	○	○	○	○	○
8119002	622017001	オキシコドン塩酸塩水和 物	オキノーム散5mg	○	○	○	○	○	○
8119002	622017101	オキシコドン塩酸塩水和 物	オキノーム散1●mg	○	○	○	○	○	○
8119002	622303901	オキシコドン塩酸塩水和 物	オキノーム散2●mg		○	○	○	○	○
8119003	622550201	ヒドロモルフォン塩酸塩	ナルラピド錠1mg				○	○	○
8119003	622550301	ヒドロモルフォン塩酸塩	ナルラピド錠2mg				○	○	○
8119003	622550501	ヒドロモルフォン塩酸塩	ナルラピド錠4mg				○	○	○
8219001	622036901	フェンタニルクエン酸塩	アクレフ口腔粘膜吸収剤2●●μg	○	○	○			
8219001	622037001	フェンタニルクエン酸塩	アクレフ口腔粘膜吸収剤4●●μg	○	○	○			
8219001	622037101	フェンタニルクエン酸塩	アクレフ口腔粘膜吸収剤6●●μg	○	○	○			
8219001	622037201	フェンタニルクエン酸塩	アクレフ口腔粘膜吸収剤8●●μg	○	○	○			
8219001	622264901	フェンタニルクエン酸塩	イーフェンバッカル錠5●μg		○	○	○	○	○

薬価基準 コード7桁	レセプト電 算コード	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
8219001	622265001	フェンタニルクエン酸塩	イーフェンバツカル錠1 $\bullet\bullet\mu$ g		○	○	○	○	○
8219001	622265101	フェンタニルクエン酸塩	イーフェンバツカル錠2 $\bullet\bullet\mu$ g		○	○	○	○	○
8219001	622265201	フェンタニルクエン酸塩	イーフェンバツカル錠4 $\bullet\bullet\mu$ g		○	○	○	○	○
8219001	622265301	フェンタニルクエン酸塩	イーフェンバツカル錠6 $\bullet\bullet\mu$ g		○	○	○	○	○
8219001	622265401	フェンタニルクエン酸塩	イーフェンバツカル錠8 $\bullet\bullet\mu$ g		○	○	○	○	○
8219001	622293501	フェンタニルクエン酸塩	アブストラル舌下錠1 $\bullet\bullet\mu$ g		○	○	○	○	○
8219001	622293601	フェンタニルクエン酸塩	アブストラル舌下錠2 $\bullet\bullet\mu$ g		○	○	○	○	○
8219001	622293701	フェンタニルクエン酸塩	アブストラル舌下錠4 $\bullet\bullet\mu$ g		○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1：外来処方薬を持ち込むときなど既に短時間作用型麻薬等のレスキューを持っていれば（持参薬）、入院中に処方する必要はなく、数値が低く算出される可能性がある。

2：トラマドール塩酸塩は短時間作用型ではないがレスキューとして使用されるため追加した

3：アクレフ口腔粘膜吸収剤は、発売中止されている

4：本指標では、コデインは除外している

参考値:

参考資料:

1：当指標で用いた薬剤の成分名（同一成分で、短時間作用型麻薬等のレスキューと長時間作用型麻薬があるものがある）

データ1

薬価基準コード7桁	成分名
1149038	トラマドール塩酸塩
8114003	モルヒネ塩酸塩水和物
8114005	モルヒネ塩酸塩水和物
8114700	モルヒネ塩酸塩水和物
8119002	オキシコドン塩酸塩水和物
8119003	ヒドロモルフォン塩酸塩
8219001	フェンタニルクエン酸塩
8114004	モルヒネ硫酸塩水和物
8219002	メサドン塩酸塩
8219003	タベンタドール塩酸塩
8219700	フェンタニル
8219701	フェンタニルクエン酸塩

2：Agency for Healthcare Research and Quality (AHRQ). Management of cancer symptoms: pain, depression, and fatigue: summary. Rockville (MD): Agency for Healthcare Research and Quality (AHRQ); 2002 Jul. 6 p. (Evidence report/technology assessment; no. 61). Cancer care during the last phase of life. J Clin Oncol 1998 May;16(5):1986-96. Institute of Medicine. Adams K, Corrigan JM, editor(s). Priority areas for national action: transforming health care quality. Washington (DC): National Academy Press; 2003. 143 p. Lorenz KA, Dy SM, Naeim A, Walling AM, Sanati H, Smith P, Shanman R, Roth CP, Asch SM. Quality measures for supportive cancer care: the Cancer Quality-ASSIST Project. J Pain Symptom Manage 2009 Jun;37(6):943-64. Malin JL, O'Neill SM, Asch SM, Dy SM, Walling AM, Tisnado D, Antonio AL, Lorenz KA. Quality of supportive care for patients with advanced cancer in a VA Medical Center. Washington (DC): Department of Veterans

Affairs; 26 p. Rose JH, O'Toole EE, Dawson NV, Lawrence R, Gurley D, Thomas C, Hamel MB, Cohen HJ. Perspectives, preferences, care practices, and outcomes among older and middle-aged patients with late-stage cancer. J Clin Oncol 2004 Dec 15;22(24):4907-17. Solano JP, Gomes B, Higginson IJ. A comparison of symptom prevalence in far advanced cancer, AIDS, heart disease, chronic obstructive pulmonary disease and renal disease. J Pain Symptom Manage 2006 Jan;31(1):58-69. Teunissen SC, Wesker W, Kruitwagen C, de Haes HC, Voest EE, de Graeff A. Symptom prevalence in patients with incurable cancer: a systematic review. J Pain Symptom Manage 2007 Jul;34(1):94-104.

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、入院2日目までに抗血小板療法もしくは抗凝固療法（ワルファリン、ヘパリンを除く）を受けた症例の割合

指標番号：

QIP：0549

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：脳卒中

名称：脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、入院2日目までに抗血小板療法もしくは抗凝固療法（ワルファリン、ヘパリンを除く）を受けた症例の割合

意義：脳梗塞の治療に際して急性期に抗血小板療法もしくは抗凝固療法を開始することが勧められる。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の脳梗塞かTIAの診断で入院した症例

分子：分母のうち、入院2日目までに抗血小板療法もしくは抗凝固療法（ワルファリン、ヘパリンを除く）を受けた症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、脳梗塞かTIAの診断で入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ3

ICD-10コード	病名
I63\$	脳梗塞
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群

- 4：このうち、脳卒中の発症時期が3日以内の症例。2010年度～2011年度 脳卒中の発症時期に入力された日付が、入院日より3日以内。
例： 2010年9月10日発症 2010年9月13日入院 →4日目入院であり含めない。2012年度～ 脳卒中の発症時期「1（発症3日以内）」
- 5：このうち、t-PA治療を受けた症例を除外する。E/Fファイルの薬剤情報の点数コードに、以下のいずれかの薬価基準コードに対応するレセ電コードが含まれる症例。

分母のデータ5

薬価基準コード上7ケタ	成分名	2010	2012	2014	2016	2018
3959402	アルテプラゼ	○	○	○	○	○

- 6：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：I. 抗血小板療法もしくは抗凝固療法（ワルファリン、ヘパリンを除く）を入院から2日目までに施行された症例（入院日を第1日目とする）。 E/Fファイルの薬剤情報の点数コードに、以下のいずれかの薬価基準コードに対応するレセ電コードが含まれる症例。

分子のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1143001	アスピリン	○	○	○	○	○	○
1143010	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○
1143700	アスピリン	○	○				
2190408	アルガトロバン水和物	○	○	○	○	○	○
3399007	アスピリン	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
3399100	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○
3399101	クロピドグレル硫酸塩・アスピリン		○	○	○	○	○
3399102	アスピリン・ランソプラゾール			○	○	○	○
3399103	アスピリン・ボノブラザンフマル酸塩						○
3999411	オザグレルナトリウム	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: アルテプラゼ投与後24時間以内に、抗凝固薬、抗血小板薬もしくは血栓溶解薬を投与した場合の安全性と有効性は確立していない (rt-PA (アルテプラゼ) 静注療法 適正治療指針 第二版) ため、分母から除外している ガイドラインでは、抗凝固薬としてのヘパリンの使用はグレードC1で考慮してもよいという推奨にとどまっているため分子から除外している: 脳卒中治療ガイドライン2009および2015 抗凝固薬としてのワルファリンは、心原性脳梗塞に適応であり、また効果の発現まで時間を要するため分子から除外している このほか抗血小板療法をしない医学的理由の情報が得られる場合は、その症例を分母から除外するのが望ましい

2: 2020年5月にアスピリン/ボノブラザンフマル酸塩配合剤が新規販売開始で追加した。

参考値:

参考資料:

1: 薬剤成分名は、以下を参照 <http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/03/tp120305-01.html> Anticoagulants and antiplatelet agents in acute ischemic stroke: report of the Joint Stroke Guideline Development Committee of the American Academy of Neurology and the American Stroke Association (a division of the American Heart Association). Guidelines for the early management of adults with ischemic stroke. A guideline from the American Heart Association/American Stroke Association Stroke Council, Clinical Cardiology Council, Cardiovascular Radiology and Intervention Council, and the Atherosclerotic Peripheral Vascular Disease and Quality of Care Outcomes in Research Interdisciplinary Working Groups. Guidelines for prevention of stroke in patients with ischemic stroke or transient ischemic attack. Update to the AHA/ASA recommendations for the prevention of stroke in patients with stroke and transient ischemic attack.

2: 脳卒中治療ガイドライン2009および2015 (1-4. 急性期抗血小板療法)

3: 脳卒中ガイドライン2015. p58. 1-2, p64. 1-4

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：経皮的冠動脈形成術（PTCA）を受けた後、同日あるいは翌日までに冠動脈バイパス術（CABG）を受けた割合

指標番号：

QIP：0598

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：循環器系疾患

名称：経皮的冠動脈形成術（PTCA）を受けた後、同日あるいは翌日までに冠動脈バイパス術（CABG）を受けた割合

意義：治療成績

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上のPTCA件数

分子：分母のうち、同日あるいは翌日までにCABGを受けた件数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：実施日が解析期間のケースを対象とする。
- 2：このうち、EFファイルより以下のPTCAを受けたケースを対象とする。ケースはEFファイルの（施設コード,データ識別番号,退院年月日,入院年月日,実施年月日）で1ケース。

分母のデータ2

レセ電コード	手術点数コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150153910	K546	経皮的冠動脈形成術	○	○				
150374910	K5461	経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞）			○	○	○	○
150375010	K5462	経皮的冠動脈形成術（不安定狭心症）			○	○	○	○
150375110	K5463	経皮的冠動脈形成術（その他）			○	○	○	○
150260350	K547	経皮的冠動脈粥腫切除術	○	○	○	○	○	○
150263310	K549	経皮的冠動脈ステント留置術	○	○				
150375210	K5491	経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞）			○	○	○	○
150375310	K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）			○	○	○	○
150375410	K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）			○	○	○	○
150284310	K5481	経皮的冠動脈形成術（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテル）	○	○	○	○	○	○
150318310	K550-2	経皮的冠動脈血栓吸引術	○	○	○	○	○	○
160107550	K550	冠動脈内血栓溶解療法	○	○	○	○	○	○

- 3：このうち、各ケースにつき様式1の生年月日、入院年月日より入院時年齢を求め、18歳以上のケースのみ対象とする。

- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：分母のうち、PTCA手技施行の同日もしくは翌日にCABGを受けたケース。EFファイルより、以下の処置を受けたケース

分子のデータ1

レセ電コード（診療行為コード）	手術点数コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150145910	K552-01	冠動脈、大動脈バイパス移植術（1吻合）	○	○	○	○	○	○
150146010	K552-02	冠動脈、大動脈バイパス移植術（2吻合以上）	○	○	○	○	○	○

レセ電コード（診療行為コード）	手術点数コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150302770	K551-01	冠動脈形成術（血栓内膜摘除）併施加算 1箇所のもの	○	○	○	○	○	○
150302770	K551-02	冠動脈形成術（血栓内膜摘除）併施加算 2箇所以上のもの	○	○	○	○	○	○
150318410	K552-21	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺不使用）（1例 合）	○	○	○	○	○	○
150318510	K552-22	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺不使用）（2例 合以上）	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

- 1: 同日に施行されたPTCA とCABGは、どちらが先に施行されたものかは判別できない。
- 2: PTCAに積極的な病院や医師は、比較的困難な症例にPTCAを適用し、結果的に続くCABGが増加する可能性があり、解釈への検討が考慮されるべき可能性がある。
- 3: PTCAを複数回受ける場合があり、計測単位は入院患者数ではなく、実施件数にする。このため複数回のPTCAにより算出される割合が低くなる可能性がある。
- 4: MICS普及に伴いハイブリッド冠動脈形成術もエビデンスはないが多少あると考えられる

参考値:

参考資料:

- 1: Australian Council on Healthcare Standards (ACHS). ACHS clinical indicator users' manual 2010. ULTIMO NSW: Australian Council on Healthcare Standards (ACHS); 2010 Jan. 810 p.
- 2: 安定冠動脈疾患の血行再建ガイドライン （2018 年改訂版）

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、退院時に抗血小板薬を処方された症例

指標番号：

QIP：0837

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：脳卒中

名称：脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、退院時に抗血小板薬を処方された症例

意義：脳梗塞の3次予防に抗血小板薬は有効である。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の脳梗塞かTIAの診断で入院した症例

分子：分母のうち、退院時に抗血小板薬を処方された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、在院日数が12●日以下の症例
- 4：このうち、脳梗塞かTIAの診断で入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ4	
ICD-10コード	病名
I63\$	脳梗塞
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群

- 5：このうち、退院時に抗凝固薬を処方された症例を除外する。Fファイル、もしくはEFファイルにおいて、退院時に以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。退院時処方の判定：2010年度～2015年度：FファイルもしくはEFファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」2016年度～：EF-17・F-19 行為明細区分情報（12桁の数値）の1桁目「退院時処方区分」が「1」

分母のデータ5

薬価基準コード上7ケタ	薬剤名	2010	2012	2014	2016	2018
3332001	ワルファリンカリウム	○	○	○	○	○
3339001	ダビガトランエテキシラート	○	○	○	○	○
3339002	エドキサバントシル酸		○	○	○	○
3339003	リバーロキサバン		○	○	○	○
3339004	アピキサバン		○	○	○	○

- 6：このうち、退院時転帰が「6. 最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7. 最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。
- 7：このうち退院先が不明、転院の症例は除外する。2010年度～2013年度 退院先「● 不明、4 転院」を除外する。2014年度以降退院先「4 他の病院・診療所への転院」を除外する。
- 8：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：抗血小板薬を退院時に処方された症例。Fファイル、もしくはEFファイルにおいて、退院時に以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。退院時処方の判定：2010年度～2015年度：FファイルもしくはEFファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」2016年度～：EF-17・F-19 行為明細区分情報（12桁の数値）の1桁目「退院時処方区分」が「1」

分子のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1143001	アスピリン	○	○	○	○	○	○
1143010	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○
1143700	アスピリン	○	○				
2190408	アルガトロバン水和物	○	○	○	○	○	○
3399007	アスピリン	○	○	○	○	○	○
3399100	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○
3399101	クロピドグレル硫酸塩・アスピリン		○	○	○	○	○
3399102	アスピリン・ランソプラゾール			○	○	○	○
3399103	アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩						○
3999411	オザグレルナトリウム	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: 非心原性脳梗塞の再発予防には、抗凝固薬よりも抗血小板薬の投与が（2015年ガイドラインでは強く）推奨される（グレードA）
脳卒中治療ガイドライン2009、2015 非心原性TIAの脳梗塞発症予防には抗血小板療法が推奨される（グレードA）
脳卒中治療ガイドライン2009 TIA急性期以降の治療は、脳梗塞の再発予防に準じて行う
脳卒中治療ガイドライン2015 抗血小板薬を投与しない医学的理由の情報が得られる場合は、その症例を分母から除外することが望ましい

2: 2020年5月にアスピリン/ボノプラザンフマル酸塩配合剤が新規販売開始で追加した。

参考値:

参考資料:

1: Albers GW, et al. Antithrombotic and thrombolytic therapy for ischemic stroke. Chest 2001 Jan;119(1 Suppl):300S-20S. American Academy of Neurology, American College of Radiology, Physician Consortium for Performance Improvement®, National Committee for Quality Assurance. Stroke and stroke rehabilitation physician performance measurement set. Chicago (IL): American Medical Association (AMA), National Committee for Quality Assurance (NCQA); 2009 Feb. 20 p. Sacco RL, et al. Guidelines for prevention of stroke in patients with ischemic stroke or transient ischemic attack: a statement for healthcare professionals from the American Heart Association/American Stroke Association Council on Stroke [trunc]. Stroke 2006 Feb;37(2):577-617. Anticoagulants and antiplatelet agents in acute ischemic stroke: report of the Joint Stroke Guideline Development Committee of the American Academy of Neurology and the American Stroke Association (a division of the American Heart Association). Guidelines for the early management of adults with ischemic stroke. A guideline from the American Heart Association/American Stroke Association Stroke Council, Clinical Cardiology Council, Cardiovascular Radiology and Intervention Council, and the Atherosclerotic Peripheral Vascular Disease and Quality of Care Outcomes in Research Interdisciplinary Working Groups. Guidelines for prevention of stroke in patients with ischemic stroke or transient ischemic attack. Update to the AHA/ASA recommendations for the prevention of stroke in patients with stroke and transient ischemic attack.

2: 脳卒中治療ガイドライン2009および2015 （1-4. 急性期抗血小板療法）

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、入院中に未分画ヘパリンを投与されなかった症例の割合

指標番号：

QIP：0842

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：脳卒中

名称：脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、入院中に未分画ヘパリンを投与されなかった症例の割合

意義：脳梗塞の治療に際して未分画ヘパリンの静脈投与は原則として勧められない。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の脳梗塞かTIAの診断で入院した症例

分子：分母のうち、未分画ヘパリンを投与されなかった症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、脳梗塞かTIAの診断で入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ3

ICD-10コード	病名
I63\$	脳梗塞
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群

- 4：このうち、頸動脈内膜剥離術（CEA）かステント留置術（CAS）を受けた症例を除外する。手術情報の点数コードのいずれか（5フィールド）に以下のいずれかが含まれる症例 ※1:区分K609枝0項2。※2:区分K609枝2項0。

分母のデータ4

手術点数コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
K6092※1	動脈血栓内膜摘出術	○	○	○	○	○	○
K609-2※2	経皮的頸動脈ステント留置術	○	○	○	○	○	○

- 5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：未分画ヘパリンを入院中に投与されなかった症例。E/Fファイルの薬剤情報の点数コードに、以下のいずれかの薬価基準コードに対応するレセ電コードが含まれなかった症例。

分子のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
3334400	ヘパリンカルシウム	○	○	○	○	○	○
3334401	ヘパリンナトリウム	○	○	○	○	○	○
3334402	ヘパリンナトリウム	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: 未分画ヘパリンを投与する医学的理由の情報が得られる場合は、その症例を分母から除外する。

参考値:

参考資料:

1: American Academy of Neurology, American College of Radiology, Physician Consortium for Performance Improvement®, National Committee for Quality Assurance. Stroke and stroke rehabilitation physician performance measurement set. Chicago (IL): American Medical Association (AMA), National Committee for Quality Assurance (NCQA); 2009 Feb. 20 p. Coull BM, et al. Anticoagulants and antiplatelet agents in acute ischemic stroke: report of the Joint Stroke Guideline Development Committee of the American Academy of Neurology and the American Stroke Association (a division of the American Heart Association). Neurology 2002 Jul 9;59(1):13-22.

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：脳梗塞の診断で入院し、リハビリ治療を受けた症例の割合

指標番号：

QIP：2004

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：脳卒中

名称：脳梗塞の診断で入院し、リハビリ治療を受けた症例の割合

意義：脳卒中後のリハビリは、機能の早期回復と低下抑制につながる。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子：分母のうち、脳血管リハビリテーション治療を受けた症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、脳梗塞のため入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10コードとして「I63\$」（脳梗塞）が含まれる症例
- 4：7日以内の死亡退院症例を除外する（入院日を1として、退院日が7日目以内でかつ退院時転帰が「6．最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7．最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。）
- 5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：脳血管疾患等リハビリテーションを受けた症例 レセ電コードに以下のいずれかが含まれる症例

分子のデータ1

診療行為コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（その他）	1	0	0	0	0	0
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）	0	0	0	1	1	1
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（その他）	1	0	0	0	0	0
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）	0	0	0	1	1	1
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（その他）	1	0	0	0	0	0
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）	0	0	0	1	1	1
180032410	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（廃用症候群）	1	1	1	1	0	0
180032510	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（廃用症候群）	1	1	1	1	0	0
180032610	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（廃用症候群）	1	1	1	1	0	0
180033910	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護・廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180033910	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護・入院外）	0	0	0	1	1	1
180034010	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護・廃用症候群）	0	1	1	1	0	0
180034110	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護・廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180034110	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（要介護・入院外）	0	0	0	1	1	1

診療行為コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
180034210	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・廃用症候群）	0	1	1	1	0	0
180034310	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180034310	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・入院外）	0	0	0	1	1	1
180034410	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・廃用症候群）	0	1	1	1	0	0
180043430	脳血管疾患等リハビリテーション料１（要介・廃用症以外）基準不適合	0	0	1	0	0	0
180043430	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護）基準不適合	0	0	0	1	1	1
180043530	脳血管疾患等リハビリテーション料１（要介・廃用症）基準不適合	0	0	1	1	0	0
180043630	脳血管疾患等リハビリテーション料２（要介・廃用症以外）基準不適合	0	0	1	0	0	0
180043630	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護）基準不適合	0	0	0	1	1	1
180043730	脳血管疾患等リハビリテーション料２（要介・廃用症）基準不適合	0	0	1	1	0	0
180043830	脳血管疾患等リハビリテーション料３（要介・廃用症以外）基準不適合	0	0	1	0	0	0
180043830	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護）基準不適合	0	0	0	1	1	1
180043930	脳血管疾患等リハビリテーション料３（要介・廃用症）基準不適合	0	0	1	1	0	0
180044310	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護・入院）	0	0	0	1	1	1
180044410	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・入院）	0	0	0	1	1	1
180044510	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・入院）	0	0	0	1	1	1
180050330	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050430	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050530	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050630	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護・入院）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050730	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護・入院外）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050830	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・入院）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050930	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・入院外）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180051030	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・入院）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180051130	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・入院外）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180051230	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護）基準不適合・リ減	0	0	0	1	1	1
180051330	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護）基準不適合・リ減	0	0	0	1	1	1
180051430	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護）基準不適合・リ減	0	0	0	1	1	1

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- １：適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。
- ２：2018年計測時より定義を変更し、除外条件の死亡退院を7日以内の死亡退院に変更

参考値：

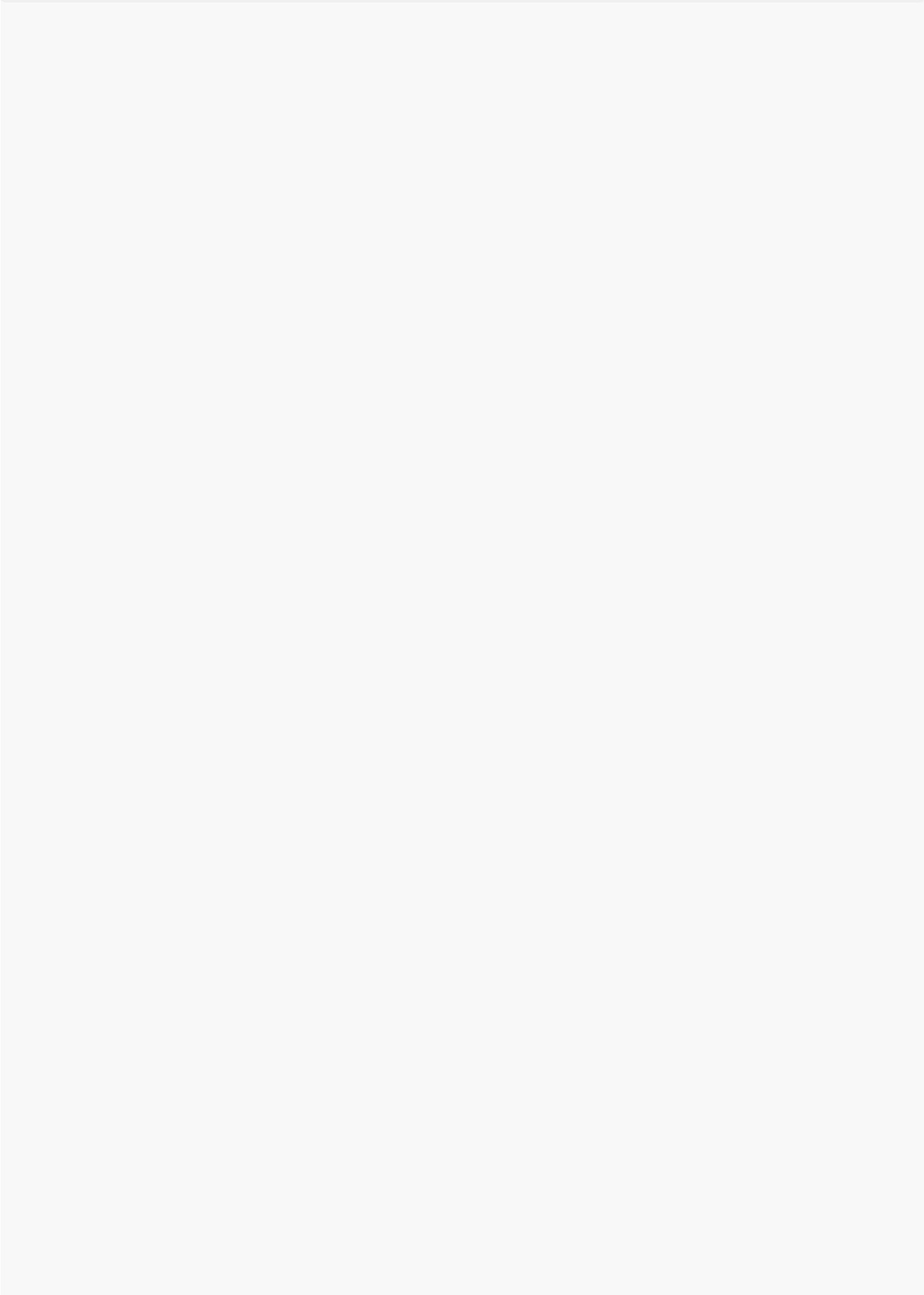
- １：QIPの過去の指標では60%前後。

参考資料：

１：American Heart Association. Heart disease and stroke statistics - 2008 update. Dallas (TX): American Heart Association; 2008. 43 p.

２：脳卒中治療ガイドライン2009および2015（VII リハビリテーション）

定義見直しのタイミング：



名称：脳梗塞の診断で入院し、入院後早期にリハビリ治療を受けた症例の割合

指標番号：

QIP：2005

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：脳卒中

名称：脳梗塞の診断で入院し、入院後早期にリハビリ治療を受けた症例の割合

意義：脳卒中の診断後、できるだけ早期にリハビリを開始することが、機能の早期回復と低下抑制につながる。

必要データセット：DPC様式1 Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子：分母のうち、入院後早期（3日以内）に脳血管リハビリテーション治療を受けた症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、脳梗塞のため入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10コードとして「I63\$」（脳梗塞）が含まれる症例
- 4：このうち、脳卒中の発症時期が3日以内の症例 2010年度～2011年度 脳卒中の発症時期に入力された日付が、入院日より3日以内
例： 2010年9月10日発症 2010年9月13日入院 →4日目入院であり含めない 2012年度～ 脳卒中の発症時期「1（発症3日以内）」
- 5：このうち、7日以内の死亡退院症例を除外する（入院日を1として、退院日が7日目以内でかつ退院時転帰が「6．最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7．最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。）
- 6：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：入院後3日以内に脳血管疾患等リハビリテーションを受けた症例 入院日後3日以内（入院日を1とする）に、レセ電コードに以下のいずれかが含まれる症例

分子のデータ1

診療行為コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（その他）	1	0	0	0	0	0
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180027610	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）	0	0	0	1	1	1
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（その他）	1	0	0	0	0	0
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180027710	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）	0	0	0	1	1	1
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（その他）	1	0	0	0	0	0
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180030810	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）	0	0	0	1	1	1
180032410	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（廃用症候群）	1	1	1	1	0	0
180032510	脳血管疾患等リハビリテーション料（2）（廃用症候群）	1	1	1	1	0	0
180032610	脳血管疾患等リハビリテーション料（3）（廃用症候群）	1	1	1	1	0	0
180033910	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護・廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180033910	脳血管疾患等リハビリテーション料（1）（要介護・入院外）	0	0	0	1	1	1

診療行為コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
180034010	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護・廃用症候群）	0	1	1	1	0	0
180034110	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180034110	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・入院外）	0	0	0	1	1	1
180034210	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・廃用症候群）	0	1	1	1	0	0
180034310	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・廃用症候群以外）	0	1	1	0	0	0
180034310	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・入院外）	0	0	0	1	1	1
180034410	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・廃用症候群）	0	1	1	1	0	0
180043430	脳血管疾患等リハビリテーション料１（要介・廃用症以外）基準不適合	0	0	1	0	0	0
180043430	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護）基準不適合	0	0	0	1	1	1
180043530	脳血管疾患等リハビリテーション料１（要介・廃用症）基準不適合	0	0	1	1	0	0
180043630	脳血管疾患等リハビリテーション料２（要介・廃用症以外）基準不適合	0	0	1	0	0	0
180043630	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護）基準不適合	0	0	0	1	1	1
180043730	脳血管疾患等リハビリテーション料２（要介・廃用症）基準不適合	0	0	1	1	0	0
180043830	脳血管疾患等リハビリテーション料３（要介・廃用症以外）基準不適合	0	0	1	0	0	0
180043830	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護）基準不適合	0	0	0	1	1	1
180043930	脳血管疾患等リハビリテーション料３（要介・廃用症）基準不適合	0	0	1	1	0	0
180044310	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護・入院）	0	0	0	1	1	1
180044410	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・入院）	0	0	0	1	1	1
180044510	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・入院）	0	0	0	1	1	1
180050330	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050430	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050530	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050630	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護・入院）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050730	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護・入院外）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050830	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・入院）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180050930	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護・入院外）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180051030	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・入院）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180051130	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護・入院外）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180051230	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）（要介護）基準不適合・リ減	0	0	0	1	1	1
180051330	脳血管疾患等リハビリテーション料（２）（要介護）基準不適合・リ減	0	0	0	1	1	1
180051430	脳血管疾患等リハビリテーション料（３）（要介護）基準不適合・リ減	0	0	0	1	1	1

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

- 適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。
- 2018年計測時より定義を変更し、除外条件の死亡退院を7日以内の死亡退院に変更

参考値:

- QIPの過去の指標では80%前後。

参考資料:

- American Heart Association. Heart disease and stroke statistics - 2008 update. Dallas (TX): American Heart

Association; 2008. 43 p.

2：脳卒中治療ガイドライン2009および2015（VII リハビリテーション）

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：心不全患者へのβブロッカー投与の割合

指標番号：

QIP：2006

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：循環器系疾患 薬剤

名称：心不全患者へのβブロッカー投与の割合

意義：治療内容をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：心不全で入院した症例数

分子：分母のうち、βブロッカーが投与された症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、心不全の診断を受けた症例。 資源を最も投入した傷病名のICD-10コードが下記である症例

分母のデータ2

ICD-10コード	病名
I50\$	心不全

- 3：このうち、退院日が入院後3日以降である症例。（入院日を1とする）。

- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：βブロッカーが処方されている症例。 Fファイル、もしくはEFファイルにおいて、以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。

分子のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
2123001	アセブトロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2123002	アルプレノロール塩酸塩	○	○	○	○		
2123004	オクスプレノロール塩酸塩	○	○				
2123005	カルテオロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2123006	ブフェトロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2123008	プロプラノロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2123009	ピンドロール	○	○	○	○	○	○
2123011	アテノロール	○	○	○	○	○	○
2123014	アロチノロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2123015	ナドロール	○	○	○	○	○	○
2123016	ビソプロロールフマル酸塩	○	○	○	○	○	○
2123402	プロプラノロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2123404	ランジオロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2123405	エスモロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2149009	ラベタロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
2149010	メトプロロール酒石酸塩	○	○	○	○	○	○
2149011	ピンドロール	○	○	○	○	○	○
2149014	プロプラノロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2149018	アモスラロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2149021	ニプラジロール	○	○	○	○	○	○
2149025	カルテオロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2149028	チリソロール塩酸塩	○	○				
2149029	セリプロロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2149031	ベタキシロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2149032	カルベジロール	○	○	○	○	○	○
2149033	ボピンドロール マロン酸塩	○					
2149036	ベバントロール塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2149700	ビソプロロール		○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

1：アレルギーなどの適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。

参考値：

1：QIPの過去の指標では35%前後。

参考資料：

1：「慢性心不全治療ガイドライン(2005年改訂版)」「急性心不全治療ガイドライン(2006年改訂版)」日本循環器学会

2：急性・慢性心不全診療ガイドライン（2017年改訂版）（日本循環器学会/日本心不全学会合同ガイドライン）日本循環器学会

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：心不全患者へのACE阻害剤もしくはアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤投与の割合

指標番号：

QIP：2007

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：循環器系疾患 薬剤

名称：心不全患者へのACE阻害剤もしくはアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤投与の割合

意義：治療内容をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：心不全で入院した症例数

分子：分母のうちACE阻害剤(ACEI)もしくはアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤(ARB)が投与された症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、心不全の診断を受けた症例。 資源を最も投入した傷病名のICD-10コードが下記である症例

分母のデータ2	
□ICD-10コード	病名
I50\$	心不全

- 3：このうち、退院日が入院後3日以降である症例。（入院日を1とする）。
- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：ACEIもしくはARBが処方されている症例。 Fファイル、もしくはEFファイルにおいて、以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。

分子のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
2144001	カプトプリル	○	○	○	○	○	○
2144002	エナラプリルマレイン酸塩	○	○	○	○	○	○
2144003	アラセプリル	○	○	○	○	○	○
2144004	デラプリル塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2144005	シラザプリル水和物	○	○	○	○	○	○
2144006	リシノプリル水和物	○	○	○	○	○	○
2144007	ベナゼプリル塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2144009	テモカプリル塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2144010	キナプリル塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2144011	トランドラプリル	○	○	○	○	○	○
2144012	ペリンドプリルエルブミン	○	○	○	○	○	○
2149039	ロサルタンカリウム	○	○	○	○	○	○
2149040	カンデサルタンシレキセチル	○	○	○	○	○	○
2149041	バルサルタン	○	○	○	○	○	○
2149042	テルミサルタン	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
2149044	オルメサルタンメドキシミル	○	○	○	○	○	○
2149046	イルベサルタン	○	○	○	○	○	○
2149047	アリスキレンフマル酸塩	○	○	○	○	○	○
2149048	アジルサルタン		○	○	○	○	○
2149110	ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド	○	○	○	○	○	○
2149111	カンデサルタンシレキセチル・ヒドロクロロチアジド	○	○	○	○	○	○
2149112	バルサルタン・ヒドロクロロチアジド	○	○	○	○	○	○
2149113	テルミサルタン・ヒドロクロロチアジド	○	○	○	○	○	○
2149114	バルサルタン・アムロジピンベシル酸塩	○	○	○	○	○	○
2149115	オルメサルタンメドキシミル・アゼルニジピン	○	○	○	○	○	○
2149116	カンデサルタンシレキセチル・アムロジピンベシル酸塩	○	○	○	○	○	○
2149117	テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩	○	○	○	○	○	○
2149118	イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩		○	○	○	○	○
2149119	イルベサルタン・トリクロルメチアジド		○	○	○	○	○
2149120	バルサルタン・シルニジピン			○	○	○	○
2149121	アジルサルタン・アムロジピンベシル酸塩			○	○	○	○
2149122	テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩・ヒドロクロロチアジド				○	○	○

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: アレルギーや左室機能不全ではないなどの適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。

参考値:

1: QIPの過去の指標では45%前後。

参考資料:

1: 「慢性心不全治療ガイドライン(2005年改訂版)」「急性心不全治療ガイドライン(2006年改訂版)」日本循環器学会

2: 急性・慢性心不全診療ガイドライン(2017年改訂版)(日本循環器学会/日本心不全学会合同ガイドライン) 日本循環器学会

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：抗MRSA薬投与に対して、薬物血中濃度を測定された症例の割合

指標番号：

QIP：2023

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：感染症

名称：抗MRSA薬投与に対して、薬物血中濃度を測定された症例の割合

意義：抗MRSA薬の使用に際し、有効血中濃度の維持、副作用の抑制、耐性化の回避のため、治療薬物モニタリング（TDM）が重要である。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：TDMを行うべき抗MRSA薬を投与された症例数

分子：分母のうち、薬物血中濃度を測定された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、TDMを行うべき抗MRSA薬を注射で4日以上投与された症例。E/Fファイルの薬剤情報の点数コードに、以下のいずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが4日以上含まれる症例。

分母のデータ2								
成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
バンコマイシン塩酸塩	注射薬	6113400	○	○	○	○	○	○
アルベカシン硫酸塩	注射薬	6119400	○	○	○	○	○	○
テイコプラニン	注射薬	6119401	○	○	○	○	○	○
バンコマイシン塩酸塩	内服薬	6113001	○	○	○	○	○	○

- 3：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：特定薬剤治療管理料を算定された症例。E/Fファイルの診療行為の点数コードのいずれかに以下が含まれる症例

分子のデータ1								
診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020
113000410	特定薬剤治療管理料 1	B001_2	○	○	○	○	○	○
113000510	特定薬剤治療管理料 1（第4月目以降）	B001_2	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：TDMは特定薬剤治療管理として月に1回のみの算定が可能である。このため、継続的なモニタリングがされているかなど、モニタリングの質は考慮できない。

参考値：

参考資料：

1：薬剤成分名は、以下を参照。<http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/03/tp120305-01.html>

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：市中肺炎症例に対し、尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例

指標番号：

QIP：2031_4

年度：2012, 2014, 2016, 2018

更新日：2020-03-23

指標群：感染症系

名称：市中肺炎症例に対し、尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例

意義：病原微生物の同定は、治療の最適化や耐性菌の対策上重要である。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル Dファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の市中肺炎症例

分子：分母のうち、尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、市中肺炎症例。DPCコードの上6桁が040070（インフルエンザ、ウイルス性肺炎）、040080（肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎）いずれかでかつ、肺炎の重症度分類の7桁目（コードでは8．院内肺炎、市中肺炎）が「5」（市中肺炎）の症例
- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例。診療行為の点数コードのいずれかに以下が含まれる症例

分子のデータ1

診療行為コード	検査点数コード	名称	2010	2012	2014	2016
160104250	D012-21	尿中肺炎球菌抗原	○	○		
160177150	D012-27	尿中肺炎球菌莢膜抗原	○	○		
160188850	D012-27	肺炎球菌細胞壁抗原（定性）		○		
160104250	D012-25	肺炎球菌抗原定性（尿）			○	○
160177150	D012-36	肺炎球菌莢膜抗原定性（尿）			○	○
160188850	D012-35	肺炎球菌細胞壁抗原定性			○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：必ずしもすべての症例に必要な検査ではなく、100%を目指す指標ではない。
- 2：Dファイルのない場合の結果は参考値（QIPでは疑似的にDPCコードを生成し、そのコードを利用し指標値を算出している）

参考値：

参考資料：

- 1：成人市中肺炎診療ガイドライン

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-03-23

名称：市中肺炎症例に対し、入院当日から抗菌薬を投与された症例

指標番号：

QIP：2031_6

年度：2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：感染症系

名称：市中肺炎症例に対し、入院当日から抗菌薬を投与された症例

意義：早期診断並びに治療の適時性

必要データセット：DPC様式1 EFファイル Dファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の市中肺炎症例

分子：分母のうち、入院当日から抗菌薬を投与された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、市中肺炎症例。DPCコードの上6桁が040070（インフルエンザ、ウイルス性肺炎）、040080（肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎）いずれかであつ、肺炎の重症度分類の7桁目（コードでは8．院内肺炎、市中肺炎）が「5」（市中肺炎）の症例
- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：入院日と同一日に抗菌薬（内服薬もしくは注射薬）を投与された症例。EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる症例。※薬価基準コード上7桁について、上2～4ケタ情報を利用、「xxx」は001～699として内服薬・注射薬を指定

分子のデータ1

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2012	2014	2016	2018	2020
ベンジルペニシリンカリウム	注射薬	6111400	○	○	○	○	○
リンコマイシン塩酸塩水和物	注射薬	6112400	○	○	○	○	○
クリンダマイシンリン酸エステル	注射薬	6112401	○	○	○	○	○
バンコマイシン塩酸塩	注射薬	6113400	○	○	○	○	○
アルベカシン硫酸塩	注射薬	6119400	○	○	○	○	○
ティコプラニン	注射薬	6119401	○	○	○	○	○
ダブトマイシン	注射薬	6119402	○	○	○	○	○
キヌプリスチン・ダルホプリスチン	注射薬	6119500	○	○	○	○	○
アズトレオナム	注射薬	6122400	○	○	○	○	○
トブラマイシン	注射薬	6123401	○	○	○	○	○
アミカシン硫酸塩	注射薬	6123402	○	○	○	○	○
イセパマイシン硫酸塩	注射薬	6123404	○	○	○	○	○
スペクチノマイシン塩酸塩水和物	注射薬	6124400	○	○	○	○	○
コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	注射薬	6125400	○	○	○	○	○
チゲサイクリン	注射薬	6129400	○	○	○	○	○
アンピシリンナトリウム	注射薬	6131400	○	○	○	○	○

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2012	2014	2016	2018	2020
ピペラシリンナトリウム	注射薬	6131403	○	○	○	○	○
アスポキシリン水和物	注射薬	6131405	○				
セフォチアム塩酸塩	注射薬	6132400	○	○	○	○	○
セファゾリンナトリウム	注射薬	6132401	○	○	○	○	○
セファロチンナトリウム	注射薬	6132403	○	○	○	○	○
セフメタゾールナトリウム	注射薬	6132408	○	○	○	○	○
セフォタキシムナトリウム	注射薬	6132409	○	○	○	○	○
セフォペラゾンナトリウム	注射薬	6132410	○	○	○		
セフメノキシム塩酸塩	注射薬	6132413	○	○	○	○	○
セフトジジム水和物	注射薬	6132418	○	○	○	○	○
セフトリアキソンナトリウム水和物	注射薬	6132419	○	○	○	○	○
セフミノクスナトリウム水和物	注射薬	6132422	○	○	○	○	○
セフォジジムナトリウム	注射薬	6132423	○	○	○		
セフピロム硫酸塩	注射薬	6132424	○	○	○	○	○
セフェピム塩酸塩水和物	注射薬	6132425	○	○	○	○	○
セフォゾラン塩酸塩	注射薬	6132426	○	○	○	○	○
ラタモキシフナトリウム	注射薬	6133400	○	○	○	○	○
フロモキシフナトリウム	注射薬	6133401	○	○	○	○	○
ジベカシン硫酸塩	注射薬	6134400	○	○	○	○	○
リボスタマイシン硫酸塩	注射薬	6134401	○	○	○		
ゲンタマイシン硫酸塩	注射薬	6134407	○	○	○	○	○
ホスホマイシンナトリウム	注射薬	6135400	○	○	○	○	○
メロペネム水和物	注射薬	6139400	○	○	○	○	○
ビアペネム	注射薬	6139401	○	○	○	○	○
ドリペネム水和物	注射薬	6139402	○	○	○	○	○
スルバクタムナトリウム・セフォペラゾンナトリウム	注射薬	6139500	○	○	○	○	○
セフォペラゾンナトリウム・スルバクタムナトリウム	注射薬	6139500					○
イミペネム水和物・シラスタチンナトリウム	注射薬	6139501	○	○	○	○	○
パニペネム・ベタミプロン	注射薬	6139503	○	○	○	○	○
スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム	注射薬	6139504	○	○	○	○	○
タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	注射薬	6139505	○	○	○	○	○
セフトロザン硫酸塩・タゾバクタムナトリウム	注射薬	6139506				○	○
エリスロマイシンラクトビオン酸塩	注射薬	6141400	○	○	○	○	○
アジスロマイシン水和物	注射薬	6149400	○	○	○	○	○
クロラムフェニコールコハク酸エステルナトリウム	注射薬	6151401	○	○	○	○	○
ミノサイクリン塩酸塩	注射薬	6152401	○	○	○	○	○
ストレプトマイシン硫酸塩	注射薬	6161400	○	○	○	○	○
エンビオマイシン硫酸塩	注射薬	6165400	○	○	○	○	○
カナマイシン硫酸塩	注射薬	6169400	○	○	○	○	○
アムホテリシンB	注射薬	6173400	○	○	○	○	○
ミカファンギンナトリウム	注射薬	6179400	○	○	○	○	○
ボリコナゾール	注射薬	6179401	○	○	○	○	○
カスポファンギン酢酸塩	注射薬	6179402	○	○	○	○	○

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2012	2014	2016	2018	2020
ボサコナゾール	注射薬	6179403					○
スルファジメトキシシ	注射薬	6213400	○	○	○		
ミコナゾール	注射薬	6290400	○	○	○	○	○
フルコナゾール	注射薬	6290401	○	○	○	○	○
ホスフルコナゾール	注射薬	6290402	○	○	○	○	○
イトラコナゾール	注射薬	6290403	○	○	○	○	○
ベンジルペニシリンベンザチン水和物	内服薬	6111002	○	○	○	○	○
クリンダマイシン塩酸塩	内服薬	6112001	○	○	○	○	○
リンコマイシン塩酸塩水和物	内服薬	6112003	○	○	○	○	○
バンコマイシン塩酸塩	内服薬	6113001	○	○	○	○	○
フィダキソマイシン	内服薬	6119001				○	○
ピブメシリナム塩酸塩	内服薬	6121001	○	○			
カナマイシンー硫酸塩	内服薬	6123003	○	○	○	○	○
コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	内服薬	6125001		○	○	○	○
コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	内服薬	6125001	○	○	○	○	○
ポリミキシシムB硫酸塩	内服薬	6126001	○	○	○	○	○
セフチブテン水和物	内服薬	6129001	○	○	○	○	○
アモキシシリン水和物	内服薬	6131001	○	○	○	○	○
アンピシリン水和物	内服薬	6131002	○	○	○	○	○
バカンピシリン塩酸塩	内服薬	6131004	○	○	○	○	○
スルタミシリントシル酸塩水和物	内服薬	6131008	○	○	○	○	○
セファレキシ	内服薬	6132002	○	○	○	○	○
セファクロ	内服薬	6132005	○	○	○	○	○
セフロキサジン水和物	内服薬	6132006	○	○	○	○	○
セフィキシム	内服薬	6132008	○	○	○	○	○
セフテラム ピボキシ	内服薬	6132009	○	○	○	○	○
セフロキシム アキセチ	内服薬	6132010	○	○	○	○	○
セフポドキシム プロキセチ	内服薬	6132011	○	○	○	○	○
セフォチアム ヘキセチル塩酸塩	内服薬	6132012	○	○	○		
セフジニ	内服薬	6132013	○	○	○	○	○
セフジトレン ピボキシ	内服薬	6132015	○	○	○	○	○
セフカペン ピボキシ	内服薬	6132016	○	○	○	○	○
ホスホマイシンカルシウム水和物	内服薬	6135001	○	○	○	○	○
ファロペネムナトリウム水和物	内服薬	6139001	○	○	○	○	○
テビペネム ピボキシ	内服薬	6139002	○	○	○	○	○
アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム	内服薬	6139100	○	○	○	○	○
エリスロマイシンエチルコハク酸エステル	内服薬	6141001	○	○	○	○	○
エリスロマイシン	内服薬	6141002	○	○	○	○	○
エリスロマイシンステアリン酸塩	内服薬	6141004	○	○	○	○	○
スピラマイシン酢酸エステル	内服薬	6142001	○	○	○	○	○
ジョサマイシン	内服薬	6145001	○	○	○	○	○
ジョサマイシンプロピオン酸エステル	内服薬	6145002	○	○	○	○	○
ロキタマイシン	内服薬	6149001	○	○			

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2012	2014	2016	2018	2020
ロキシスロマイシン	内服薬	6149002	○	○	○	○	○
クラリスロマイシン	内服薬	6149003	○	○	○	○	○
アジスロマイシン水和物	内服薬	6149004	○	○	○	○	○
クロラムフェニコール	内服薬	6151001	○	○	○	○	○
テトラサイクリン塩酸塩	内服薬	6152002	○	○	○	○	○
デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	内服薬	6152003	○	○	○	○	○
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	内服薬	6152004	○	○	○	○	○
ミノサイクリン塩酸塩	内服薬	6152005	○	○	○	○	○
サイクロセリン	内服薬	6162001	○	○	○	○	○
リファンピシン	内服薬	6164001	○	○	○	○	○
リファブチン	内服薬	6169001	○	○	○	○	○
ナイスタチン	内服薬	6171001	○	○	○	○	
アムホテリシンB	内服薬	6173001	○	○	○	○	○
ボリコナゾール	内服薬	6179001	○	○	○	○	○
ボサコナゾール	内服薬	6179002					○
リファキシミン	内服薬	6199001			○	○	○
ランソプラゾール・アモキシシリン・クラリスロマイシン	内服薬	6199100	○	○	○	○	
ランソプラゾール・アモキシシリン・メトロニダゾール	内服薬	6199101	○	○	○	○	
ラベプラゾールナトリウム・アモキシシリン水和物・クラリスロマイシン	内服薬	6199102	○	○	○	○	○
ラベプラゾールナトリウム・アモキシシリン水和物・メトロニダゾール	内服薬	6199103	○	○	○	○	○
ボノプラザンフマル酸塩・アモキシシリン水和物・クラリスロマイシン	内服薬	6199104			○	○	○
ボノプラザンフマル酸塩・アモキシシリン水和物・メトロニダゾール	内服薬	6199105			○	○	○
スルファメトキサゾール	内服薬	6212002	○	○	○	○	○
スルファジメトキシ	内服薬	6213001	○	○			
スルファジメトキシ	内服薬	6213001	○	○	○		
サラゾスルファピリジン	内服薬	6219001	○	○	○	○	○
スルファメチゾール	内服薬	6219002	○	○	○	○	○
フルシトシン	内服薬	6290001	○	○	○	○	○
フルコナゾール	内服薬	6290002	○	○	○	○	○
ミコナゾール	内服薬	6290003	○	○	○	○	○
イトラコナゾール	内服薬	6290004	○	○	○	○	○
テルビナフィン塩酸塩	内服薬	6290005	○	○	○	○	○
アトバコン	内服薬	6290006	○	○	○	○	○
ホスラブコナゾール L - リシンエタノール付加物	内服薬	6290007				○	○
スルファメトキサゾール・トリメトプリム	内服薬	6290100	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1：成人市中肺炎診療ガイドラインでは、診断後4時間以内の抗生剤投与開始が勧められている。AHRQでは、4時間以内の投与を指標として提案している。投与時刻のデータがなく、日単位での把握では適時性を十分に評価できているとはいいいにくい。

2：Dファイルのない場合の結果は参考値（QIPでは疑似的にDPCコードを生成し、そのコードを利用し指標値を算出している）

参考値：

参考資料：

1：成人市中肺炎診療ガイドライン 日本標準商品分類（平成2年6月改定）中分類87 - 医薬品及び関連製品
http://www.soumu.go.jp/main_content/000294493.pdf

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：市中肺炎症例に対する、注射抗菌薬開始時の抗緑膿菌薬投与割合

指標番号：

QIP：2031_7

年度：2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：感染症系

名称：市中肺炎症例に対する、注射抗菌薬開始時の抗緑膿菌薬投与割合

意義：エンピリック治療における抗菌薬の選択

必要データセット：DPC様式1 EFファイル Dファイル

定義の要約：

分母：市中肺炎症例に対し、入院中に注射抗菌薬を投与された症例数

分子：分母のうち、注射抗菌薬の投与初日に、抗緑膿菌薬を処方された症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、市中肺炎症例。DPCコードの上6桁が040070（インフルエンザ、ウイルス性肺炎）、040080（肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎）いずれかでかつ、肺炎の重症度分類の7桁目（コードでは8．院内肺炎、市中肺炎）が「5」（市中肺炎）の症例
- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く
- 5：入院中に注射抗菌薬を投与された症例

分母のデータ5

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

分子の定義：

- 1：分母のうち、注射抗菌薬の投与初日に、抗緑膿菌薬を処方された症例数。EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる症例

分子のデータ1

薬価基準コード上7ケタ	系列	代表薬	成分名	記号
6131403	1. ペニシリン系	ペントシリン	ピペラシリン	PIPC
6139505	1. ペニシリン系	ゾシン	ピペラシリン/タゾバクタム	PIPC/TAZ
6132418	2. セフェム系	モダシン	セフトアジジム	CAZ
6132425	2. セフェム系	マキシピーム	セフェピム	CFPM
6132426	2. セフェム系	ファーストシン	セフォゾプラム	CZOP
6139500	2. セフェム系	スルペラゾン	スルバクタム・セフォペラゾン	SBT/CPZ

薬価基準コード上7ケタ	系列	代表薬	成分名	記号
6139501	3. カルバペネム系	チエナム	イミペネム/シラスタチン	IPM/CS
6139400	3. カルバペネム系	メロペン	メロペネム	MEPM
6139401	3. カルバペネム系	オメガシン	ビアペネム	BIPM
6139402	3. カルバペネム系	フィニバックス	ドリペネム	DRPM
6139503	3. カルバペネム系	カルベニン	パニペネム/ベタミブロン	PAPM/BP
6241013	4. ニューキノロン系	クラビット	レボフロキサシン	LVFX
6241400	4. ニューキノロン系	シプロキシサン(注射)	シプロフロキサシン	CPFX
6241008	4. ニューキノロン系	シプロキシサン(内服)	シプロフロキサシン	CPFX
6241401	4. ニューキノロン系	パシル	パズフロキサシン	PZFX
6134407	5. アミノグリコシド系	ゲンタシン(注射)	ゲンタマイシン	GM
6123402	5. アミノグリコシド系	アミカシン	アミカマイシン	AMK
6123401	5. アミノグリコシド系	トブラシン	トブラマイシン	T0B
6123404	5. アミノグリコシド系	イセパシン	イセパマイシン硫酸塩	ISP
6134400	5. アミノグリコシド系	パニマイシン	ジベカシン	DKB

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: 市中肺炎において緑膿菌が起因菌となることはまれであり、薬剤耐性の観点からも安易な抗緑膿菌薬の使用が多剤耐性菌のリスクとなることから、エンピリック治療においては重症度等を勘案して適切に選ぶためのモニタリング指標。指標の並びは「昇順」で示すが、総合的な判断が求められる。

2: Dファイルのない場合の結果は参考値（QIPでは疑似的にDPCコードを生成し、そのコードを利用し指標値を算出している）

参考値:

参考資料:

1: 成人市中肺炎診療ガイドライン 日本標準商品分類（平成2年6月改定）中分類87 - 医薬品及び関連製品
http://www.soumu.go.jp/main_content/000294493.pdf

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：急性胆嚢炎に対する入院2日以内の超音波検査実施割合

指標番号：

QIP：2037

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：消化器系

名称：急性胆嚢炎に対する入院2日以内の超音波検査実施割合

意義：急性胆嚢炎の治療方針の決定のため重要である（プロセス指標）

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：急性胆嚢炎で入院した症例

分子：分母のうち、入院日から2日以内に超音波検査が実施された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、胆嚢炎で入院した症例。入院の契機となった傷病名に下記のICD-10コードが該当すれば対象とする

分母のデータ2	
ICD-10コード	病名
K800	急性胆のう<嚢>炎を伴う胆のう<嚢>結石
K810	急性胆のう<嚢>炎

- 3：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：入院日から2日以内に腹部超音波検査を受けた症例。EFファイルで入院日または入院日翌日に下記が請求されている症例

分子のデータ1		2010	2012	2014	2016	2018	2020
レセ電コード	手術名						
160072210	超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）	○	○	○	○	○	○
160072110	超音波検査（Aモード法）	○	○	○	○	○	○
160072450	超音波検査（心臓超音波検査以外）（断層撮影法とMモード法）	○	○	○	○	○	○
160072750	超音波検査（心臓超音波検査以外）（Mモード法）	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：急性胆嚢炎において、超音波検査は重症度の評価、診療方針の決定に必須の検査とされている。

参考値：

参考資料：

- 1：科学的根拠に基づく急性胆管炎・胆嚢炎の診療ガイドライン，急性胆道炎の診療ガイドライン作成出版委員会 編 2005
- 2：急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン2013

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称: T1-2,N0M0乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検率

指標番号:

QIP: 2038

年度: 2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日: 2020-10-14

指標群: 乳がん

名称: T1-2,N0M0乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検率

意義: プロセス指標: 検査実施割合

必要データセット: DPC様式1 EFファイル

定義の要約:

分母: T1-2,N0M0の乳がん(初発)で入院して手術を施行した症例数

分子: 分母のうち、センチネルリンパ節生検が実施された症例数

指標の定義算出方法:

分母の定義:

- 1: 解析期間に退院した症例を対象とする
- 2: このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求めた18歳以上の症例。
- 3: このうち、乳房の悪性新生物（乳がん）の診断を受けた症例。いずれかの病名のICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例。かつ、以下の2条件を満たす症例。①様式 1 「がんの初発、再発」が「初発」 かつ②「UICC病期分類(T),(N),(M)」がT1\$（3桁以降はワイルドカード、T1a等を含む）またはT2、かつN0、かつM0

分母のデータ3	
□ICD-10コード	病名
C50\$	乳房の悪性新生物

- 4: このうち、下記手術を受けた症例。以下の手技のいずれかが算定されている症例（レセ電コードで抽出）

分母のデータ4

レセ電コード（診療 行為コード）	手術点数 コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150121610	K4761	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）（乳腺全摘術）	○	○	○	○	○	○
150303110	K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わ ない）	○	○	○	○	○	○
150316510	K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩部郭清を伴わな い）	○	○	○	○	○	○
150262710	K4764	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴 う）	○	○	○	○	○	○
150121710	K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴 うも の）（胸筋切除を併施しないもの）	○	○	○	○	○	○
150121810	K4766	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴 うも の）（胸筋切除を併施するもの）	○	○	○	○	○	○
150121910	K4767	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術）	○	○	○	○	○	○
150122150	K4767	乳腺悪性腫瘍手術と両側腋窩リンパ節郭清術	○	○	○			
150386410	K4768	乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を 伴わ ない））				○	○	○
150386510	K4769	乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を 伴 う））				○	○	○

- 5: 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義:

1: センチネルリンパ節生検を受けた症例。以下の手技のいずれかが算定されている症例（レセ電コードで抽出）

分子のデータ1

レセ電コード（診療行為コード）	手術点数コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150345870	K4768	乳がんセンチネルリンパ節加算 1	○	○	○	○	○	○
150345970	K4769	乳がんセンチネルリンパ節加算 2	○	○	○	○	○	○
160188010	D409-21	センチネルリンパ節生検（併用法）	○	○	○	○	○	○
160188110	D409-22	センチネルリンパ節生検（単独法）	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

- 1: 他の施設と指標値が大きく異なる場合は、診療行為の見直しのきっかけとなる。
- 2: 「UICC病期分類」は治療前に得られた臨床情報も含む情報に基づく分類(cTNM)であり、pTNM(術後病理所見による), sTNM(手術所見による)と異なる場合があり、本来ならセンチネルリンパ節生検の適応にならない症例も含まれる可能性がある。
- 3: センチネルリンパ節生検は外来日帰りでも行えるため、手術前に外来で施行されている場合や他院で施行され、紹介入院となっている場合もある。結果が低値だったとしても解釈に注意が必要である。

参考値:

参考資料:

- 1: 臨床的腋窩リンパ節転移陰性乳癌において、センチネルリンパ節生検で転移陰性と診断された場合には、腋窩リンパ節郭清の省略をすることが標準治療である。SNBは、臨床的腋窩リンパ節転移陰性早期乳癌の腋窩リンパ節転移の有無をほぼ正確に診断できる（偽陰性率<10%）。この結果に基づいてALNDを省略する治療法は、ALNDと比べ長期予後に及ぼす影響は同等であり、さらに術後合併症、後遺症も有意に少なく、現時点での標準的治療法と考えられる。（乳がん診療ガイドライン2018）
- 2: 日本乳癌学会 乳癌診療ガイドライン2018

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：大腿骨頸部骨折における早期リハビリ開始率

指標番号：

QIP：2046

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：整形外科

名称：大腿骨頸部骨折における早期リハビリ開始率

意義：機能回復においてリハビリを早期に始めることが重要である。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨頸部の手術を受けた症例

分子：分母のうち、大腿骨頸部手術後3日以内にリハビリを実施した症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、大腿骨頸部骨折の診断を受けた症例。資源を最も投入した傷病名のICD-10コードが下記に含まれる症例

分母のデータ2

ICD-10コード	病名
S7200	大腿骨頸部骨折 閉鎖性
S7201	大腿骨頸部骨折 開放性

- 3：このうち、大腿骨頸部骨折に対する手術が行われている症例。手術1のKコードが下記に含まれる症例。

分母のデータ3

手術コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
K0441	骨折非観血的整復術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○
K046-21	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの） 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○
K0611	関節脱臼非観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○
K0631	関節脱臼観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○
K0811	人工骨頭挿入術 肩、股	○	○	○	○	○	○
K083	鋼線等による直達牽引（初日。観血的に行った場合の手技料を含む。）（1局所に つき）	○	○	○	○	○	○

- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

- 1：運動器リハビリテーションが行われている症例。E/Fファイルにおいて、下記の処置が行われている症例。

分子のデータ1

診療行為コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
180027810	運動器リハビリテーション料（2）	1	1	1	1	1	1
180027910	運動器リハビリテーション料（3）	1	1	1	1	1	1
180032710	運動器リハビリテーション料（1）	1	1	1	1	1	1
180034510	運動器リハビリテーション料（1）（要介護）	0	1	1	0	0	0

診療行為コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
180034510	運動器リハビリテーション料（１）（要介護・入院外）	0	0	0	1	1	1
180034610	運動器リハビリテーション料（２）（要介護）	0	1	1	0	0	0
180034610	運動器リハビリテーション料（２）（要介護・入院外）	0	0	0	1	1	1
180034710	運動器リハビリテーション料（３）（要介護）	0	1	1	0	0	0
180034710	運動器リハビリテーション料（３）（要介護・入院外）	0	0	0	1	1	1
180044030	運動器リハビリテーション料（１）（要介護）（施設基準不適合）	0	0	1	0	0	0
180044030	運動器リハビリテーション料（１）（要介護）基準不適合	0	0	0	1	1	1
180044130	運動器リハビリテーション料（２）（要介護）（施設基準不適合）	0	0	1	0	0	0
180044130	運動器リハビリテーション料（２）（要介護）基準不適合	0	0	0	1	1	1
180044230	運動器リハビリテーション料（３）（要介護）（施設基準不適合）	0	0	1	0	0	0
180044230	運動器リハビリテーション料（３）（要介護）基準不適合	0	0	0	1	1	1
180045810	運動器リハビリテーション料（１）（要介護・入院）	0	0	0	1	1	1
180045910	運動器リハビリテーション料（２）（要介護・入院）	0	0	0	1	1	1
180046010	運動器リハビリテーション料（３）（要介護・入院）	0	0	0	1	1	1
180052730	運動器リハビリテーション料（１）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180052830	運動器リハビリテーション料（２）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180052930	運動器リハビリテーション料（３）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180053030	運動器リハビリテーション料（１）（要介護・入院）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180053130	運動器リハビリテーション料（１）（要介護・入院外）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180053230	運動器リハビリテーション料（２）（要介護・入院）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180053330	運動器リハビリテーション料（２）（要介護・入院外）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180053430	運動器リハビリテーション料（３）（要介護・入院）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180053530	運動器リハビリテーション料（３）（要介護・入院外）（リ減）	0	0	0	1	1	1
180053630	運動器リハビリテーション料（１）（要介護）基準不適合・リ減	0	0	0	1	1	1
180053730	運動器リハビリテーション料（２）（要介護）基準不適合・リ減	0	0	0	1	1	1
180053830	運動器リハビリテーション料（３）（要介護）基準不適合・リ減	0	0	0	1	1	1

2：このうち、処置が手術日以後3日以内に実施されている症例。E/Fファイルの実施年月日が手術 1 の手術日後3日以内である症例。

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1：リハビリの禁忌患者など、対象患者が全員早期リハビリテーションの適応になるとは限らない。

参考値:

参考資料:

1：日本整形外科学会，日本骨折治療学会．大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン 改訂第2版．南江堂．2011

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：薬剤管理指導実施割合（実施患者数ベース）

指標番号：

QIP：2048

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：薬剤管理指導実施割合（実施患者数ベース）

意義：薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：入院症例数

分子：分母のうち、薬剤管理指導を受けた症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：薬剤指導管理実施の算定されている症例

分子のデータ1

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
113010710	薬剤管理指導料 1（救命救急入院料等算定患者）	○	○	○	○		
113010810	薬剤管理指導料（安全管理を要する医薬品投与患者）	○	○	○	○	○	○
120001610	薬剤管理指導料	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

1：薬剤管理指導料は、算定には特定の施設基準を満たしている必要があり、実施が「●」の施設は、未実施という意味ではない可能性が高い（これらの施設件数も比較には参考となると考えられるため、表・グラフには、0の施設も併記はする）。必ずしも、すべての患者に薬剤管理指導を要するわけではなく、100%を目指す指標ではない。分子の薬剤管理指導は、特に安全管理が必要な医薬品が投薬又は注射されている患者に対して行う場合以外も含め、管理指導が実施の有無の計測を主旨とする。指標としては、このほかに、実施回数を考慮したものが考えられる。

参考値：

参考資料：

- 1：日本医療・病院管理学会誌49(4)195-203

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：T1-2,N0M0乳がん手術患者に対する腋下リンパ節郭清実施率

指標番号：

QIP：2049

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018

更新日：2018-09-27

指標群：乳がん

名称：T1-2,N0M0乳がん手術患者に対する腋下リンパ節郭清実施率

意義：プロセス指標：処置実施割合

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：T1-2,N0M0の乳がん(初発)で入院して手術を施行した症例数

分子：分母のうち、腋下リンパ節郭清が実施された症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求めた18歳以上の症例。
- 3：このうち、乳房の悪性新生物（乳がん）の診断を受けた症例。いずれかの病名のICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例。
かつ、以下の2条件を満たす症例。 ① 様式1「がんの初発、再発」が「初発」 かつ② 「UICC病期分類(T),(N),(M)」がT1\$（3桁以降はワイルドカード、T1a等を含む）またはT2、かつN0、かつM0

分母のデータ3	
ICD-10コード	病名
C50\$	乳房の悪性新生物

- 4：このうち、下記手術を受けた症例。手術情報の点数コードのいずれか（5フィールド）に以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ4

レセ電コード（診療 行為コード）	手術点数 コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018
150121610	K4761	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）（乳腺全摘術）	○	○	○	○	○
150303110	K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わない）	○	○	○	○	○
150316510	K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩部郭清を伴わない）	○	○	○	○	○
150262710	K4764	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴う）	○	○	○	○	○
150121710	K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施しないもの）	○	○	○	○	○
150121810	K4766	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施するもの）	○	○	○	○	○
150121910	K4767	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術）	○	○	○	○	○
150122150	K4767	乳腺悪性腫瘍手術と両側腋窩リンパ節郭清術	○	○	○	○	
150386410	K4768	乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わない））				○	○
150386510	K4769	乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴う））				○	○

- 5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

1：腋下リンパ節郭清を受けた症例。手術情報の点数コードのいずれか（5フィールド）に以下が含まれる症例

分子のデータ1

レセ電コード（診療行為コード）	手術点数コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018
150121910	K4767	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術（郭清を併施する））		○	○	○	○
150122150	K4767	乳腺悪性腫瘍手術と両側腋窩リンパ節郭清術	○	○	○	○	
150262710	K4764	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴う））	○	○	○	○	○
150386510	K4769	乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴う））				○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：K-コード分類は年度により異なってくるので、その都度確認が必要である。
- 2：他の施設と指標値が大きく異なる場合は、診療行為の見直しのきっかけとなる。
- 3：「UICC病期分類」は治療前に得られた臨床情報も含む情報に基づく分類(cTNM)であり、pTNM(術後病理所見による)、sTNM(手術所見による)と異なる場合があり、本来ならリンパ節郭清術の適応にならない症例も含まれる可能性がある。

参考値：

参考資料：

- 1：浸潤性乳がんにおいて、腋窩リンパ節郭清を実施した方が生存率が高まることを実証した確定的データは存在しないため、特に予後良好と思われる腫瘍の患者つまり、術後全身療法を選択しても影響されないと思われる患者、高齢者、あるいは深刻な併存疾患がある患者では、腋窩リンパ節郭清の実施は必ずしも必要ではない。(National Comprehensive Cancer Network:NCCN® ガイドライン2012)
- 2：センチネルリンパ節生検の経験が豊富な外科チームがいて、患者がセンチネルリンパ節生検の候補として適切と思われる場合は、腋窩リンパ節病期診断よりもセンチネルリンパ節生検の方が望ましい方法となる(NCCN® ガイドライン2012)

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2018-09-27

名称：悪性腫瘍症例に対する退院支援の割合

指標番号：

QIP：2071

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：悪性腫瘍症例に対する退院支援の割合

意義：患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成30（2018）年度以降）」が新設された。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：悪性腫瘍入院症例数

分子：分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：医療資源を最も利用した傷病名に、ICD-10コードとして以下のコードが含まれる症例

分母のデータ2

ICD-10コード	病名
C\$	C00-D48 新生物
D\$	D50-D89 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害

3：このうち、退院時転帰が「6．最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7．最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。

4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1：退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算が算定されている症例。以下のいずれかが算定されている症例

分子のデータ1

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
190128310	慢性期病棟等退院調整加算2（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○					
190128410	慢性期病棟等退院調整加算2（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○					
190137110	慢性期病棟等退院調整加算1（退院支援計画作成加算）	○					
190137210	慢性期病棟等退院調整加算1（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○					
190137310	慢性期病棟等退院調整加算1（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○					
190137410	急性期病棟等退院調整加算1	○					
190137510	急性期病棟等退院調整加算2	○					
190141470	退院調整加算（認知症治療病棟入院料）	○	○	○	○	○	○
190147610	退院調整加算（一般病棟入院等）（～14日）		○	○	○		
190147710	退院調整加算（一般病棟入院等）（15日～30日）		○	○	○		
190147810	退院調整加算（一般病棟入院等）（31日～）		○	○	○		
190147910	退院調整加算（療養病棟入院等）（～30日）		○	○	○		
190148010	退院調整加算（療養病棟入院等）（31日～90日）		○	○	○		

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
190148110	退院調整加算（療養病棟入院等）（9 1日～1 2 〇日）		〇	〇	〇		
190148210	退院調整加算（療養病棟入院等）（1 2 1日～）		〇	〇	〇		
190173310	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（～1 4日）			〇	〇		
190173410	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（1 5日～3 〇日）			〇	〇		
190173510	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（3 1日～）			〇	〇		
190173610	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（～3 〇日）			〇	〇		
190173710	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（3 1日～9 〇日）			〇	〇		
190173810	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（9 1日～1 2 〇日）			〇	〇		
190173910	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（1 2 1日～）			〇	〇		
190192310	入退院支援加算 1（一般病棟入院基本料等）				〇	〇	〇
190192410	入退院支援加算 1（療養病棟入院基本料等）				〇	〇	〇
190192510	入退院支援加算 2（一般病棟入院基本料等）				〇	〇	〇
190192610	入退院支援加算 2（療養病棟入院基本料等）				〇	〇	〇
190192910	入退院支援加算（特定地域）（一般病棟入院基本料等）				〇	〇	〇
190193010	入退院支援加算（特定地域）（療養病棟入院基本料等）				〇	〇	〇
190207470	入院時支援加算 2（入退院支援加算）					〇	〇
190217970	入院時支援加算 1（入退院支援加算）						〇

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

1：たとえば、入退院支援加算の算定対象は「退院困難な要因」（下記）のある患者とされている。したがって、必ずしも特定の疾患を対象としたものではないが、本指標ではとくに悪性腫瘍を対象として測定を行っている。 ※入退院支援加算 1/2の対象となる「退院困難な要因」 ア 悪性腫瘍、認知症又は誤嚥性肺炎等の急性呼吸器感染症のいずれかであること イ 緊急入院であること ウ 要介護状態であるとの疑いがあるが要介護認定が未申請であること（介護保険法施行令（平成10 年政令第412 号）第2条各号に規定する特定疾病を有する40 歳以上65 歳未満の者及び65 歳以上の者に限る。） エ 家族又は同居者から虐待を受けている又はその疑いがあること オ 生活困窮者であること カ 入院前に比べADL が低下し、退院後の生活様式の再編が必要であること（必要と推測されること。） キ 排泄に介助を要すること ク 同居者の有無に関わらず、必要な養育又は介護を十分に提供できる状況にないこと ケ 退院後に医療処置（胃瘻等の経管栄養法を含む。）が必要なこと コ 入退院を繰り返していること サ その他患者の状況から判断してアからコまでに準ずると認められる場合

2：入退院支援加算1と2では施設基準が異なるが、本指標では両者を合算した数を測定している

3：年度により算定基準が異なることに注意が必要である。

参考値：

参考資料：

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：糖尿病入院患者に対する栄養指導実施率

指標番号：

QIP：2075

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：糖尿病

名称：糖尿病入院患者に対する栄養指導実施率

意義：プロセス指標 処置実施割合

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：入院時の病名に糖尿病のある症例

分子：分母のうち栄養指導を行った症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求めた18歳以上の症例。
- 3：このうち、糖尿病の病名のある症例。主病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかのICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ3

ICD-10コード	病名
E10\$	インスリン依存性糖尿病< I D D M>
E11\$	インスリン非依存性糖尿病< N I D D M>
E12\$	栄養障害に関連する糖尿病
E13\$	その他の明示された糖尿病
E14\$	詳細不明の糖尿病

- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：分母のうち、以下のいずれかの算定が一回以上なされている症例。

分子のデータ1

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
113003310	入院栄養食事指導料	○	○				
113014810	入院栄養食事指導料 1			○			
113014910	入院栄養食事指導料 2			○			
113017610	入院栄養食事指導料 1（初回）				○	○	○
113017710	入院栄養食事指導料 1（2回目）				○	○	○
113017810	入院栄養食事指導料 2（初回）				○	○	○
113017910	入院栄養食事指導料 2（2回目）				○	○	○
113003410	集団栄養食事指導料	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: 他の施設と指標値が大きく異なる場合は、診療行為の見直しのきっかけとなる。

参考値:

参考資料:

1: 科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013 (日本糖尿病学会)

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：急性または慢性心不全患者に対する心臓リハビリ実施割合

指標番号：

QIP：2078

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：循環器系疾患

名称：急性または慢性心不全患者に対する心臓リハビリ実施割合

意義：プロセス指標

必要データセット：DPC様式1 Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：急性または慢性心不全で入院した症例数

分子：分母のうち、心臓リハビリが実施された症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より求めた入院時年齢が18歳以上の症例。
- 3：このうち、急性・慢性心不全の治療目的で入院した症例。医療資源を最も投入した傷病名のICD-10コードがI50\$（疑い病名は除く）※かつ、病名付加コードが30100（慢性）または30101（急性）または30102（慢性の急性増悪）の3つのうちいずれかがコードされている

分母のデータ3

ICD-10コード	病名
I50\$	心不全

- 4：在院日数が90日以上 の症例は除く。
- 5：治験例は除く
- 6：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：心大血管疾患リハビリテーションを受けた症例。入院中に以下のいずれかが算定された症例

分子のデータ1

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
180027410	心大血管疾患リハビリテーション料（1）	○	○	○	○	○	○
180027510	心大血管疾患リハビリテーション料（2）	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：適応外の患者もあり、100%を目指す指標ではない。
- 2：保険診療請求上、B001の17に掲げる慢性疼痛疾患管理料を算定する患者についてはリハビリテーション料を算定しないことになっているが、月1回の170点算定の管理料よりも、リハビリの方を算定することが多いと思われる。
- 3：平成24年（2012年）の診療報酬改定で、リハビリの標榜がなくても、循環器内科・心臓血管外科だけで算定が取れることが明らかになった（疑義解釈）。2016年からリハビリ算定要件の1つである、施設基準が緩和した。測定結果としても指標値は上昇傾向にある。

参考値:

- 1: 運動療法を中心とした心臓リハビリテーションは虚血性心疾患の二次予防に有効であるとする報告は多くなされている。1,2
- 2: 慢性心不全に対する運動療法単独無作為比較試験のメタアナリシスでは、虚血性慢性心不全において、運動療法自体が生命予後改善効果と入院率の減少をもたらすと報告されている。3,4,5
- 3: 心筋梗塞後の包括的心血管疾患リハビリテーション(運動療法中心)により、心筋梗塞の再発減少、心臓血管死および全死亡の減少(20~25%)が報告されている。3,6,7

参考資料:

- 1: Balady GJ, Williams MA, Ades PA, et al. Core Components of Cardiac Rehabilitation/Secondary Prevention Programs: 2007 Update: A Scientific Statement From the American Heart Association Exercise, Cardiac Rehabilitation, and Prevention Committee, the Council on Clinical Cardiology; the Councils on Cardiovascular Nursing, Epidemiology and Prevention, and Nutrition, Physical Activity, and Metabolism; and the American Association of Cardiovascular and Pulmonary Rehabilitation. *Circulation* 2007; 115: 2675-2682.
- 2: Werf FV, Bax J, Betriu A, et al. Management of acute myocardial infarction in patients presenting with persistent ST-segment elevation: The Task Force on the management of ST-segment elevation acute myocardial infarction of the European Society of Cardiology. *Eur Heart J* 2008; 29: 2909-2945.
- 3: 循環器病の診断と治療に関するガイドライン。心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン(2007年改訂版)。http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2007_nohara_h.pdf
- 4: (2013年4月24日アクセス可能)
- 5: Belardinelli R, Georgion D, Giovanni C, Purcaro A: Randomized controlled trial of long term moderate training in chronic heart failure. *Circulation* 1999; 99: 1173-1182.
- 6: Piepoli, MF, Davos, C, Francis, DP, Coats, AJ: Exercise training meta-analysis of trials in patients with chronic heart failure (ExTraMATCH). *BMJ* 2004; 328: 189.
- 7: Oldridge NB, Guyatt GH, Fischer ME, Rimm AA: Cardiac rehabilitation after myocardial infarction. Combined experience of randomized clinical trials. *JAMA* 1988; 260: 945-950 (A)
- 8: O' Connor GT, Buring JE, Yusuf S, Goldhaber SZ, Olmstead EM, Paffenberger RS, Hennenkens CH: An overview of randomized trials of rehabilitation with exercise after myocardial infarction. *Circulation* 1989; 80: 234-244
- 9: 循環器病の診断と治療に関するガイドライン。心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン(2012年改訂版)

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への栄養管理実施割合

指標番号：

QIP：2079

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への栄養管理実施割合

意義：積極的な栄養管理の介入

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の糖尿病・慢性腎臓病であり、それらへの治療が主目的ではない入院症例の食事

分子：分母のうち、特別食加算の算定

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、入院時併存症として糖尿病か慢性腎臓病が診断されている入院した症例。入院時併存症に、ICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ3

ICD-10コード	病名
E10\$～E14\$	糖尿病
N03\$	慢性腎炎症候群
N04\$	ネフローゼ症候群
N18\$	慢性腎不全

- 4：このうち、主傷病名、入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名のいずれかに糖尿病か慢性腎臓病が該当する症例は除外する（コードは上記と同一）

- 5：算定された食事回数（EF-12×EF-21の合計、ただし「●」が入力されたものは「1」として集計）を計測する。下記レセ電コードの算定回数

分母のデータ5

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
197000110	入院時食事療養（1）（1食につき）	○	○	○	○	○	○
197000710	入院時食事療養（2）（1食につき）	○	○	○	○	○	○
197003110	入院時食事療養（1）（1食につき）（流動食のみを提供）				○	○	○
197003210	入院時食事療養（2）（1食につき）（流動食のみを提供）				○	○	○

- 6：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く
- 7：分子の値が分母の値を超える場合除外する（分子の定義、測定上の限界・解釈上の注意を参照）

分子の定義：

- 1：分母で抽出された症例に対し、特別食加算の算定された回数（EF-12×EF-21の合計、ただし「●」が入力されたものは「1」として集計）を計測する。

分子のデータ1

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
197000470	特別食加算（食事療養）	○	○	○	○	○	○

2：分母の値を超えるときは分母共に除外（例：1入院毎の集計で除外を判定 測定上の限界・解釈上の注意を参照）

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

1：EFファイルを利用する場合は、Fファイル相当のレコードのみ利用する。本指標は主に急性期医療の症例を対象とするため、下記は対象外としている

データ1

レセ電コード	行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
197001310	入院時生活療養（1）食事療養（1食につき）	○	○	○	○	○	○
197001710	入院時生活療養（2）食事療養（1食につき）	○	○	○	○	○	○

2：本来は分子は分母に含まれるが、本指標の計測の定義ではデータのずれが出てくることがあるため、割合が1を超える数値で出てくる場合がある。このため、本定義では各症例の入院ごとに分母となる数と分子となる数を抽出集計し、それら各々について分子が分母を超えないかどうかの確認を行い、超えていない整合性のあるデータのみ利用する方法を提示した。このほか1症例1日毎での判定などより詳細にデータ処理も可能である。

3：食事回数はEF-12×EF-21の合計、ただし「●」が入力されたものは「1」として集計しているが、データの入力方法によれば必ずしも食事「回数」にならないことがある。「DPC導入の影響評価に係る調査」実施説明資料では行為回数（E-15、 EF-21）の入力について、「同一日に同一行為が複数回発生した場合は、合計した点数がE-11、12、13に計上され、回数は1とすることを基本とする。（薬剤等）但し、合計処理が不可能な場合で、各々を別レコードとして分離できず、かつ、点数が1回当たり点数となる場合は、回数として2以上が入る。合計処理は、統一データ処理にて実施。」と記載されており、その入力方法の解釈により行為回数のみを用いた場合、回数が少なく集計されることがある。出来高実績点数の利用も可能だが、点数が複雑になるため、本指標では、EF12とEF21のみを利用する。

参考値：

参考資料：

1：http://www.nutri.co.jp/nutrition/keywords/append/

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への早期栄養管理実施割合

指標番号：

QIP：2080

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への早期栄養管理実施割合

意義：積極的な栄養管理の介入

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の糖尿病・慢性腎臓病であり、それらへの治療が主目的ではない入院症例の入院翌日までの食事

分子：分母のうち、特別食加算の算定

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、入院時併存症として糖尿病か慢性腎臓病が診断されている入院した症例。入院時併存症に、ICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ3	
ICD-10コード	病名
E10\$ ~E14\$	糖尿病
N03\$	慢性腎炎症候群
N04\$	ネフローゼ症候群
N18\$	慢性腎不全

- 4：このうち、主傷病名、入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名のいずれかに糖尿病か慢性腎不全が該当する症例は除外する（コードは上記と同一）

- 5：上記にて抽出された症例に対して、入院翌日までに算定された食事回数を計測する。下記レセ電コードの算定回数

分母のデータ5		2010	2012	2014	2016	2018	2020
レセ電コード	診療行為名						
197000110	入院時食事療養（1）（1食につき）	○	○	○	○	○	○
197000710	入院時食事療養（2）（1食につき）	○	○	○	○	○	○
197003110	入院時食事療養（1）（1食につき）（流動食のみを提供）				○	○	○
197003210	入院時食事療養（2）（1食につき）（流動食のみを提供）				○	○	○

- 6：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：分母で抽出された症例に対し、入院翌日までに特別食加算の算定された回数を計測する。

分子のデータ1		2010	2012	2014	2016	2018	2020
レセ電コード	診療行為名						
197000470	特別食加算（食事療養）	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: EFファイルを利用する場合は、Fファイル相当のレコードのみ利用する。本指標は主に急性期医療の症例を対象とするため、下記は対象外としている

データ1

レセ電コード	行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
197001310	入院時生活療養（1）食事療養（1食につき）	○	○	○	○	○	○
197001710	入院時生活療養（2）食事療養（1食につき）	○	○	○	○	○	○

参考値:

参考資料:

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：脳梗塞患者の退院時スタチン処方割合

指標番号：

QIP：2081

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：脳卒中

名称：脳梗塞患者の退院時スタチン処方割合

意義：退院後の再発予防内容をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：脳梗塞で入院した症例数

分子：分母のうち、退院時にスタチンが投与された症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、脳梗塞の診断を受けた症例。 資源を最も投入した傷病名と主傷病名の ICD-10 コードがともに下記である症例。疑い病名は含めない。

分母のデータ2	
ICD-10コード	病名
I63\$	脳梗塞

- 3：このうち、退院日が入院後3日以降である症例。（入院日を1とする）。
- 4：このうち、退院時転帰が死亡ではないもの。退院時転帰の値として以下のいずれかが入力されている症例を除外する

分母のデータ4	
退院時転帰	説明
6	最も医療資源を投入した傷病による死亡
7	最も医療資源を投入した傷病以外による死亡

- 5：このうち退院先が不明、転院の症例は除外する。2010年度～2013年度 退院先「● 不明、 4 転院」を除外する。2014年度以降退院先「4 他の病院・診療所への転院」を除外する。
- 6：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：スタチンが処方されている症例。 Fファイル、もしくはEFファイルにおいて、退院時に以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。 退院時処方の判定： 2010年度～2015年度：FファイルもしくはEFファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」 2016年度～：EF-17・F-19 行為明細区分情報（12桁の数値）の1桁目「退院時処方区分」が「1」

分子のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
2189010	プラバスタチンナトリウム	○	○	○	○	○	○
2189011	シンバスタチン	○	○	○	○	○	○
2189012	フルバスタチンナトリウム	○	○	○	○	○	○
2189015	アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○
2189016	ピタバスタチンカルシウム	○	○	○	○	○	○
2189017	ロスバスタチンカルシウム	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
2189101	エゼチミブ・アトルバスタチンカルシウム水和物					○	○
2189102	エゼチミブ・ロスバスタチンカルシウム					○	○
2190101	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○
2190102	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○
2190103	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○
2190104	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

- 1: アレルギーなどの適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。
- 2: エゼチミブ, ロスバスタチンカルシウム2019年5月新規合剤販売開始で追加。

参考値:

参考資料:

- 1: 脳卒中治療ガイドライン（2009年版4-1（3）および2015年版3-1（3） 脳梗塞慢性期 脂質異常症）
- 2: 脳卒中ガイドライン2015. p92. 3-1

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：他院よりの紹介の有る入院の割合

指標番号：

QIP：2089

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：他院よりの紹介の有る入院の割合

意義：地域における病院の役割の把握

必要データセット：DPC様式1

定義の要約：

分母：入院経路が一般入院の症例

分子：他院よりの紹介有「1」

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：解析期間に退院した症例を対象とする。

2：入院経路が2010~2013年度は一般入院「2」の症例、2014年度～家庭からの入院「1」、他の病院・診療所の病棟からの転院「4」、介護施設・福祉施設に入所中「5」のいずれかの場合かつ、救急車による搬送がなし「●」の症例

3：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1：他院よりの紹介有が「1」

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

参考値：

参考資料：

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称: DPC入院期間II以内の割合

指標番号:

QIP: 2090

年度: 2014, 2016, 2018, 2020

更新日: 2020-10-14

指標群: マネジメント

名称: DPC入院期間II以内の割合

意義: マネジメント

必要データセット: DPC様式1

定義の要約:

分母: 退院症例数 (DPC分析対象)

分子: 入院期間II以内の退院数

指標の定義算出方法:

分母の定義:

1: 解析期間に退院した症例を対象とする

2: このうち、分科会の分析対象データを参考に、以下の基準で除外を行う ① 在院日数1日以下 (外泊日数含む) ② 外泊>=在院日数 ③ 年齢0歳未満120歳超 ④ 一般病棟以外の病棟との移動あり (DPC対象病棟となる入院料を算定していないもの) ⑤ 24時間以内の死亡 ⑥ 移植手術あり ⑦ DPC該当せず ⑧ 治験の実施 ⑨ 生後7日以内の死亡

3: 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義:

1: 分母のうち、入院期間II以内の退院数

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: 症例の限定は分科会定義に準じるが、完全に一致はしない。 マネジメントの指標値であって、計測値の解釈は個別に必要。DPC対象の精神病棟への入院も除外している。

参考値:

参考資料:

1: 平成22年度第9回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 議事次第 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000ysr0.html>

2: 平成23年度第9回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 議事次第 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000001u23a.html>

3: 平成24年度第5回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 議事次第 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000002hs9l.html>

4: 平成25年度第7回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 議事次第 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000023522.html>

5: 平成26年度 第5回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000056344.html>

6: 平成27年度第7回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000104146.html>

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称: DPC入院期間III超えの割合

指標番号:

QIP: 2091

年度: 2014, 2016, 2018, 2020

更新日: 2020-10-14

指標群: マネジメント

名称: DPC入院期間III超えの割合

意義: マネジメント

必要データセット: DPC様式1

定義の要約:

分母: 退院症例数 (DPC分析対象)

分子: 入院期間IIIより長い退院数

指標の定義算出方法:

分母の定義:

1: 解析期間に退院した症例を対象とする

2: このうち、分科会の分析対象データを参考に、以下の基準で除外を行う ① 在院日数1日以下 (外泊日数含む) ② 外泊>=在院日数 ③ 年齢0歳未満120歳超 ④ 一般病棟以外の病棟との移動あり (DPC対象病棟となる入院料を算定していないもの) ⑤ 24時間以内の死亡 ⑥ 移植手術あり ⑦ DPC該当せず ⑧ 治験の実施 ⑨ 生後7日以内の死亡

3: 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義:

1: 分母のうち、在院日数が入院期間IIIより長い退院数

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: 症例の限定は分科会定義に準じるが、完全に一致はしない。 マネジメントの指標値であって、計測値の解釈は個別に必要。DPC対象の精神病棟への入院も除外している。

参考値:

参考資料:

1: 平成22年度第9回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 議事次第 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000ysr0.html>

2: 平成23年度第9回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 議事次第 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000001u23a.html>

3: 平成24年度第5回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 議事次第 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000002hs9l.html>

4: 平成25年度第7回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 議事次第 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000023522.html>

5: 平成26年度 第5回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000056344.html>

6: 平成27年度第7回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000104146.html>

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：院内肺炎症例の平均抗菌薬投与日数

指標番号：

QIP：2093

年度：2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：呼吸器系

名称：院内肺炎症例の平均抗菌薬投与日数

意義：マネジメント

必要データセット：DPC様式1 Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：院内肺炎症例数

分子：院内肺炎症例の抗菌薬投与日数合計

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする（2012年度以降）
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例
- 3：このうち、①または②の症例 ①医療資源を最も投入した傷病名のコードが下記の院内肺炎に関するICD-10コードのいずれかでありかつ、肺炎の重症度分類の7桁目（右端）が「3：院内肺炎」である症例②入院後発症疾患名のコードに下記の院内肺炎に関するICD10コードが含まれている症例 院内肺炎に関するICD-10コード

分母のデータ3

ICD-10コード	病名
J13	肺炎レンサ（連鎖）球菌による肺炎
J14	インフルエンザ菌による肺炎
J15\$	細菌性肺炎，他に分類されないもの
J16\$	その他の感染病原体による肺炎，他に分類されないもの
J17\$	他に分類される疾患における肺炎
J18\$	肺炎，病原体不詳

- 4：このうち抗菌薬の投与を行った症例。抗菌薬（内服薬もしくは注射薬）を投与された症例。EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる症例 ※薬価基準コード上7桁について、上2～4ケタ情報を利用、「xxx」は001～699として内服薬・注射薬を指定

分母のデータ4

薬価基準コード上7ケタ	内容
61**xxx	抗生物質製剤 内服薬・注射薬（xxxは001～699）※ただし 6199xxxは除く（ヘリコバクター・ピロリ菌除菌薬）
621*xxx	サルファ剤 内服薬・注射薬（xxxは001～699）
624*xxx	合成抗菌剤 内服薬・注射薬（xxxは001～699）
629*xxx	その他の化学療法剤 内服薬・注射薬（xxxは001～699）

- 5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：対象となる症例に対して、抗菌薬の投与された日数の合計

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): 日(平均)

測定上の限界・解釈上の注意:

1: 症例の限定はDPCコーディングによる 病棟移動を行っている症例を含む 最も医療資源を投入した傷病がほかで、院内肺炎を併発した症例が含まれない 抗菌薬投与は内服薬と注射薬を集計。内服薬は1回の処方で複数日処方されるため、結果に誤差が出る。本指標は、これらを考慮しての総合的なマネジメントにおける参考値

参考値:

参考資料:

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：院内肺炎症例の治癒軽快割合

指標番号：

QIP：2095

年度：2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：呼吸器系

名称：院内肺炎症例の治癒軽快割合

意義：マネジメント

必要データセット：DPC様式1

定義の要約：

分母：院内肺炎症例数

分子：治癒または軽快で退院した症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする（2012年度以降）
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め15歳以上の症例
- 3：このうち、①または②の症例。①医療資源を最も投入した傷病名のコードが下記の院内肺炎に関するICD-10コードのいずれかでありかつ、肺炎の重症度分類の7桁目（右端）が「3：院内肺炎」である症例。②入院後発症疾患名のコードに下記の院内肺炎に関するICD10コードが含まれている症例。院内肺炎に関するICD-10コード

分母のデータ3

ICD-10コード	病名
J13	肺炎レンサ（連鎖）球菌による肺炎
J14	インフルエンザ菌による肺炎
J15\$	細菌性肺炎，他に分類されないもの
J16\$	その他の感染病原体による肺炎，他に分類されないもの
J17\$	他に分類される疾患における肺炎
J18\$	肺炎，病原体不詳

- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：分母のうち、治癒または軽快で退院した症例数。退院時転帰 1：最も医療資源を投入した傷病が治癒・軽快したと判断される場合。
- 2：最も医療資源を投入した傷病が寛解したと判断される場合。（2016年度以前は 1：最も医療資源を投入した傷病が治癒したと判断される場合。 2：最も医療資源を投入した傷病が軽快したと判断される場合。）

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：日（平均）

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：症例の限定はDPCコーディングによる病棟移動を行っている症例を含む。最も医療資源を投入した傷病がほかで、院内肺炎を併発した症例が含まれない。本指標は、これらを考慮しての総合的なマネジメントにおける参考値

参考値：

参考資料：

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：誤嚥性肺炎症例に対する退院支援の割合

指標番号：

QIP：2102

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：誤嚥性肺炎症例に対する退院支援の割合

意義：患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成30（2018）年度以降）」が新設された。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：誤嚥性肺炎入院症例数

分子：分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：医療資源を最も利用した傷病名に、ICD-10コードとして以下のコードが含まれる症例

分母のデータ2

ICD-10コード	病名
J69\$	固形物および液状物による肺臓炎

3：このうち、退院時転帰が「6．最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7．最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。

4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算が算定されている症例。以下のいずれかが算定されている症例

分子のデータ1

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
190128310	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○					
190128410	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○					
190137110	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院支援計画作成加算）	○					
190137210	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○					
190137310	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○					
190137410	急性期病棟等退院調整加算 1	○					
190137510	急性期病棟等退院調整加算 2	○					
190141470	退院調整加算（認知症治療病棟入院料）	○	○	○	○	○	○
190147610	退院調整加算（一般病棟入院等）（～14日）		○	○	○		
190147710	退院調整加算（一般病棟入院等）（15日～30日）		○	○	○		
190147810	退院調整加算（一般病棟入院等）（31日～）		○	○	○		
190147910	退院調整加算（療養病棟入院等）（～30日）		○	○	○		
190148010	退院調整加算（療養病棟入院等）（31日～90日）		○	○	○		
190148110	退院調整加算（療養病棟入院等）（91日～120日）		○	○	○		

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
190148210	退院調整加算（療養病棟入院等）（１２１日～）		○	○	○		
190173310	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（～１４日）			○	○		
190173410	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（１５日～３〇日）			○	○		
190173510	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（３１日～）			○	○		
190173610	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（～３〇日）			○	○		
190173710	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（３１日～９〇日）			○	○		
190173810	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（９１日～１２〇日）			○	○		
190173910	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（１２１日～）			○	○		
190192310	入退院支援加算１（一般病棟入院基本料等）				○	○	○
190192410	入退院支援加算１（療養病棟入院基本料等）				○	○	○
190192510	入退院支援加算２（一般病棟入院基本料等）				○	○	○
190192610	入退院支援加算２（療養病棟入院基本料等）				○	○	○
190192910	入退院支援加算（特定地域）（一般病棟入院基本料等）				○	○	○
190193010	入退院支援加算（特定地域）（療養病棟入院基本料等）				○	○	○
190207470	入院時支援加算２（入退院支援加算）					○	○
190217970	入院時支援加算１（入退院支援加算）						○

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

１: たとえば、入退院支援加算の算定対象は「退院困難な要因」（下記）のある患者とされている。したがって、必ずしも特定の疾患を対象としたものではないが、本指標ではとくに誤嚥性肺炎を対象として測定を行っている。 ※入退院支援加算 1/2の対象となる「退院困難な要因」 ア 悪性腫瘍、認知症又は誤嚥性肺炎等の急性呼吸器感染症のいずれかであること イ 緊急入院であること ウ 要介護状態であるとの疑いがあるが要介護認定が未申請であること（介護保険法施行令（平成10 年政令第412 号）第2条各号に規定する特定疾病を有する40 歳以上65 歳未満の者及び65 歳以上の者に限る。） エ 家族又は同居者から虐待を受けている又はその疑いがあること オ 生活困窮者であること カ 入院前に比べADL が低下し、退院後の生活様式の再編が必要であること（必要と推測されること。） キ 排泄に介助を要すること ク 同居者の有無に関わらず、必要な養育又は介護を十分に提供できる状況にないこと ケ 退院後に医療処置（胃瘻等の経管栄養法を含む。）が必要なこと コ 入退院を繰り返していること サ その他患者の状況から判断してアからコまでに準ずると認められる場合

２: 入退院支援加算1と2では施設基準が異なるが、本指標では両者を合算した数を測定している

３: 年度により算定基準が異なることに注意が必要である。

参考値:

参考資料:

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：認知症を伴う症例に対する退院支援の割合

指標番号：

QIP：2103

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：認知症を伴う症例に対する退院支援の割合

意義：患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成30（2018）年度以降）」が新設された。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：認知症を伴う入院症例数

分子：分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：傷病名のいずれかに、ICD-10コードとして以下のコードが含まれる症例

分母のデータ2	
ICD-10コード	病名
F00\$	アルツハイマー病の認知症
F01\$	血管性認知症
F02\$	他に分類されるその他の疾患の認知症
F03\$	詳細不明の認知症
G30\$	アルツハイマー病
G31\$	神経系のその他の変性疾患

- 3：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算が算定されている症例。以下のいずれかが算定されている症例

分子のデータ1		2010	2012	2014	2016	2018	2020
レセ電コード	診療行為名						
190128310	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○					
190128410	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○					
190137110	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院支援計画作成加算）	○					
190137210	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○					
190137310	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○					
190137410	急性期病棟等退院調整加算 1	○					
190137510	急性期病棟等退院調整加算 2	○					
190141470	退院調整加算（認知症治療病棟入院料）	○	○	○	○	○	○
190147610	退院調整加算（一般病棟入院等）（～14日）		○	○	○		
190147710	退院調整加算（一般病棟入院等）（15日～30日）		○	○	○		

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
190147810	退院調整加算（一般病棟入院等）（31日～）		○	○	○		
190147910	退院調整加算（療養病棟入院等）（～3〇日）		○	○	○		
190148010	退院調整加算（療養病棟入院等）（31日～9〇日）		○	○	○		
190148110	退院調整加算（療養病棟入院等）（91日～12〇日）		○	○	○		
190148210	退院調整加算（療養病棟入院等）（121日～）		○	○	○		
190173310	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（～14日）			○	○		
190173410	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（15日～3〇日）			○	○		
190173510	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（31日～）			○	○		
190173610	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（～3〇日）			○	○		
190173710	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（31日～9〇日）			○	○		
190173810	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（91日～12〇日）			○	○		
190173910	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（121日～）			○	○		
190192310	入退院支援加算1（一般病棟入院基本料等）				○	○	○
190192410	入退院支援加算1（療養病棟入院基本料等）				○	○	○
190192510	入退院支援加算2（一般病棟入院基本料等）				○	○	○
190192610	入退院支援加算2（療養病棟入院基本料等）				○	○	○
190192910	入退院支援加算（特定地域）（一般病棟入院基本料等）				○	○	○
190193010	入退院支援加算（特定地域）（療養病棟入院基本料等）				○	○	○
190207470	入院時支援加算2（入退院支援加算）					○	○
190217970	入院時支援加算1（入退院支援加算）						○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

1：たとえば、入退院支援加算の算定対象は「退院困難な要因」（下記）のある患者とされている。したがって、必ずしも特定の疾患を対象としたものではないが、本指標ではとくに悪性腫瘍を対象として測定を行っている。 ※入退院支援加算1/2の対象となる「退院困難な要因」 ア 悪性腫瘍、認知症又は誤嚥性肺炎等の急性呼吸器感染症のいずれかであること イ 緊急入院であること ウ 要介護状態であるとの疑いがあるが要介護認定が未申請であること（介護保険法施行令（平成10年政令第412号）第2条各号に規定する特定疾病を有する40歳以上65歳未満の者及び65歳以上の者に限る。） エ 家族又は同居者から虐待を受けている又はその疑いがあること オ 生活困窮者であること カ 入院前に比べADLが低下し、退院後の生活様式の再編が必要であること（必要と推測されること。） キ 排泄に介助を要すること ク 同居者の有無に関わらず、必要な養育又は介護を十分に提供できる状況にないこと ケ 退院後に医療処置（胃瘻等の経管栄養法を含む。）が必要なこと コ 入退院を繰り返していること サ その他患者の状況から判断してアからコまでに準ずると認められる場合

2：入退院支援加算1と2では施設基準が異なるが、本指標では両者を合算した数を測定している

3：年度により算定基準が異なることに注意が必要である。

参考値：

参考資料：

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：薬剤管理指導実施開始日

指標番号：

QIP：2104

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：薬剤管理指導実施開始日

意義：薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：入院症例のうち、薬剤管理指導を受けた症例数

分子：分母のうち、入院日から薬剤指導管理実施を最初に算定された日までの日数（入院日を1）

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：解析期間に退院した症例を対象とする

2：薬剤指導管理実施の算定されている症例

分母のデータ2

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
113010710	薬剤管理指導料1（救命救急入院料等算定患者）	○	○	○	○		
113010810	薬剤管理指導料（安全管理を要する医薬品投与患者）	○	○	○	○	○	○
120001610	薬剤管理指導料	○	○	○	○	○	○

3：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1：入院日から薬剤指導管理実施を最初に算定された日までの日数。入院日を1とする

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：日

測定上の限界・解釈上の注意：

1：必ずしも、すべての患者に薬剤管理指導を要するわけではないが、本指標では「実施された症例」に限定している点に注意。また、入院途中に介入が必要となった症例が多い場合、指標値としては低く算出される。

参考値：

参考資料：

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：悪性腫瘍・誤嚥性肺炎・認知症の症例に対する退院支援の割合

指標番号：

QIP：2105

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：悪性腫瘍・誤嚥性肺炎・認知症の症例に対する退院支援の割合

意義：患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成30（2018）年度以降）」が新設された。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：悪性腫瘍・誤嚥性肺炎・認知症いずれかの入院症例数

分子：分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：医療資源を最も利用した傷病名に、ICD-10コードとして以下のコードが含まれる症例

分母のデータ2	
ICD-10コード	病名
C\$	C00-D48 新生物
D\$	D50-D89 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害
J69\$	固形物および液状物による肺臓炎
F00\$	アルツハイマー病の認知症
F01\$	血管性認知症
F02\$	他に分類されるその他の疾患の認知症
F03\$	詳細不明の認知症

- 3：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算が算定されている症例。以下のいずれかが算定されている症例

分子のデータ1		2010	2012	2014	2016	2018	2020
レセ電コード	診療行為名						
190128310	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○					
190128410	慢性期病棟等退院調整加算 2（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○					
190137110	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院支援計画作成加算）	○					
190137210	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院加算・療養病棟入院基本料等）	○					
190137310	慢性期病棟等退院調整加算 1（退院加算・障害者施設等入院基本料等）	○					
190137410	急性期病棟等退院調整加算 1	○					
190137510	急性期病棟等退院調整加算 2	○					
190141470	退院調整加算（認知症治療病棟入院料）	○	○	○	○	○	○
190147610	退院調整加算（一般病棟入院等）（～14日）		○	○	○		

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
190147710	退院調整加算（一般病棟入院等）（１５日～３〇日）		○	○	○		
190147810	退院調整加算（一般病棟入院等）（３１日～）		○	○	○		
190147910	退院調整加算（療養病棟入院等）（～３〇日）		○	○	○		
190148010	退院調整加算（療養病棟入院等）（３１日～９〇日）		○	○	○		
190148110	退院調整加算（療養病棟入院等）（９１日～１２〇日）		○	○	○		
190148210	退院調整加算（療養病棟入院等）（１２１日～）		○	○	○		
190173310	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（～１４日）			○	○		
190173410	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（１５日～３〇日）			○	○		
190173510	退院調整加算（一般病棟入院等）（特定地域）（３１日～）			○	○		
190173610	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（～３〇日）			○	○		
190173710	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（３１日～９〇日）			○	○		
190173810	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（９１日～１２〇日）			○	○		
190173910	退院調整加算（療養病棟入院等）（特定地域）（１２１日～）			○	○		
190192310	入退院支援加算１（一般病棟入院基本料等）				○	○	○
190192410	入退院支援加算１（療養病棟入院基本料等）				○	○	○
190192510	入退院支援加算２（一般病棟入院基本料等）				○	○	○
190192610	入退院支援加算２（療養病棟入院基本料等）				○	○	○
190192910	入退院支援加算（特定地域）（一般病棟入院基本料等）				○	○	○
190193010	入退院支援加算（特定地域）（療養病棟入院基本料等）				○	○	○
190207470	入院時支援加算２（入退院支援加算）					○	○
190217970	入院時支援加算１（入退院支援加算）						○

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

１：たとえば、入退院支援加算の算定対象は「退院困難な要因」（下記）のある患者とされている。したがって、必ずしも特定の疾患を対象としたものではないが、本指標ではとくに、悪性腫瘍・誤嚥性肺炎・認知症を対象として測定を行っている。 ※入退院支援加算１/２の対象となる「退院困難な要因」 ア 悪性腫瘍、認知症又は誤嚥性肺炎等の急性呼吸器感染症のいずれかであること イ 緊急入院であること ウ 要介護状態であるとの疑いがあるが要介護認定が未申請であること（介護保険法施行令（平成10 年政令第412 号）第２条各号に規定する特定疾病を有する40 歳以上65 歳未満の者及び65 歳以上の者に限る。） エ 家族又は同居者から虐待を受けている又はその疑いがあること オ 生活困窮者であること カ 入院前に比べＡＤＬが低下し、退院後の生活様式の再編が必要であること（必要と推測されること。） キ 排泄に介助を要すること ク 同居者の有無に関わらず、必要な養育又は介護を十分に提供できる状況にないこと ケ 退院後に医療処置（胃瘻等の経管栄養法を含む。）が必要なこと コ 入退院を繰り返していること サ その他患者の状況から判断してアからコマでに準ずると認められる場合

２：入退院支援加算１と２では施設基準が異なるが、本指標では両者を合算した数を測定している

３：年度により算定基準が異なることに注意が必要である。

参考値:

参考資料:

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合

指標番号：

QIP：2107

年度：2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：感染症系

名称：血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合

意義：血液培養は1セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2セット以上行うことが推奨されている

必要データセット：Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：血液培養のオーダー日数（人日）

分子：血液培養のオーダーが1日に2件以上ある日数（人日）

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：実施日が解析期間のケースを対象とする
- 2：このうち、EFファイルより下記の血液培養オーダー、1患者1日毎に実施された日数を集計する。同一日に複数のレコードがあっても、1とカウント。

分母のデータ2

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020
160058610	細菌培養同定検査（血液）	D018_3	○	○	○	○	○	○

- 3：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：上記血液培養の実施回数が1日2回以上の日数を合計する。実施回数は1患者1日で合計する。実施回数は、EFファイルではEF-7=’000’以外のレコード（Fファイル相当）から集計し、行為回数EF-21×使用量EF-12（ただし、使用量は「0」の場合1として計算）を1日当たりで合計したものが2以上、あるいは出来高実績点数EF-16の1日当たり合計が2回分以上（2015年度まで190点、2016年度より210点のため、算出としては例えば合計が380点以上で判定）を分子とする。EファイルFファイルが別の場合、Fファイルより使用量F-12あるいは出来高実績点数EF-16を抽出し、それに紐づくEファイルの行為回数E-15を掛け合わせて算出する。（使用量「0」の場合の処理は同様）

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：2014年度データ以降で測定（2014年度診療報酬改定から、血液を2か所以上から採取した場合に限り、2回算定できる）
- 2：「DPC導入の影響評価に係る調査」実施説明資料では行為回数（E-15、EF-21）の入力について、「同一日に同一行為が複数回発生した場合は、合計した点数がE-11、12、13に計上され、回数は1とすることを基本とする。（薬剤等）但し、合計処理が不可能な場合で、各々を別レコードとして分離できず、かつ、点数が1回当たり点数となる場合は、回数として2以上が入る。合計処理は、統一データ処理にて実施。」と記載されており、その入力方法の解釈により行為回数のみを用いた場合、分子に含まれないことがあるため、出来高実績点数も利用した指標としている。ただし、出来高実績点数には●を入力しているデータも多く存在し、DPCデータによる判定では分子に含まれないケースが潜在的に存在しうる。

参考値：

参考資料：

- 1：JAID/JSC感染症治療ガイドライン2017 一敗血症およびカテーテル関連血流感染症―

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：抗MRSA薬投与症例対して、細菌検査を実施された割合

指標番号：

QIP：2108

年度：2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：感染症

名称：抗MRSA薬投与症例対して、細菌検査を実施された割合

意義：抗MRSA薬使用時は、抗MRSA 薬および他の抗菌薬に対する感受性（耐性）の確認が勧告されている

必要データセット：Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：抗MRSA薬を投与された症例数

分子：分母のうち、細菌検査を測定された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、抗MRSA薬を投与された症例。 E/Fファイルの薬剤情報の点数コードに、以下のいずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる症例。

分母のデータ2

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
バンコマイシン塩酸塩	注射薬	6113400	○	○	○	○	○	○
アルベカシン硫酸塩	注射薬	6119400	○	○	○	○	○	○
テイコプラニン	注射薬	6119401	○	○	○	○	○	○
ダブトマイシン	注射薬	6119402	○	○	○	○	○	○
リネゾリド	注射薬	6249401	○	○	○	○	○	○
バンコマイシン塩酸塩	内服薬	6113001	○	○	○	○	○	○
リネゾリド	内服薬	6249002	○	○	○	○	○	○

- 3：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：分母のうち、細菌培養同定検査が実施された症例。E/Fファイルの診療行為の点数コードのいずれかに以下のいずれかが含まれる症例

分子のデータ1

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020
160058210	細菌培養同定検査（口腔からの検体）	D018_1	○	○	○	○	○	○
160144410	細菌培養同定検査（気道からの検体）	D018_1	○	○	○	○	○	○
160144510	細菌培養同定検査（呼吸器からの検体）	D018_1	○	○	○	○	○	○
160058310	細菌培養同定検査（消化管からの検体）	D018_2	○	○	○	○	○	○
160058610	細菌培養同定検査（血液）	D018_3	○	○	○	○	○	○
160144710	細菌培養同定検査（穿刺液）	D018_3	○	○	○	○	○	○
160058410	細菌培養同定検査（泌尿器からの検体）	D018_4	○	○	○	○	○	○
160144610	細菌培養同定検査（生殖器からの検体）	D018_4	○	○	○	○	○	○
160058710	細菌培養同定検査（その他の部位からの検体）	D018_5	○	○	○	○	○	○
160058810	細菌培養同定検査（簡易培養）	D018_6	○	○	○	○	○	○

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020
160058970	嫌気性培養加算（細菌培養同定検査）	D018_7	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: 感受性の確認が推奨されるが、診療報酬上、結果として菌が検出できず実施できなかった場合においては細菌薬剤感受性検査は算定しないため、細菌培養同定検査の有無を指標とする。

参考値:

参考資料:

1: 「抗MRSA薬使用の手引き」 <http://www.kansensho.or.jp/guidelines/>

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：大腿骨頸部骨折の早期手術割合

指標番号：

QIP：2114

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：整形外科

名称：大腿骨頸部骨折の早期手術割合

意義：適切な手術時期

必要データセット：DPC様式1

定義の要約：

分母：大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨折の手術を受けた症例

分子：分母のうち、入院2日以内に手術を受けた症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、大腿骨頸部骨折の診断を受けた症例。資源を最も投入した傷病名のICD-10コードが下記に含まれる症例

分母のデータ2

ICD-10コード	病名
S7200	大腿骨頸部骨折 閉鎖性
S7201	大腿骨頸部骨折 開放性

- 3：このうち、大腿骨頸部骨折に対する手術が行われている症例。手術1のKコードが下記に含まれる症例。

分母のデータ3

手術コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
K0441	骨折非観血的整復術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○
K046-21	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの） 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○
K0611	関節脱臼非観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○
K0631	関節脱臼観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○
K0811	人工骨頭挿入術 肩、股	○	○	○	○	○	○
K0821	人工股関節置換術	○	○	○	○	○	○
K083	鋼線等による直達牽引（初日。観血的に行った場合の手技料を含む。）（1局所につき）	○	○	○	○	○	○

- 4：入院後2日以内の死亡症例を除く。退院時転帰の値として入院後2日以内に以下のいずれかが入力されている症例を除外する

分母のデータ4

退院時転帰	説明
6	最も医療資源を投入した傷病による死亡
7	最も医療資源を投入した傷病以外による死亡

- 5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

1：分母で同定された手術が、入院から2日以内（入院日を1とする）に施行されている症例

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1：ガイドラインではできる限り早期の手術を推奨する（Grade B）

参考値:

参考資料:

1：大腿骨頸部／転子部骨折診療ガイドライン 改訂第2版

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：大腿骨転子部骨折の早期手術割合

指標番号：

QIP：2115

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：整形外科

名称：大腿骨転子部骨折の早期手術割合

意義：適切な手術時期

必要データセット：DPC様式1

定義の要約：

分母：大腿骨転子部骨折で入院し、大腿骨折の手術を受けた症例

分子：分母のうち、入院2日以内に手術を受けた症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、大腿骨転子部骨折の診断を受けた症例。資源を最も投入した傷病名のICD-10コードが下記に含まれる症例

分母のデータ2

CD-10コード	病名
S7210	大腿骨転子部骨折
S7211	大腿骨転子部開放骨折

- 3：このうち、大腿骨転子部骨折に対する手術が行われている症例。手術1のKコードが下記に含まれる症例。

分母のデータ3

手術コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
K0441	骨折非観血的整復術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○
K046-21	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの） 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○
K0611	関節脱臼非観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○
K0631	関節脱臼観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○
K0811	人工骨頭挿入術 肩、股	○	○	○	○	○	○
K0821	人工股関節置換術	○	○	○	○	○	○
K083	鋼線等による直達牽引（初日。観血的に行った場合の手技料を含む。）（1局所につき）	○	○	○	○	○	○

- 4：入院後2日以内の死亡症例を除く。退院時転帰の値として入院後2日以内に以下のいずれかが入力されている症例を除外する

分母のデータ4

退院時転帰	説明
6	最も医療資源を投入した傷病による死亡
7	最も医療資源を投入した傷病以外による死亡

- 5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

1：分母で同定された手術が、入院から2日以内（入院日を1とする）に施行されている症例

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1：ガイドラインではできる限り早期の手術を推奨する（Grade B）

参考値:

参考資料:

1：大腿骨頸部／転子部骨折診療ガイドライン 改訂第2版

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：外来インスリン治療症例への糖尿病透析予防指導実施割合

指標番号：

QIP：2116

年度：2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：外来インスリン治療症例への糖尿病透析予防指導実施割合

意義：

必要データセット：DPC様式1 外来EFファイル

定義の要約：

分母：インスリン注射を処方された症例の処方された月数

分子：分母の月に、糖尿病透析予防指導の実施された月数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に外来で受診した症例を対象とする
- 2：このうち、インスリン注射を処方された症例。E/Fファイルの薬剤情報の点数コードのいずれかに、以下のいずれかの薬価基準コードに対応するレセ電コードが含まれる症例を1か月1症例で集計（月数）

分母のデータ2

薬価基準コード上7ケタ	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
2492403	ヒトインスリン（遺伝子組換え）	○	○	○	○	○	○
2492405	イソフェンインスリン水性		○				
2492406	インスリン		○				
2492407	インスリン亜鉛水性		○				
2492409	結晶性インスリン亜鉛水性		○				
2492410	無晶性インスリン亜鉛水性		○				
2492411	プロタミンインスリン亜鉛水性		○				
2492413	ヒトインスリン（遺伝子組換え）	○	○	○	○	○	○
2492414	インスリンリスプロ（遺伝子組換え）	○	○	○	○	○	○
2492415	インスリンアスパルト（遺伝子組換え）	○	○	○	○	○	○
2492416	インスリングルギン（遺伝子組換え）	○	○	○	○	○	○
2492417	インスリンデテミル（遺伝子組換え）	○	○	○	○	○	○
2492418	インスリングルリジン（遺伝子組換え）	○	○	○	○	○	○
2492419	インスリンデグルデク（遺伝子組換え）		○	○	○	○	○
2492500	インスリンデグルデク（遺伝子組換え）・インスリンアスパルト（遺伝子組換え）			○	○	○	○

- 3：特定疾患療養管理料の算定された症例は除外する

分母のデータ3

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
113001810	特定疾患療養管理料（診療所）	○	○	○	○	○	○
113001910	特定疾患療養管理料（1●●床未満）	○	○	○	○	○	○
113002010	特定疾患療養管理料（1●●床以上2●●床未満）	○	○	○	○	○	○

分子の定義：

1：糖尿病透析予防指導料を算定された症例。分母の月に、E/Fファイルの診療行為の点数コードのいずれかに以下が含まれる症例を1か月1症例で集計（月数）

分子のデータ1

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
113013610	糖尿病透析予防指導管理料		○	○	○	○	○
113015610	糖尿病透析予防指導管理料（特定地域）			○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

参考値：

参考資料：

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：服薬指導 b. 安全管理が必要な医薬品に対する服薬指導実施率

指標番号：

QIP: 2120

年度：2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：服薬指導 b. 安全管理が必要な医薬品に対する服薬指導実施率

意義：服薬指導により薬物療法に対する安全性や有用性を患者が認識すれば、アドヒアランスの向上(患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定にそって治療を受けること)に繋がると期待される。

必要データセット：EFファイル

定義の要約：

分母：特に安全管理が必要な医薬品として、別表に定める医薬品のいずれかが投薬又は注射されている症例数

分子：分母のうち薬剤管理指導料が算定された症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：計測期間において、EF ファイルおよびレセプト（入院）の診療行為レコードを参照し、当該入院期間中に以下のいずれかが処方された患者を抽出し、分母とする。

分母のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名
1124003	ニトラゼパム
1124701	ジアゼパム
1125003	フェノバルビタール
1125004	フェノバルビタール
1125402	フェノバルビタール
1125700	フェノバルビタールナトリウム
1126001	臭化カリウム
1126002	臭化ナトリウム
1131001	アセチルフェネトライド
1132001	エトトイン
1132002	フェニトイン
1132400	フェニトインナトリウム
1132401	ホスフェニトインナトリウム水和物
1133002	トリメタジオン
1135002	プリミドン
1137001	スルチアム
1139001	エトスクシミド
1139002	カルバマゼピン
1139003	クロナゼパム
1139004	バルプロ酸ナトリウム
1139005	ゾニサミド
1139006	クロバザム
1139007	ガバペンチン

薬価基準コード7桁	成分名
1139008	トピラマート
1139009	ラモトリギン
1139010	レベチラセタム
1139011	スチリペントール
1139012	ルフィナミド
1139013	ビガバトリン
1139014	ペランパネル水和物
1139015	ラコサミド
1139100	フェニトイン・フェノバルビタール
1139103	フェニトイン・フェノバルビタール配合剤
1139104	フェニトイン・フェノバルビタール配合剤
1139105	フェニトイン・フェノバルビタール配合剤
1139400	フェノバルビタールナトリウム
1139401	ミダゾラム
1139402	レベチラセタム
1143001	アスピリン
1171001	クロルプロマジン塩酸塩
1171005	クロルプロマジンフェノールフタリン酸塩
1171400	クロルプロマジン塩酸塩
1172004	ペルフェナジンフェンジゾ酸塩
1172005	プロペリシアジン
1172006	ペルフェナジン
1172007	ペルフェナジン
1172009	フルフェナジンマレイン酸塩
1172010	プロクロルペラジンマレイン酸塩
1172013	ペルフェナジンマレイン酸塩
1172014	レボメプロマジンマレイン酸塩
1172402	塩酸ペルフェナジン
1172403	レボメプロマジン塩酸塩
1172404	プロクロルペラジン
1172405	フルフェナジンデカン酸エステル
1174002	クロミプラミン塩酸塩
1174004	ロフェプラミン塩酸塩
1174005	トリミプラミンマレイン酸塩
1174006	イミプラミン塩酸塩
1174401	クロミプラミン塩酸塩
1179001	アモキサピン
1179002	アミトリプチリン塩酸塩
1179004	ノルトリプチリン塩酸塩
1179005	ヒドロキシジン塩酸塩
1179006	ピバンペロン塩酸塩
1179008	マプロチリン塩酸塩
1179009	メチルフェニデート塩酸塩
1179011	オキシペルチン

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

1179012	クロチアゼパム
1179015	スピペロン
1179016	スルピリド
1179017	炭酸リチウム
1179019	ヒドロキシジシパモ酸塩
1179020	ハロペリドール
1179022	ピモジド
1179023	ペモリン
1179024	ゾテピン
1179025	エチゾラム
1179026	チミペロン
1179027	ドスレピン塩酸塩
1179028	ブロムペリドール
1179030	クロカプラミン塩酸塩水和物
1179032	スルトプリド塩酸塩
1179033	ミアンセリン塩酸塩
1179034	セチプチリンマレイン酸塩
1179035	モサプラミン塩酸塩
1179036	ネモナプリド
1179037	トラゾドン塩酸塩
1179038	リスペリドン
1179039	フルボキサミンマレイン酸塩
1179040	ミルナシبران塩酸塩
1179041	パロキセチン塩酸塩水和物
1179042	クエチアピンフマル酸塩
1179043	ペロスピロン塩酸塩水和物
1179044	オランザピン
1179045	アリピプラゾール
1179046	塩酸セルトラリン
1179047	モダフィニル
1179048	ブロナンセリン
1179049	クロザピン
1179050	アトモキセチン塩酸塩
1179051	ミルタザピン
1179052	糖尿病用剤
1179053	パリペリドン
1179054	エスシタロプラムシュウ酸塩
1179055	ベンラファキシン塩酸塩
1179056	アセナピンマレイン酸塩
1179057	グアンファシン塩酸塩
1179058	ブレクスピプラゾール
1179401	ヒドロキシジシパモ酸塩
1179403	スルピリド

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

1179404	ハロペリドール
1179405	チミペロン
1179406	ハロペリドールデカン酸エステル
1179407	リスペリドン
1179408	オランザピン
1179409	パリペリドンパルミチン酸エステル
1179410	アリピプラゾール水和物
1214401	リドカイン
1214404	リドカイン
1242008	アトロピン硫酸塩水和物
1242405	アトロピン硫酸塩水和物
1242406	アトロピン硫酸塩水和物
2113001	ジギトキシン
2113003	ジゴキシン
2113004	ジゴキシン
2113005	メチルジゴキシン
2113006	ラナトシドC
2113400	ジゴキシン
2113401	デスラノシド
2115001	アミノフィリン水和物
2115002	アミノフィリン水和物
2115400	テオフィリン製剤 キサンチン誘導体1
2115404	テオフィリン製剤 キサンチン誘導体1
2119002	d l - イソプレナリン塩酸塩
2119400	l - イソプレナリン塩酸塩
2121001	プロカインアミド塩酸塩
2121400	プロカインアミド塩酸塩
2122001	キニジン硫酸塩水和物
2122002	キニジン硫酸塩水和物
2123001	アセブトロール塩酸塩
2123005	カルテオロール塩酸塩
2123006	ブフェトロール塩酸塩
2123008	プロプラノロール塩酸塩
2123009	ピンドロール
2123011	アテノロール
2123014	アロチノロール塩酸塩
2123015	ナドロール
2123016	ビソプロロールフマル酸塩
2123402	プロプラノロール塩酸塩
2123404	ランジオロール塩酸塩
2123405	エスモロール塩酸塩
2129002	ジソピラミド
2129003	メキシレチン塩酸塩

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

2129004	アブリンジン塩酸塩
2129005	リン酸ジソピラミド
2129006	プロパフェノン塩酸塩
2129007	シベンゾリンコハク酸塩
2129008	ピルシカイニド塩酸塩水和物
2129009	フレカイニド酢酸塩
2129010	アミオダロン塩酸塩
2129011	ベプリジル塩酸塩水和物
2129012	ピルメノール塩酸塩水和物
2129013	ソタロール塩酸塩
2129401	リン酸ジソピラミド
2129402	ベラパミル塩酸塩
2129403	メキシレチン塩酸塩
2129404	アブリンジン塩酸塩
2129405	シベンゾリンコハク酸塩
2129406	フレカイニド酢酸塩
2129407	ニフェカラント塩酸塩
2129408	ピルシカイニド塩酸塩水和物
2129409	塩酸リドカイン
2129410	アミオダロン塩酸塩
2134001	アセタゾラミド
2134002	アセタゾラミド
2134400	アセタゾラミドナトリウム
2149010	メトプロロール酒石酸塩
2149032	カルベジロール
2160400	フェニレフリン塩酸塩
2171008	ベラパミル塩酸塩
2171010	ジピリダモール
2171405	ジルチアゼム塩酸塩
2251001	テオフィリン
2329009	スルピリド
2329401	スルピリド
2355002	硫酸マグネシウム水和物
2399016	ブデソニド
2399402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2399403	インフリキシマブ（遺伝子組換え）〔インフリキシマブ後続1〕
2399404	インフリキシマブ（遺伝子組換え）〔インフリキシマブ後続2〕
2399716	ブデソニド
2411401	酢酸テトラコサクチド亜鉛
2452001	コルチゾン酢酸エステル
2452002	ヒドロコルチゾン
2452003	フルドロコルチゾン酢酸エステル
2452400	ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

2452402	ヒドロコルチゾンリン酸エステルナトリウム
2454002	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2454003	トリアムシノロン
2454004	ベタメタゾン
2454402	トリアムシノロンアセトニド
2454404	ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム
2454405	デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム
2454407	デキサメタゾンパルミチン酸エステル
2454408	ベタメタゾン酢酸エステル・ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム
2454700	ベタメタゾン
2454701	ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム
2456001	プレドニゾロン
2456002	プレドニゾロン
2456003	メチルプレドニゾロン
2456400	メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム
2456402	メチルプレドニゾロン酢酸エステル
2456405	プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム
2456700	プレドニゾロンリン酸エステルナトリウム
2459100	ベタメタゾン・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩
2462001	メチルテストステロン
2474001	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2478001	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2478002	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2492403	糖尿病用剤
2492413	糖尿病用剤
2492414	糖尿病用剤
2492415	糖尿病用剤
2492416	糖尿病用剤
2492417	糖尿病用剤
2492418	糖尿病用剤
2492419	糖尿病用剤
2492420	インスリングラルギン（遺伝子組換え）〔インスリングラルギン後続1〕
2492421	インスリングラルギン（遺伝子組換え）〔インスリングラルギン後続2〕
2492500	インスリン デグルデク（遺伝子組換え）・インスリン アスパルト（遺伝子組換え）
2499003	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2499006	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2499403	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2499406	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2499407	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
2499410	糖尿病用剤
2499411	糖尿病用剤
2499412	デガレリクス酢酸塩
2499415	糖尿病用剤

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

2499416	デュラグルチド（遺伝子組換え）
3229400	塩化カリウム
3229401	L - アスパラギン酸カリウム
3229500	アスパラギン酸カリウム・マグネシウム
3319402	カリウム製剤（注射）
3319406	リン酸二カリウム
3332001	ワルファリンカリウム
3339001	ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩
3339002	エドキサバントシル酸塩水和物
3339003	リバーロキサバン
3339004	アピキサバン
3399001	血液凝固阻止剤 チクロピジン
3399002	血液凝固阻止剤 シロスタゾール
3399007	血液凝固阻止剤 アスピリン血液
3399008	血液凝固阻止剤 プラビックス
3399009	プラスグレル塩酸塩
3399011	チカグレロル
3399100	血液凝固阻止剤 アスピリン血液
3399101	クロピドグレル硫酸塩・アスピリン
3399102	アスピリン・ランソプラゾール
3929004	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3929407	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3961001	糖尿病用剤
3961002	糖尿病用剤
3961003	糖尿病用剤
3961004	糖尿病用剤
3961006	糖尿病用剤
3961007	糖尿病用剤
3961008	糖尿病用剤
3962001	糖尿病用剤
3962002	糖尿病用剤
3969003	糖尿病用剤
3969004	糖尿病用剤
3969006	糖尿病用剤
3969007	糖尿病用剤
3969008	糖尿病用剤
3969009	糖尿病用剤
3969010	糖尿病用剤
3969011	糖尿病用剤
3969012	糖尿病用剤
3969013	糖尿病用剤
3969014	糖尿病用剤
3969015	糖尿病用剤

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

3969016	糖尿病用剤
3969017	糖尿病用剤
3969018	イブラグリフロジン　Ｌ－プロリン
3969019	ダバグリフロジンプロピレングリコール水和物
3969020	ルセオグリフロジン水和物
3969021	トホグリフロジン水和物
3969022	カナグリフロジン水和物
3969023	エンバグリフロジン
3969024	トレラグリプチンコハク酸塩
3969025	オマリグリプチン
3969100	糖尿病用剤
3969101	糖尿病用剤
3969102	糖尿病用剤
3969103	糖尿病用剤
3969104	ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩
3969105	アログリプチン安息香酸塩・メトホルミン塩酸塩
3969106	テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物・カナグリフロジン水和物
3969107	シタグリプチンリン酸塩水和物・イブラグリフロジン　Ｌ－プロリン
3999002	ミゾリビン
3999004	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3999005	アザチオプリン
3999014	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3999016	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3999017	ミコフェノール酸　モフェチル
3999020	レフルノミド
3999022	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3999031	イグラチモド
3999034	トファシチニブクエン酸塩
3999043	バリシチニブ
3999406	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3999416	タクロリムス水和物
3999417	グスペリムス塩酸塩
3999418	パミドロン酸二ナトリウム水和物
3999423	ゾレドロン酸水和物
3999424	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3999426	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3999429	アパタセプト（遺伝子組換え）
3999433	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
3999435	デノスマブ（遺伝子組換え）
3999437	セルトリズマブ　ペゴル（遺伝子組換え）
3999444	サリルマブ（遺伝子組換え）
3999448	エタネルセプト（遺伝子組換え）〔エタネルセプト後続１〕
4211002	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

4211401	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4211402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4213002	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4213400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219002	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219003	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219004	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219401	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219403	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219404	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219405	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4219406	ストレプトゾシン
4219700	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4221001	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4222001	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4222400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4223002	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4223003	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4223004	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4223005	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4223400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4223401	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4223700	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4223701	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4224001	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4224401	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4224402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4224403	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4229001	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4229002	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4229100	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4229101	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4229400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4229401	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4229402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4229403	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4229404	プラトトレキサート
4231400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4233400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4234400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4234402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

4234700	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4235400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4235401	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4235402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4235403	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4235404	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4235405	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4235406	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4239400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4239401	イノツズマブ オゾガマイシン（遺伝子組換え）
4240001	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240401	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240403	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240404	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240405	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240406	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240407	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240408	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240409	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4240410	カバジタキセル アセトン付加物
4291002	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291003	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291004	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291005	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291006	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291007	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291009	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291010	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291011	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291012	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291013	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291014	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291015	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291016	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291017	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291018	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291019	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291020	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291021	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291022	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291023	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

4291024	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291025	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291026	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291027	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291028	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291029	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291030	アフATCHニブマレイン酸塩
4291031	エンザルタミド
4291032	アレクチニブ塩酸塩
4291033	アピラテロン酢酸エステル
4291034	ルキシソリチニブリン酸塩
4291035	シロリムス
4291036	ボスチニブ水和物
4291037	ベムラフェニブ
4291038	ボマリドミド
4291039	レンパチニブメシル酸塩
4291040	パノビノスタット乳酸塩
4291041	バンデタニブ
4291042	ベキサロテン
4291043	イブルチニブ
4291044	セリチニブ
4291045	オシメルチニブメシル酸塩
4291046	ダブラフェニブメシル酸塩
4291047	トラメチニブ ジメチルスルホキシド付加物
4291048	ボナチニブ塩酸塩
4291049	イクキサゾミブクエン酸エステル
4291050	フォロデシン塩酸塩
4291051	パルボシクリブ
4291052	オラパリブ
4291400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291401	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291403	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291404	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291405	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291406	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291407	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291408	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291409	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291410	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291412	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291413	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291414	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

4291415	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291416	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291417	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291418	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291419	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291420	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291421	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291422	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291423	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291424	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4291425	ブレンツキシマブ ベドチン（遺伝子組換え）
4291426	トラスツズマブ エムタンシン（遺伝子組換え）
4291427	ニボルマブ（遺伝子組換え）
4291428	アレムツズマブ（遺伝子組換え）
4291429	ラムシルマブ（遺伝子組換え）
4291430	イピリムマブ（遺伝子組換え）
4291431	トラベクテジン
4291432	塩化ラジウム（ ^{223}Ra ）
4291433	カルフィルゾミブ
4291434	エロツズマブ（遺伝子組換え）
4291435	ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）
4291436	アフリベルセプト ベータ（遺伝子組換え）
4291437	ダラツムマブ（遺伝子組換え）
4291438	アベルマブ（遺伝子組換え）
4291439	リツキシマブ（遺伝子組換え）〔リツキシマブ後続 1〕
4291440	ロミデプシン
4291441	アテゾリズマブ（遺伝子組換え）
4291442	トラスツズマブ（遺伝子組換え）〔トラスツズマブ後続 1〕
4291443	デュルバルマブ（遺伝子組換え）
4291444	オビヌツズマブ（遺伝子組換え）
4291700	シロリムス
4299002	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4299003	アナグレリド塩酸塩水和物
4299100	トリフルリジン・チピラシル塩酸塩
4299400	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4299401	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4299403	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4299404	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4299405	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
4300003	ヨウ化ナトリウム（ ^{131}I ）
5200050	柴胡加竜骨牡蛎湯エキス
6250001	抗HIV薬
6250003	抗HIV薬

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

6250006	抗HIV薬
6250009	抗HIV薬
6250011	抗HIV薬
6250012	抗HIV薬
6250013	抗HIV薬
6250014	抗HIV薬
6250015	抗HIV薬
6250023	抗HIV薬
6250024	抗HIV薬
6250027	抗HIV薬
6250028	抗HIV薬
6250030	抗HIV薬
6250032	抗HIV薬
6250033	抗HIV薬
6250034	抗HIV薬
6250036	抗HIV薬
6250038	抗HIV薬
6250100	抗HIV薬
6250101	抗HIV薬
6250102	抗HIV薬
6250103	抗HIV薬
6250104	抗HIV薬
6250105	抗HIV薬
6250106	抗HIV薬
6250109	エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩
6250110	ダルナビル エタノール付加物・コビスタット
6250111	エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩
6250114	リルピビルン塩酸塩・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩
6391700	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
6399402	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
6399404	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
6399408	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
6399411	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
6399418	バシリキシマブ（遺伝子組換え）
6399420	ペグインターフェロンアルファ - 2 b（遺伝子組換え）
6399421	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
6399423	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
1179100	クロルプロマジン・プロメタジン
1179101	クロルプロマジン・プロメタジン
2123002	アルプレノロール塩酸塩
2454401	デキサメタゾンメタスルホ安息香酸エステルナトリウム
3399010	ルストロンボパグ
4299001	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤

薬価基準コード7桁	成分名
-----------	-----

6250007	抗HIV薬
6250010	抗HIV薬
6250020	ラミブジン
6391701	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
6399406	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤
6399410	抗悪性腫瘍剤と免疫抑制剤

分子の定義：

1：分母のうち薬剤管理指導料が算定された患者数

分子のデータ1

レセ電コード	診療行為名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
113010710	薬剤管理指導料 1	○	○	○	○		
113010810	薬剤管理指導料 2	○	○	○			
120001610	薬剤管理指導料 3	○	○	○			
113010810	薬剤管理指導料 1				○	○	○
120001610	薬剤管理指導料 2				○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

1：分母で検索する薬剤は、「特定薬剤管理指導加算等の算定対象となる薬剤一覧」として、これまでに対象となったものをすべて含める。このため、入院当時「加算の算定対象ではない」症例が分母に含まれるが、本指標で測定する分子は薬剤管理指導全般であり、薬剤師による何らかの介入があることが望ましいとして指標の設定を行っている。

2：2018年9月に本指標を改訂して、薬剤の一覧に過去の薬剤についても薬価基準コードを用いて網羅させた。

参考値：

参考資料：

1：独立行政法人 国立病院機構 臨床評価指標 Ver.3計測マニュアル

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：手術実施患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

指標番号：

QIP：2121

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：呼吸器系

名称：手術実施患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

意義：周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は、発生率を下げることにつながる。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院症例数

分子：分母のうち肺血栓塞栓症の予防対策（弾性ストッキングの着用、間歇的空気圧迫装置の利用、抗凝固療法のいずれか、または2つ以上）が実施された症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：計測期間において、EF ファイルを参照し、危険因子の手術〔下記〕（リスクレベルが「中」以上の手術は『肺血栓塞栓症/ 深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）の予防ガイドライン』に準じて抽出）のいずれかの手術名がある退院患者を抽出し、分母とする。なお、様式1の生年月日と入院年月日より入院時年齢を求め、区分1 は15 歳以上の患者、区分2 は40歳以上の患者を対象とする。

分母のデータ1

区分	コード	診療行為名
区分 1	150009410	筋膜切離術
区分 1	150009510	筋膜切開術
区分 1	150009610	筋切離術
区分 1	150009710	股関節内転筋切離術
区分 1	150009810	股関節筋群解離術
区分 1	150009910	筋炎手術（腸腰筋）
区分 1	150010010	筋炎手術（殿筋）
区分 1	150010110	筋炎手術（大腿筋）
区分 1	150011110	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（大腿）
区分 1	150011210	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（下腿）
区分 1	150011410	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（足）
区分 1	150011810	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術（大腿）
区分 1	150011910	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術（下腿）
区分 1	150012110	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術（足）
区分 1	150019210	骨折観血的手術（大腿）
区分 1	150019410	骨折観血的手術（下腿）
区分 1	150019610	骨折観血的手術（膝蓋骨）
区分 1	150019810	骨折観血的手術（足）
区分 1	150020710	骨内異物（挿入物を含む）除去術（大腿）
区分 1	150021110	骨内異物（挿入物を含む）除去術（膝蓋骨）
区分 1	150021310	骨内異物（挿入物を含む）除去術（足）
区分 1	150021610	骨部分切除術（大腿）

区分	コード	診療行為名
区分 1	150021810	骨部分切除術（下腿）
区分 1	150022010	骨部分切除術（膝蓋骨）
区分 1	150022210	骨部分切除術（足）
区分 1	150022710	腐骨摘出術（大腿）
区分 1	150022910	腐骨摘出術（下腿）
区分 1	150023110	腐骨摘出術（膝蓋骨）
区分 1	150024910	骨腫瘍切除術（大腿）
区分 1	150025110	骨腫瘍切除術（下腿）
区分 1	150025510	骨腫瘍切除術（足）
区分 1	150025850	多発性軟骨性外骨腫摘出術（大腿）
区分 1	150026050	多発性軟骨性外骨腫摘出術（下腿）
区分 1	150026710	骨悪性腫瘍手術（大腿）
区分 1	150026910	骨悪性腫瘍手術（下腿）
区分 1	150027710	骨切り術（大腿）
区分 1	150027910	骨切り術（下腿）
区分 1	150028110	骨切り術（膝蓋骨）
区分 1	150028310	骨切り術（足）
区分 1	150028810	偽関節手術（大腿）
区分 1	150029010	偽関節手術（下腿）
区分 1	150029210	偽関節手術（膝蓋骨）
区分 1	150029410	偽関節手術（足）
区分 1	150032010	関節切開術（股）
区分 1	150032110	関節切開術（膝）
区分 1	150035310	関節脱臼靱血の整復術（股）
区分 1	150035410	関節脱臼靱血の整復術（膝）
区分 1	150035810	関節脱臼靱血の整復術（足）
区分 1	150036310	関節内異物（挿入物）除去術（股）
区分 1	150036410	関節内異物（挿入物）除去術（膝）
区分 1	150036810	関節内異物（挿入物）除去術（足）
区分 1	150037210	関節滑膜切除術（股）
区分 1	150037310	関節滑膜切除術（膝）
区分 1	150037710	関節滑膜切除術（足）
区分 1	150038350	滑液膜摘出術（膝）
区分 1	150038750	滑液膜摘出術（足）
区分 1	150040910	半月板切除術
区分 1	150041810	関節切除術（股）
区分 1	150041910	関節切除術（膝）
区分 1	150042310	関節切除術（足）
区分 1	150042710	関節内骨折靱血の手術（股）
区分 1	150042810	関節内骨折靱血の手術（膝）
区分 1	150043210	関節内骨折靱血の手術（足）
区分 1	150043510	靱帯断裂縫合術（十字靱帯）
区分 1	150043610	靱帯断裂縫合術（膝側副靱帯）
区分 1	150045410	靱血の関節授動術（膝）

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 1	150045810	観血の関節授動術（足）
区分 1	150046210	観血の関節制動術（股）
区分 1	150046310	観血の関節制動術（膝）
区分 1	150047110	観血の関節固定術（股）
区分 1	150047210	観血の関節固定術（膝）
区分 1	150047610	観血の関節固定術（足）
区分 1	150047910	靱帯断裂形成手術（十字靱帯）
区分 1	150048010	靱帯断裂形成手術（膝側副靱帯）
区分 1	150048310	関節形成手術（股）
区分 1	150048410	関節形成手術（膝）
区分 1	150048810	関節形成手術（足）
区分 1	150049510	人工骨頭挿入術（股）
区分 1	150050010	人工骨頭挿入術（足）
区分 1	150050410	人工関節置換術（股）
区分 1	150050510	人工関節置換術（膝）
区分 1	150050910	人工関節置換術（足）
区分 1	150051610	四肢切断術（大腿）
区分 1	150051710	四肢切断術（下腿）
区分 1	150051810	四肢切断術（足）
区分 1	150052210	四肢関節離断術（股）
区分 1	150052310	四肢関節離断術（膝）
区分 1	150052610	四肢関節離断術（足）
区分 1	150052950	化膿性又は結核性関節炎掻爬術（股）
区分 1	150053050	化膿性又は結核性関節炎掻爬術（膝）
区分 1	150053350	化膿性又は結核性関節炎掻爬術（足）
区分 1	150058810	腸骨窩膿瘍切開術
区分 1	150058910	腸骨窩膿瘍掻爬術
区分 1	150059310	脊椎骨掻爬術
区分 1	150059410	骨盤骨掻爬術
区分 1	150059810	脊椎、骨盤脱臼観血の手術
区分 1	150060210	仙腸関節脱臼観血の手術
区分 1	150060310	恥骨結合離開観血の手術
区分 1	150060810	腸骨翼骨折観血の手術
区分 1	150060910	骨盤骨折観血の手術（腸骨翼骨折を除く）
区分 1	150061810	脊椎内異物（挿入物）除去術
区分 1	150061910	骨盤内異物（挿入物）除去術
区分 1	150062910	黄色靱帯骨化症手術
区分 1	150063110	椎間板摘出術（前方摘出術）
区分 1	150063210	椎間板摘出術（後方摘出術）
区分 1	150063310	椎間板摘出術（側方摘出術）
区分 1	150063710	脊椎腫瘍切除術
区分 1	150063810	骨盤腫瘍切除術
区分 1	150063910	脊椎悪性腫瘍手術

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 1	150064010	骨盤悪性腫瘍手術
区分 1	150064210	骨盤切断術
区分 1	150064410	脊椎披裂手術（神経処置を伴う）
区分 1	150064510	脊椎披裂手術（その他）
区分 1	150064610	脊椎骨切り術
区分 1	150064710	骨盤骨切り術
区分 1	150064810	臼蓋形成手術
区分 1	150066110	仙腸関節固定術
区分 1	150067210	試験開頭術
区分 1	150067350	穿頭術及び試験開頭術を 2 か所以上
区分 1	150067410	減圧開頭術（その他）
区分 1	150067510	脳膿瘍排膿術
区分 1	150067710	耳性頭蓋内合併症手術
区分 1	150067850	耳科的硬脳膜外膿瘍切開術
区分 1	150067910	鼻性頭蓋内合併症手術
区分 1	150068310	脳切截術（開頭）
区分 1	150068410	延髄における脊髄視床路切截術
区分 1	150068510	三叉神経節後線維切截術
区分 1	150068610	視神経管開放術
区分 1	150068710	顔面神経減圧手術（乳様突起経由）
区分 1	150068850	顔面神経管開放術
区分 1	150068910	脳神経手術（開頭）
区分 1	150069050	頭蓋内微小血管減圧術
区分 1	150069110	頭蓋骨腫瘍摘出術
区分 1	150069210	頭皮、頭蓋骨悪性腫瘍手術
区分 1	150069510	頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜外）
区分 1	150069610	頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜下）
区分 1	150069710	頭蓋内血腫除去術（開頭）（脳内）
区分 1	150069850	脳血管塞栓摘出術
区分 1	150069950	脳血管血栓摘出術
区分 1	150070010	脳内異物摘出術
区分 1	150070110	脳膿瘍全摘術
区分 1	150070210	頭蓋内腫瘤摘出術
区分 1	150070310	脳切除術
区分 1	150070510	頭蓋内腫瘍摘出術（松果体部腫瘍）
区分 1	150071010	経鼻の下垂体腫瘍摘出術
区分 1	150071110	脳動静脈奇形摘出術
区分 1	150071310	脳・脳膜脱手術
区分 1	150072110	頭蓋骨形成手術（頭蓋骨のみ）
区分 1	150072210	頭蓋骨形成手術（硬膜形成を伴う）
区分 1	150072950	骨形成的片側椎弓切除術と髄核摘出術
区分 2	150121610	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術（乳腺全摘術））
区分 2	150121710	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施しない）

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 2	150121810	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施する）
区分 2	150121910	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術（郭清を併施する））
区分 2	150123810	胸壁悪性腫瘍摘出術（胸壁形成手術を併施）
区分 2	150123910	胸壁悪性腫瘍摘出術（その他）
区分 2	150124150	胸骨悪性腫瘍摘出術（胸壁形成手術を併施）
区分 2	150124710	試験開胸術
区分 2	150127350	試験的開胸開腹術
区分 2	150128310	縦隔腫瘍、胸腺摘出術
区分 2	150128610	縦隔悪性腫瘍手術（単純摘出）
区分 2	150129710	肺切除術（楔状部分切除）
区分 2	150129810	肺切除術（区域切除（１肺葉に満たない））
区分 2	150129910	肺切除術（肺葉切除）
区分 2	150130010	肺切除術（複合切除（１肺葉を超える））
区分 2	150130110	肺切除術（１側肺全摘）
区分 2	150130650	肺切除と胸郭形成手術併施
区分 2	150132210	食道縫合術（穿孔、損傷）（開胸手術）
区分 2	150132310	食道縫合術（穿孔、損傷）（開腹手術）
区分 2	150132410	食道周囲膿瘍切開誘導術（開胸手術）
区分 2	150132610	食道周囲膿瘍切開誘導術（その他）
区分 2	150133810	食道切除再建術（頸部、胸部、腹部の操作）
区分 2	150133910	食道切除再建術（胸部、腹部の操作）
区分 2	150134010	食道切除再建術（腹部の操作）
区分 2	150134110	食道悪性腫瘍手術（単に切除のみ）（頸部食道）
区分 2	150134210	食道悪性腫瘍手術（単に切除のみ）（胸部食道）
区分 2	150135110	食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（頸部、胸部、腹部の操作）
区分 2	150135210	食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（胸部、腹部の操作）
区分 2	150135310	食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（腹部の操作）
区分 2	150135510	食道アカラシア形成手術
区分 2	150136510	食道・胃静脈瘤硬化療法（内視鏡）
区分 2	150136610	横隔膜縫合術（経胸）
区分 2	150136710	横隔膜縫合術（経腹）
区分 2	150136810	横隔膜縫合術（経胸及び経腹）
区分 2	150136950	横隔膜レラクサチオ手術（経胸）
区分 2	150137050	横隔膜レラクサチオ手術（経腹）
区分 2	150137150	横隔膜レラクサチオ手術（経胸及び経腹）
区分 2	150137210	胸腹裂孔ヘルニア手術（経胸）（１歳以上）
区分 2	150137310	胸腹裂孔ヘルニア手術（経腹）（１歳以上）
区分 2	150137410	胸腹裂孔ヘルニア手術（経胸及び経腹）（１歳以上）
区分 2	150137810	後胸骨ヘルニア手術
区分 2	150137910	食道裂孔ヘルニア手術（経胸）
区分 2	150138010	食道裂孔ヘルニア手術（経腹）
区分 2	150138110	食道裂孔ヘルニア手術（経胸及び経腹）
区分 2	150138210	心膜縫合術

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 2	150138310	心筋縫合止血術（外傷性）
区分 2	150138410	心膜切開術
区分 2	150138510	心膜嚢胞、心膜腫瘍切除術
区分 2	150160810	急性汎発性腹膜炎手術
区分 2	150162310	後腹膜悪性腫瘍手術
区分 2	150165210	胃切除術（単純切除術）
区分 2	150166110	胃全摘術（単純全摘術）
区分 2	150168010	胃切除術（悪性腫瘍手術）
区分 2	150168110	胃全摘術（悪性腫瘍手術）
区分 2	150169950	胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に限局するもの（リンパ節郭清を含む））
区分 2	150170050	胆管悪性腫瘍手術
区分 2	150170310	食道下部迷走神経切除術（幹迷切）（胃切除術を併施）
区分 2	150171310	胃腸吻合術（ブラウン吻合を含む）
区分 2	150171510	十二指腸空腸吻合術
区分 2	150172410	胆嚢摘出術
区分 2	150173110	胆管形成手術（胆管切除術を含む）
区分 2	150176110	肝内結石摘出術（開腹）
区分 2	150176210	肝嚢胞、肝膿瘍摘出術
区分 2	150177210	肝内胆管（肝管）胃（腸）吻合術
区分 2	150177310	肝内胆管外瘻造設術（開腹）
区分 2	150177410	肝内胆管外瘻造設術（経皮経肝）
区分 2	150178110	脾体尾部腫瘍切除術（脾尾部切除術・腫瘍摘出術含む）（脾同時切除）
区分 2	150178210	脾体尾部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）
区分 2	150178410	脾頭部腫瘍切除術（脾頭十二指腸切除術）
区分 2	150178710	脾全摘術
区分 2	150179010	脾嚢胞胃（腸）吻合術
区分 2	150179110	脾管空腸吻合術
区分 2	150179310	脾嚢胞外瘻造設術（開腹）
区分 2	150179710	脾縫合術（部分切除を含む）
区分 2	150179810	脾摘出術
区分 2	150180010	破裂腸管縫合術
区分 2	150180110	腸切開術
区分 2	150180210	腸管癒着症手術
区分 2	150180350	腸閉塞症手術（腸管癒着症手術）
区分 2	150180550	腸閉塞症手術（腸重積症整復術）（観血的）
区分 2	150180650	腸閉塞症手術（小腸切除術）（悪性腫瘍手術以外の切除術）
区分 2	150180750	腸閉塞症手術（結腸切除術）（小範囲切除）
区分 2	150180850	腸閉塞症手術（結腸切除術）（半側切除）
区分 2	150180950	腸閉塞症手術（結腸切除術）（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）
区分 2	150181110	腸重積症整復術（観血的）
区分 2	150181210	小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）
区分 2	150181310	小腸腫瘍、小腸憩室摘出術（メッケル憩室炎手術を含む）
区分 2	150181710	結腸切除術（小範囲切除）

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 2	150181810	結腸切除術（結腸半側切除）
区分 2	150181910	結腸切除術（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）
区分 2	150183110	結腸腫瘍摘出術（回盲部腫瘍摘出術を含む）
区分 2	150183510	結腸ポリープ切除術（開腹）
区分 2	150184110	腸吻合術
区分 2	150187110	直腸切除・切断術（切除術）
区分 2	150187210	直腸切除・切断術（切断術）
区分 2	150192810	副腎悪性腫瘍手術（１歳以上）
区分 2	150193010	腎破裂縫合術
区分 2	150193150	腎破裂手術
区分 2	150194610	腎部分切除術
区分 2	150194810	腎嚢胞切除縮小術
区分 2	150195010	腎摘出術
区分 2	150195210	腎（尿管）悪性腫瘍手術（１歳以上）
区分 2	150200610	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（尿路変更を行わない））
区分 2	150209310	前立腺悪性腫瘍手術
区分 1	150215110	子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮位置矯正術）
区分 1	150215310	子宮脱手術（マンチェスター手術）
区分 1	150215410	子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮全摘術）（腔式、腹式）
区分 1	150215550	子宮脱手術（腔壁裂創縫合術、子宮筋腫核出術（腔式））
区分 1	150216010	子宮頸管ポリープ切除術
区分 1	150216510	子宮頸部（腔部）切除術
区分 1	150216910	子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）
区分 1	150217050	痕跡副角子宮手術（腹式）
区分 1	150217510	子宮全摘術
区分 1	150217610	広靱帯内腫瘍摘出術
区分 1	150217710	子宮悪性腫瘍手術
区分 1	150219010	奇形子宮形成手術（ストラスマン手術）
区分 1	150219210	腔式卵巣嚢腫内容排除術
区分 1	150219410	子宮附属器癒着剥離術（両側）（開腹）
区分 1	150219650	卵管口切開術（開腹）
区分 1	150219710	卵巣部分切除術（開腹）
区分 1	150219850	卵管結紮術（両側）（開腹）
区分 1	150220010	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（開腹）
区分 1	150220150	卵管全摘除術（両側）（開腹）
区分 1	150220250	卵管腫瘍全摘除術（両側）（開腹）
区分 1	150220450	子宮卵管留血腫手術（両側）（開腹）
区分 1	150220710	子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）
区分 1	150220910	卵管形成手術（卵管・卵巣移植、卵管架橋等）
区分 1	150222110	帝王切開術（緊急帝王切開）
区分 1	150222210	帝王切開術（選択帝王切開）
区分 1	150222810	子宮破裂手術（子宮全摘除を行う）
区分 1	150222910	子宮破裂手術（子宮腔上部切断を行う）

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 1	150223010	子宮破裂手術（その他）
区分 1	150223110	妊娠子宮摘出術（ポロ－手術）
区分 1	150224510	子宮外妊娠手術（開腹）
区分 1	150243210	体外式脊椎固定術
区分 1	150243410	脳動脈瘤被包術（ 1 箇所）
区分 1	150243510	脳動脈瘤被包術（ 2 箇所以上）
区分 1	150243610	脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭）（ 1 箇所）
区分 1	150243710	脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭）（ 2 箇所以上）
区分 1	150243810	脳動脈瘤頸部クリッピング（ 1 箇所）
区分 1	150243910	脳動脈瘤頸部クリッピング（ 2 箇所以上）
区分 1	150245310	骨盤内臓全摘術
区分 2	150245410	直腸切除・切断術（低位前方切除術）
区分 2	150245510	副腎腫瘍摘出術（皮質腫瘍）
区分 2	150245610	副腎腫瘍摘出術（髄質腫瘍（褐色細胞腫））
区分 2	150245910	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（尿管 S 状結腸吻合利用で尿路変更を行う））
区分 2	150246010	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（回腸又は結腸導管利用で尿路変更を行う））
区分 2	150246110	膀胱悪性腫瘍手術（全摘（代用膀胱利用で尿路変更を行う））
区分 2	150253610	食道腫瘍摘出術（開胸又は開腹手術）
区分 2	150254110	腹腔鏡下胆嚢摘出術
区分 1	150255510	組織拡張器による再建手術
区分 1	150256010	人工関節再置換術（股）
区分 1	150256110	人工関節再置換術（膝）
区分 1	150256510	人工関節再置換術（足）
区分 1	150261910	半月板縫合術
区分 2	150262710	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴う））
区分 2	150264410	精巣悪性腫瘍手術
区分 2	150264510	腹腔鏡下子宮内膜症病巣除去術
区分 1	150264610	子宮付属器癒着剥離術（両側）（腹腔鏡）
区分 1	150264710	卵巢部分切除術（腹腔鏡）
区分 1	150264910	子宮外妊娠手術（腹腔鏡）
区分 2	150266610	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））
区分 1	150267650	卵管結紮術（両側）（腹腔鏡）
区分 1	150267750	卵管口切開術（腹腔鏡）
区分 1	150268050	卵管全摘除術（両側）（腹腔鏡）
区分 1	150268150	卵管腫瘍全摘除術（両側）（腹腔鏡）
区分 1	150268250	子宮卵管留血腫手術（両側）（腹腔鏡）
区分 1	150270010	子宮付属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）
区分 2	150270150	内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術
区分 2	150270750	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術
区分 2	150270850	胸腔鏡下良性胸壁腫瘍手術
区分 2	150271550	腹腔鏡下腸管癒着剥離術
区分 2	150271850	腹腔鏡下脾摘出術
区分 2	150271950	腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 1	150272250	腹腔鏡下腔式子宮全摘術
区分 1	150273310	椎間板摘出術（経皮的髓核摘出術）
区分 2	150274710	食道腫瘍摘出術（腹腔鏡下）
区分 2	150274810	内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術）
区分 2	150275110	腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術
区分 2	150277410	脾体尾部腫瘍切除術（周辺臓器の合併切除を伴う腫瘍切除術）
区分 2	150277510	脾体尾部腫瘍切除術（血行再建を伴う腫瘍切除術）
区分 2	150277710	腹腔鏡下肝嚢胞切開術
区分 2	150277810	腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）
区分 1	150278510	子宮筋腫摘出（核出）術（腔式）
区分 1	150278610	子宮鏡下子宮筋腫摘出術
区分 2	150279210	腹腔鏡下副腎摘出術
区分 1	150282510	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（前方椎体固定）
区分 1	150282610	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方又は後側方固定）
区分 1	150282750	脊椎側彎症手術（固定術）
区分 1	150284510	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）
区分 2	150288310	食道腫瘍摘出術（縦隔鏡下）
区分 1	150291010	広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術
区分 1	150291110	顕微鏡使用によるてんかん手術（焦点切除術）
区分 1	150291210	顕微鏡使用によるてんかん手術（側頭葉切除術）
区分 1	150291310	顕微鏡使用によるてんかん手術（脳梁離断術）
区分 1	150294110	腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術
区分 2	150296310	腹腔鏡下食道アカラシア形成手術
区分 2	150296910	脾頭部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）
区分 2	150297010	脾頭部腫瘍切除術（十二指腸温存脾頭切除術）
区分 2	150297110	脾頭部腫瘍切除術（周辺臓器の合併切除を伴う腫瘍切除術）
区分 2	150297210	脾頭部腫瘍切除術（血行再建を伴う腫瘍切除術）
区分 2	150297310	小腸切除術（悪性腫瘍手術）
区分 2	150297410	結腸憩室摘出術
区分 2	150297510	直腸切除・切断術（超低位前方切除術）（経肛門の結腸囊肛門吻合）
区分 2	150298750	胸腔鏡下肺縫縮術
区分 2	150299350	腸閉塞症手術（小腸切除術）（悪性腫瘍手術）
区分 1	150299850	腹腔鏡下多嚢胞性卵巣焼灼術
区分 1	150300310	人工関節抜去術（股）
区分 1	150300410	人工関節抜去術（膝）
区分 2	150303110	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わない））
区分 1	150308510	股関節周囲筋腱解離術（変形性股関節症）
区分 1	150308610	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（躯幹）
区分 1	150308710	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術（躯幹）
区分 1	150308810	大腿骨頭回転骨切り術
区分 1	150308910	大腿骨近位部（転子間を含む）骨切り術
区分 1	150309510	関節鏡下関節内異物（挿入物）除去術（膝）
区分 1	150309910	関節鏡下関節内異物（挿入物）除去術（足）

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 1	150310310	関節鏡下関節滑膜切除術（股）
区分 1	150310410	関節鏡下関節滑膜切除術（膝）
区分 1	150310810	関節鏡下関節滑膜切除術（足）
区分 1	150311210	関節鏡下滑液膜摘出術（股）
区分 1	150311310	関節鏡下滑液膜摘出術（膝）
区分 1	150313110	関節鏡下半月板切除術
区分 1	150313210	関節鏡下半月板縫合術
区分 1	150313310	関節鏡下靱帯断裂縫合術（十字靱帯）
区分 1	150313710	関節鏡下靱帯断裂形成手術（十字靱帯）
区分 1	150313810	関節鏡下靱帯断裂形成手術（膝側副靱帯）
区分 1	150314210	内視鏡下椎弓切除術
区分 1	150314410	内視鏡下椎間板摘出（切除）術（後方摘出術）
区分 1	150314510	寛骨臼移動術
区分 1	150314610	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定）
区分 1	150314710	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（前方後方同時固定）
区分 1	150314810	内視鏡下脊椎固定術（胸椎又は腰椎前方固定）
区分 2	150316510	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））
区分 2	150317110	肺切除術（気管支形成を伴う肺切除）
区分 2	150317710	食道腫瘍摘出術（胸腔鏡下）
区分 2	150323410	腹腔鏡下胃切除術（単純切除術）
区分 2	150323510	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）
区分 2	150323710	腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）
区分 2	150324010	胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（葉以上）を伴う）
区分 2	150324110	胆嚢悪性腫瘍手術（脾頭十二指腸切除を伴う）
区分 2	150324210	胆嚢悪性腫瘍手術（脾頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴う）
区分 2	150324910	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術
区分 2	150325210	腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）
区分 2	150325710	腹腔鏡下腎部分切除術
区分 2	150325810	腹腔鏡下腎嚢胞切除縮小術
区分 2	150325910	腹腔鏡下腎摘出術
区分 2	150326010	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術
区分 2	150326110	腹腔鏡下腎盂形成手術
区分 2	150326510	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
区分 1	150327210	腹腔鏡下広靱帯内腫瘍摘出術
区分 2	150329510	胸腹裂孔ヘルニア手術（経胸）（1歳未満）
区分 2	150329610	胸腹裂孔ヘルニア手術（経腹）（1歳未満）
区分 2	150329710	胸腹裂孔ヘルニア手術（経胸及び経腹）（1歳未満）
区分 1	150334810	多発性骨腫摘出術（下腿）
区分 1	150335610	減圧開頭術（キアリ奇形、脊髓空洞症）
区分 1	150335810	頭蓋骨形成手術（骨移動を伴う）
区分 2	150336810	内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）
区分 2	150337210	噴門側胃切除術（単純切除術）
区分 2	150337310	噴門側胃切除術（悪性腫瘍切除術）

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 2	150337710	腹腔鏡下結腸切除術（全切除、亜全切除）
区分 2	150337810	腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）
区分 2	150337910	腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）
区分 2	150338110	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
区分 2	150338310	腹腔鏡下小切開腎摘出術
区分 2	150338410	腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
区分 2	150338810	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
区分 1	150343910	脊椎側彎症手術（矯正術）（初回挿入）
区分 1	150344010	脊椎側彎症手術（矯正術）（交換術）
区分 1	150344110	脊椎側彎症手術（矯正術）（伸展術）
区分 1	150344250	脊椎側彎症手術（矯正術）（交換術）（胸郭変形矯正用材料使用）
区分 2	150346310	食道空置バイパス作成術
区分 2	150347910	肝門部胆管悪性腫瘍手術（血行再建なし）
区分 2	150348110	腹腔鏡下肝切除術（外側区域切除）
区分 2	150348410	脾体尾部腫瘍切除術（脾尾部切除術・腫瘍摘出術含む）（脾温存）
区分 1	150349210	帝王切開術（前置胎盤を合併又は 3 2 週未満の早産）
区分 1	150352210	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折）（大腿）
区分 1	150352410	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折）（下腿）
区分 1	150352610	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折）（足）
区分 1	150353310	関節鏡下関節内骨折観血の手術（股）
区分 1	150353410	関節鏡下関節内骨折観血の手術（膝）
区分 1	150353810	関節鏡下関節内骨折観血の手術（足）
区分 1	150354110	関節鏡下靱帯断裂形成手術（内側膝蓋大腿靱帯）
区分 1	150354810	腫瘍脊椎骨全摘術
区分 1	150354910	脊椎制動術
区分 1	150355010	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）
区分 1	150355110	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）
区分 1	150355210	経皮的椎体形成術
区分 2	150356910	胸腔鏡下試験開胸術
区分 2	150357110	膿胸腔有茎大網充填術
区分 2	150357210	胸腔鏡下胸管結紮術（乳糜胸手術）
区分 2	150357310	胸腔鏡下縦隔切開術
区分 2	150357410	縦隔悪性腫瘍手術（広汎摘出）
区分 2	150357710	胸腔鏡下肺切除術（その他）
区分 2	150357810	肺悪性腫瘍手術（部分切除）
区分 2	150357910	肺悪性腫瘍手術（区域切除）
区分 2	150358010	肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は 1 肺葉を超える）
区分 2	150358110	肺悪性腫瘍手術（肺全摘）
区分 2	150358210	肺悪性腫瘍手術（隣接臓器合併切除を伴う肺切除）
区分 2	150358310	肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
区分 2	150358410	肺悪性腫瘍手術（気管分岐部切除を伴う肺切除）
区分 2	150358510	肺悪性腫瘍手術（気管分岐部再建を伴う肺切除）
区分 2	150358610	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）

区分	コード	診療行為名
----	-----	-------

区分 2	150358710	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）
区分 2	150358810	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は 1 肺葉を超える）
区分 2	150359110	胸腔鏡下（腹腔鏡下を含む）横隔膜縫合術
区分 2	150361110	腹腔鏡下骨盤内リンパ節群郭清術
区分 2	150361610	腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術
区分 2	150361710	腹腔鏡下後腹膜腫瘍摘出術
区分 2	150362010	腹腔鏡下胃腸吻合術
区分 2	150362210	胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（亜区域切除以上））
区分 2	150362610	肝切除術（部分切除）（ 1 歳以上）
区分 2	150362710	肝切除術（亜区域切除）（ 1 歳以上）
区分 2	150362810	肝切除術（外側区域切除）（ 1 歳以上）
区分 2	150362910	肝切除術（ 1 区域切除（外側区域切除を除く））（ 1 歳以上）
区分 2	150363010	肝切除術（ 2 区域切除）（ 1 歳以上）
区分 2	150363110	肝切除術（ 3 区域切除以上）（ 1 歳以上）
区分 2	150363210	肝切除術（ 2 区域切除以上で血行再建）（ 1 歳以上）
区分 2	150363510	腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術
区分 2	150363710	腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術）
区分 2	150363810	全結腸・直腸切除嚢肛門吻合術
区分 2	150364210	腹腔鏡下腸閉鎖症手術
区分 2	150364610	腹腔鏡下直腸脱手術
区分 2	150364710	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術
区分 2	150365010	経尿道的尿路結石除去術（レーザー）
区分 2	150365110	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）
区分 2	150365210	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
区分 2	150365310	腹腔鏡下膀胱内手術
区分 2	150365710	経尿道的レーザー前立腺切除術（ホルミウムレーザー）
区分 1	150366010	腹腔鏡下子宮腔上部切断術
区分 1	150366110	腹腔鏡下卵管形成術
区分 2	150366910	腹腔鏡下食道静脈瘤手術（胃上部血行遮断術）

2：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1：分母のうち、EF ファイルを参照し、当該入院期間中に以下のいずれかに該当する患者を抽出し、分子とする。

2：（ア）以下の算定があった患者

分子のデータ2

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
113006910	肺血栓塞栓症予防管理料	○	○	○	○	○	○

3：（イ）抗凝固療法〔以下の薬価基準コードの薬剤が用いられたもの〕が行われた患者

分子のデータ3

薬価基準コード	名称
3332\$	ワルファリンカリウム
3334400\$	ヘパリンカルシウム

薬価基準コード	名称
3334401\$	ヘパリンナトリウム
3334402\$	ヘパリンナトリウム
3334406\$	エノキサパリンナトリウム
3339001\$	ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩
3339002\$	エドキサバントシル酸塩水和物
3339003\$	リバーロキサバン
3339004\$	アピキサバン
3339400\$	フォンダパリヌクスナトリウム

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: 手術の一覧は、独立行政法人 国立病院機構 臨床評価指標 Ver.3計測マニュアルおよびVer.3.1を引用している。

参考値:

参考資料:

1: 独立行政法人 国立病院機構 臨床評価指標 Ver.3計測マニュアル

2: The Joint Commission; Specifications Manual for National Hospital Inpatient Quality Measures, Version 4.3a SCIP-VTE-2 Surgery Patients Who Received Appropriate Venous Thromboembolism Prophylaxis Within 24 Hours Prior to Surgery to 24 Hours After Surgery(http://www.jointcommission.org/assets/1/6/NHQM_v4_3a_PDF_10_2_2013.zip)

3: 独立行政法人 国立病院機構 臨床評価指標 Ver.3.1計測マニュアル

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：広域抗菌薬使用までの培養検査実施率

指標番号：

QIP: 2124_2

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：感染症

名称：広域抗菌薬使用までの培養検査実施率

意義：広域抗菌薬を使用する際の望ましいプラクティス

必要データセット：EFファイル

定義の要約：

分母：広域抗菌薬投与を開始した入院症例数

分子：分母のうち投与開始初日までに培養検査を実施した人数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：入院中の広域抗菌薬（下記）に該当するものを検索する。また最初の算定日を同定する。

分母のデータ1

名称	薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
抗MRSA注射薬	6113400	バンコマイシン塩酸塩	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6119400	アルベカシン硫酸塩	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6119401	テイコプラニン	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6119402	ダブトマイシン	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139400	メロペネム水和物	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139401	ピアペネム	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139402	ドリペネム水和物	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139501	イミペネム水和物・シラスタチンナトリウム	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139503	パニペネム・ベタミブロン	○	○	○	○	○	○
ニューキノロン系注射薬	6241400	シプロフロキサシン	○	○	○	○	○	○
ニューキノロン系注射薬	6241401	パズフロキサシンメシル酸塩	○	○	○	○	○	○
ニューキノロン系注射薬	6241402	レボフロキサシン水和物	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6249401	リネゾリド	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6249402	テジゾリドリン酸エステル					○	○
抗MRSA経口薬	6249002	リネゾリド	○	○	○	○	○	○
抗MRSA経口薬	6249003	テジゾリドリン酸エステル					○	○

分子の定義：

1：入院日より分母で同定した広域抗菌薬の最初の算定日までに、下記の培養の実施があれば分子1とする。

分子のデータ1

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020
160058210	細菌培養同定検査（口腔からの検体）	D018_1	○	○	○	○	○	○
160144410	細菌培養同定検査（気道からの検体）	D018_1	○	○	○	○	○	○
160144510	細菌培養同定検査（呼吸器からの検体）	D018_1	○	○	○	○	○	○
160058310	細菌培養同定検査（消化管からの検体）	D018_2	○	○	○	○	○	○

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020
160058610	細菌培養同定検査（血液）	D018_3	○	○	○	○	○	○
160144710	細菌培養同定検査（穿刺液）	D018_3	○	○	○	○	○	○
160058410	細菌培養同定検査（泌尿器からの検体）	D018_4	○	○	○	○	○	○
160144610	細菌培養同定検査（生殖器からの検体）	D018_4	○	○	○	○	○	○
160058710	細菌培養同定検査（その他の部位からの検体）	D018_5	○	○	○	○	○	○
160058810	細菌培養同定検査（簡易培養）	D018_6	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

- 1: バンコマイシンの内服薬は腸炎への利用であり、用途が異なり分母から削除した
- 2: 本定義では、広域抗菌薬を「抗MRSA薬（内服、注射、バンコマイシン内服は除く）、カルバペネム系注射薬、ニューキノロン系注射薬」としている（2018年度の定義の見直し時）
- 3: 外来や紹介元での検査結果をもとに治療している場合、指標値が低くなる
- 4: スクリーニング検査などを実施している場合、指標値が高くなる

参考値:

参考資料:

1: 抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス - 日本感染症学会
http://www.kansensho.or.jp/guidelines/pdf/1708_ASP_guidance.pdf

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：広域抗菌薬使用時の血液培養実施率

指標番号：

QIP：2124

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：感染症

名称：広域抗菌薬使用時の血液培養実施率

意義：広域抗菌薬を使用する際の望ましいプラクティス

必要データセット：EFファイル

定義の要約：

分母：広域抗菌薬投与を開始した入院症例数

分子：分母のうち投与開始初日に血液培養検査を実施した人数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：入院中の広域抗菌薬（下記）に該当するものを検索する。また最初の算定日を同定する。

分母のデータ1

名称	薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
抗MRSA注射薬	6113400	バンコマイシン塩酸塩	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6119400	アルベカシン硫酸塩	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6119401	テイコプラニン	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6119402	ダプトマイシン	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139400	メロペネム水和物	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139401	ピアペネム	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139402	ドリペネム水和物	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139501	イミペネム水和物・シラスタチンナトリウム	○	○	○	○	○	○
カルバペネム系注射薬	6139503	パニペネム・ベタミブロン	○	○	○	○	○	○
ニューキノロン系注射薬	6241400	シプロフロキサシン	○	○	○	○	○	○
ニューキノロン系注射薬	6241401	パズフロキサシンメシル酸塩	○	○	○	○	○	○
ニューキノロン系注射薬	6241402	レボフロキサシン水和物	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6249401	リネゾリド	○	○	○	○	○	○
抗MRSA注射薬	6249402	テジゾリドリン酸エステル					○	○
抗MRSA経口薬	6249002	リネゾリド	○	○	○	○	○	○
抗MRSA経口薬	6249003	テジゾリドリン酸エステル					○	○

分子の定義：

1：分母で同定した広域抗菌薬の最初の算定日に、血液培養の実施があれば分子1とする。

分子のデータ1

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020
160058610	細菌培養同定検査（血液）	D018_3	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1: バンコマイシンの内服薬は腸炎への利用であり、用途が異なり分母から削除した

2: 本定義では、広域抗菌薬を「抗MRSA薬（内服、注射、バンコマイシン内服は除く）、カルバペネム系注射薬、ニューキノロン系注射薬」としている（2018年度の定義の見直し時）但し、抗MRSA薬の外用薬及び、バンコマイシン塩酸塩内服薬は除く。

参考値:

参考資料:

1: 抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス - 日本感染症学会
http://www.kansensho.or.jp/guidelines/pdf/1708_ASP_guidance.pdf

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：脳梗塞症例の肺塞栓・深部静脈血栓症の発症率

指標番号：

QIP：2125

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018

更新日：2020-09-28

指標群：脳卒中

名称：脳梗塞症例の肺塞栓・深部静脈血栓症の発症率

意義：入院患者のモニタリング

必要データセット：DPC様式1 Dファイル

定義の要約：

分母：脳梗塞で入院した症例数

分子：深部静脈血栓症の発症症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18歳以上の症例。
- 3：このうち、脳梗塞のために入院した症例 最も資源を投入した傷病 あるいは入院の契機となった傷病名のICD10コードがI63\$の症例
- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：入院後、部静脈血栓症と診断された症例。入院後発症病名のICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分子のデータ1	
ICD-10コード	病名
I26\$	肺塞栓症
I801	大腿静脈の静脈炎及び血栓(性)静脈炎
I802	下肢のその他の深在血管の静脈炎及び血栓(性)静脈炎
I809	部位不明の静脈炎及び血栓(性)静脈炎
I82\$	その他の静脈の塞栓症及び血栓症

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：一般に、軽症の場合の深部静脈血栓症について病名の登録率は低いと考えられる
- 2：Dファイルのない場合の結果は参考値（QIPでは疑似的にDPCコードを生成し、そのコードを利用し指標値を算出している）

参考値：

参考資料：

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-09-28

名称：胆管炎・急性胆嚢炎に対する入院2日以内の超音波検査実施割合

指標番号：

QIP：2126

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：消化器系

名称：胆管炎・急性胆嚢炎に対する入院2日以内の超音波検査実施割合

意義：急性胆嚢炎の治療方針の決定のため重要である（プロセス指標）

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：胆管炎・急性胆嚢炎で入院した症例

分子：分母のうち、入院日から2日以内に超音波検査が実施された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、胆管炎もしくは急性胆嚢炎で入院した症例。入院の契機となった傷病名に下記のICD-10コードが該当すれば対象とする

分母のデータ2

CD-10コード	病名
K800	急性胆のう<嚢>炎を伴う胆のう<嚢>結石
K810	急性胆のう<嚢>炎
K830	胆管炎

分子の定義：

- 1：入院日から2日以内に腹部超音波検査を受けた症例。EFファイルで入院日または入院日翌日に下記が請求されている症例

分子のデータ1

レセ電コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
160072210	超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）	○	○	○	○	○	○
160072110	超音波検査（Aモード法）	○	○	○	○	○	○
160072450	超音波検査（心臓超音波検査以外）（断層撮影法とMモード法）	○	○	○	○	○	○
160072750	超音波検査（心臓超音波検査以外）（Mモード法）	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：急性胆嚢炎において、超音波検査は重症度の評価、診療方針の決定に必須の検査とされている。
- 2：胆管炎は急性胆管炎症例に限定したいが、ICD10コードや病名からの絞りこみが困難のため、慢性胆管炎症例が一部含まれる。

参考値：

参考資料：

- 1：科学的根拠に基づく急性胆管炎・胆嚢炎の診療ガイドライン．急性胆道炎の診療ガイドライン作成出版委員会 編 2005

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：75歳以上の入院症例でトリアゾラムが処方された割合

指標番号：

QIP: 2127_1

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：精神科

名称：75歳以上の入院症例でトリアゾラムが処方された割合

意義：

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：75歳以上の入院症例

分子：トリアゾラムが処方された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：
75歳以上の入院症例

2：
調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

1：
分母のうちトリアゾラムが処方された症例

分子のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1124007	トリアゾラム	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

結果提示時の並び順：昇順

測定上の限界・解釈上の注意：

参考値：

参考資料：

1：
高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015.(編)日本老年医学会、日本医療研究開発機構研究費・高齢者の薬物治療の安全性に関する研究研究班。
メジカルビュー社

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：75歳以上の入院症例で長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合

指標番号：

QIP：2127_2

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：精神科

名称：75歳以上の入院症例で長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合

意義：

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：75歳以上の入院症例

分子：長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：
75歳以上の入院症例

2：
調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

1：
分母のうち長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

分子のデータ1							
薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1124001	エスタゾラム	○	○	○	○	○	○
1124003	ニトラゼパム	○	○	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	○	○	○	○	○	○
1124030	クアゼパム	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

結果提示時の並び順：昇順

測定上の限界・解釈上の注意：

参考値：

参考資料：

- 1：
高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015.(編)日本老年医学会、日本医療研究開発機構研究費・高齢者の薬物治療の安全性に関する研究研究班、メジカルビュー社
- 2：
薬剤の分類について下記参照（改訂に際しては、同著者、日本精神神経学会/日本精神神経薬理学会による最新情報を随時参照のこと）
Toshiya Inada et al. Psychotropic dose equivalence in Japan. Psychiatry Clin Neurosci. 2015; 69(8):440-7. Doi: 10.1111/pcn.12275.
- 定義見直しのタイミング：

名称：75歳以上の入院症例でトリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合

指標番号：

QIP: 2127_3

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：精神科

名称：75歳以上の入院症例でトリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合

意義：

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：75歳以上の入院症例

分子：トリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：
75歳以上の入院症例

2：
調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

1：
分母のうちトリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

分子のデータ1							
薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1124001	エスタゾラム	○	○	○	○	○	○
1124003	ニトラゼパム	○	○	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	○	○	○	○	○	○
1124030	クアゼパム	○	○	○	○	○	○
1124007	トリアゾラム	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

結果提示時の並び順：昇順

測定上の限界・解釈上の注意：

参考値：

参考資料：

- 1：
高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015.(編)日本老年医学会、日本医療研究開発機構研究費・高齢者の薬物治療の安全性に関する研究研究班。メジカルビュー社
- 2：
薬剤の分類について下記参照（改訂に際しては、同著者、日本精神神経学会/日本精神神経薬理学会による最新情報を随時参照のこと）
Toshiya Inada et al. Psychotropic dose equivalence in Japan. Psychiatry Clin Neurosci. 2015; 69(8):440-7. Doi: 10.1111/pcn.12275.

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：経口第3世代セフェム処方が経口抗菌薬全体に占める割合

指標番号：

QIP：2128

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：感染症

名称：経口第3世代セフェム処方が経口抗菌薬全体に占める割合

意義：経口第3世代セフェムの削減は、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの目標項目である。2020年までに（2013年比）50%削減が成果指標として掲げられている。

必要データセット：外来EFファイル

定義の要約：

分母：外来にて経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日

分子：外来にて経口第3世代セフェム処方の含まれる処方が実施された人日

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1： 外来EFファイルより、経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日を算出する。 1日に複数の種類（例：セフェム系経口抗菌薬とカルバペネム系経口抗菌薬）の処方や複数回の処方が見られた場合も 1 人日とする。

分母のデータ1

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
ベンジルペニシリンベンザチン水和物	内服薬	6111002	○	○	○	○	○	○
クリンダマイシン塩酸塩	内服薬	6112001	○	○	○	○	○	○
リンコマイシン塩酸塩水和物	内服薬	6112003	○	○	○	○	○	○
バンコマイシン塩酸塩	内服薬	6113001	○	○	○	○	○	○
ピブメシリナム塩酸塩	内服薬	6121001	○	○	○			
カナマイシン一硫酸塩	内服薬	6123003	○	○	○	○	○	○
コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	内服薬	6125001	○	○	○	○	○	○
ポリミキシンB硫酸塩	内服薬	6126001	○	○	○	○	○	○
セフチブテン水和物	内服薬	6129001	○	○	○	○	○	○
アモキシシリン水和物	内服薬	6131001	○	○	○	○	○	○
アンピシリン水和物	内服薬	6131002	○	○	○	○	○	○
バカンピシリン塩酸塩	内服薬	6131004	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6131005	○					
スルタミシリントシル酸塩水和物	内服薬	6131008	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6132001	○					
セファレキシン	内服薬	6132002	○	○	○	○	○	○
セファクロル	内服薬	6132005	○	○	○	○	○	○
セフロキサジン水和物	内服薬	6132006	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6132007	○					
セフィキシム	内服薬	6132008	○	○	○	○	○	○
セフテラム ピボキシル	内服薬	6132009	○	○	○	○	○	○
セフロキシム アキセチル	内服薬	6132010	○	○	○	○	○	○
セフポドキシム プロキセチル	内服薬	6132011	○	○	○	○	○	○

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
セフォチアム ヘキシチル塩酸塩	内服薬	6132012	○	○	○	○		
セフジニル	内服薬	6132013	○	○	○	○	○	○
セフジトレン ピボキシル	内服薬	6132015	○	○	○	○	○	○
セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	内服薬	6132016	○	○	○	○	○	○
ホスホマイシンカルシウム水和物	内服薬	6135001	○	○	○	○	○	○
ファロペナムナトリウム水和物	内服薬	6139001	○	○	○	○	○	○
テビペナム ピボキシル	内服薬	6139002	○	○	○	○	○	○
アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム	内服薬	6139100	○	○	○	○	○	○
エリスロマイシンエチルコハク酸エステル	内服薬	6141001	○	○	○	○	○	○
エリスロマイシン	内服薬	6141002	○	○	○	○	○	○
エリスロマイシンステアリン酸塩	内服薬	6141004	○	○	○	○	○	○
スピラマイシン酢酸エステル	内服薬	6142001	○	○	○	○	○	○
ジョサマイシン	内服薬	6145001	○	○	○	○	○	○
ジョサマイシンプロピオン酸エステル	内服薬	6145002	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6146001	○					
	内服薬	6146002	○					
ロキタマイシン	内服薬	6149001	○	○	○			
ロキシスロマイシン	内服薬	6149002	○	○	○	○	○	○
クラリスロマイシン	内服薬	6149003	○	○	○	○	○	○
アジスロマイシン水和物	内服薬	6149004	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6149005	○					
クロラムフェニコール	内服薬	6151001	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6151002	○					
テトラサイクリン塩酸塩	内服薬	6152002	○	○	○	○	○	○
デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	内服薬	6152003	○	○	○	○	○	○
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	内服薬	6152004	○	○	○	○	○	○
ミノサイクリン塩酸塩	内服薬	6152005	○	○	○	○	○	○
アンピシリン水和物・クロキサシリンナトリウム水和物	内服薬	6191001	○	○	○	○	○	○
リファキシミン	内服薬	6199001				○	○	○
スルファメトキサゾール	内服薬	6212002	○	○	○	○	○	○
スルファジメトキシ	内服薬	6213001	○	○	○	○		
サラゾスルファピリジン	内服薬	6219001	○	○	○	○	○	○
スルファメチゾール	内服薬	6219002	○	○	○	○	○	○
デラマニド	内服薬	6222006			○	○	○	○
ナリジクス酸	内服薬	6241001	○	○	○	○		
ピペミド酸水和物	内服薬	6241002	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6241003	○					
シノキサシン	内服薬	6241004	○	○	○			
ノルフロキサシン	内服薬	6241005	○	○	○	○	○	○
オフロキサシン	内服薬	6241006	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6241007	○					
シプロフロキサシン塩酸塩	内服薬	6241008					○	○
塩酸シプロフロキサシン	内服薬	6241008	○	○	○	○	○	○
塩酸ロメフロキサシン	内服薬	6241009	○	○	○	○	○	○

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
トスフロキサシントシル酸塩水和物	内服薬	6241010	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6241011	○					
レボフロキサシン水和物	内服薬	6241013	○	○	○	○	○	○
プルリフロキサシン	内服薬	6241015	○	○	○	○	○	○
モキシフロキサシン塩酸塩	内服薬	6241016	○	○	○	○	○	○
メシル酸ガレノキサシン水和物	内服薬	6241017	○	○	○	○	○	○
シタフロキサシン水和物	内服薬	6241018	○	○	○	○	○	○
リネゾリド	内服薬	6249002	○	○	○	○	○	○
スルファメトキサゾール・トリメトプリム	内服薬	6290100	○	○	○	○	○	○

2：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1： 外来EFファイルより、経口第3世代セフェムの含まれる処方を実施された人日を算出する。 1日に複数の薬剤処方や複数回の処方が見られた場合も1人日で集約する。

分子のデータ1

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
セフィキシム	内服薬	6132008	○	○	○	○	○	○
セフテラム ピボキシル	内服薬	6132009	○	○	○	○	○	○
セフポドキシム プロキセチル	内服薬	6132011	○	○	○	○	○	○
セフジニル	内服薬	6132013	○	○	○	○	○	○
セフジトレン ピボキシル	内服薬	6132015	○	○	○	○	○	○
セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	内服薬	6132016	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：日

測定上の限界・解釈上の注意：

1：投与量が十分であれば適正使用となることもあるが、ごく稀と考えられ、基本的に目標値はゼロである。

参考値：

1：経口抗菌薬全体の22%が第3世代セフェム2)

参考資料：

1：薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000120769.pdf>

2：藤田基資．5 年で 50%？ 経口セフェムは削減できるか？．小児感染免疫．2016;28(4):302-310.
<http://www.jspid.jp/journal/full/02804/028040302.pdf>.

定義見直しのタイミング：2020年（アクションプランの期限）、レセプトコード変更時

最終更新日：2020-10-14

名称：経口カルバペネム処方数が経口抗菌薬全体に占める割合

指標番号：

QIP： 2129

年度： 2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日： 2020-10-14

指標群： 感染症

名称：経口カルバペネム処方数が経口抗菌薬全体に占める割合

意義：経口カルバペネム系抗菌薬の削減は、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの目標項目である。2020年までに（2013年比）50%削減が成果指標として掲げられている。

必要データセット： 外来EFファイル

定義の要約：

分母：外来にて経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日

分子：外来にて経口カルバペネム処方の含まれる処方が実施された人日

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1： 外来EFファイルより、経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日を算出する。 1日に複数の種類（例：セフェム系経口抗菌薬とカルバペネム系経口抗菌薬）の処方や複数回の処方が見られた場合も 1 人日とする。

分母のデータ1

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
ベンジルペニシリンベンザチン水和物	内服薬	6111002	○	○	○	○	○	○
クリンダマイシン塩酸塩	内服薬	6112001	○	○	○	○	○	○
リンコマイシン塩酸塩水和物	内服薬	6112003	○	○	○	○	○	○
バンコマイシン塩酸塩	内服薬	6113001	○	○	○	○	○	○
ピブメシリナム塩酸塩	内服薬	6121001	○	○	○			
カナマイシンー硫酸塩	内服薬	6123003	○	○	○	○	○	○
コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	内服薬	6125001	○	○	○	○	○	○
ポリミキシンB硫酸塩	内服薬	6126001	○	○	○	○	○	○
セフチブテン水和物	内服薬	6129001	○	○	○	○	○	○
アモキシシリン水和物	内服薬	6131001	○	○	○	○	○	○
アンピシリン水和物	内服薬	6131002	○	○	○	○	○	○
バカンピシリン塩酸塩	内服薬	6131004	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6131005	○					
スルタミシリントシル酸塩水和物	内服薬	6131008	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6132001	○					
セファレキシン	内服薬	6132002	○	○	○	○	○	○
セファクロル	内服薬	6132005	○	○	○	○	○	○
セフロキサジン水和物	内服薬	6132006	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6132007	○					
セフィキシム	内服薬	6132008	○	○	○	○	○	○
セフテラム ピボキシル	内服薬	6132009	○	○	○	○	○	○
セフロキシム アキセチル	内服薬	6132010	○	○	○	○	○	○
セフポドキシム プロキセチル	内服薬	6132011	○	○	○	○	○	○

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
セフォチアム ヘキシチル塩酸塩	内服薬	6132012	○	○	○	○		
セフジニル	内服薬	6132013	○	○	○	○	○	○
セフジトレン ピボキシル	内服薬	6132015	○	○	○	○	○	○
セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	内服薬	6132016	○	○	○	○	○	○
ホスホマイシンカルシウム水和物	内服薬	6135001	○	○	○	○	○	○
ファロペナムナトリウム水和物	内服薬	6139001	○	○	○	○	○	○
テビペナム ピボキシル	内服薬	6139002	○	○	○	○	○	○
アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム	内服薬	6139100	○	○	○	○	○	○
エリスロマイシンエチルコハク酸エステル	内服薬	6141001	○	○	○	○	○	○
エリスロマイシン	内服薬	6141002	○	○	○	○	○	○
エリスロマイシンステアリン酸塩	内服薬	6141004	○	○	○	○	○	○
スピラマイシン酢酸エステル	内服薬	6142001	○	○	○	○	○	○
ジョサマイシン	内服薬	6145001	○	○	○	○	○	○
ジョサマイシンプロピオン酸エステル	内服薬	6145002	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6146001	○					
	内服薬	6146002	○					
ロキタマイシン	内服薬	6149001	○	○	○			
ロキシスロマイシン	内服薬	6149002	○	○	○	○	○	○
クラリスロマイシン	内服薬	6149003	○	○	○	○	○	○
アジスロマイシン水和物	内服薬	6149004	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6149005	○					
クロラムフェニコール	内服薬	6151001	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6151002	○					
テトラサイクリン塩酸塩	内服薬	6152002	○	○	○	○	○	○
デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	内服薬	6152003	○	○	○	○	○	○
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	内服薬	6152004	○	○	○	○	○	○
ミノサイクリン塩酸塩	内服薬	6152005	○	○	○	○	○	○
アンピシリン水和物・クロキサシリンナトリウム水和物	内服薬	6191001	○	○	○	○	○	○
リファキシミン	内服薬	6199001				○	○	○
スルファメトキサゾール	内服薬	6212002	○	○	○	○	○	○
スルファジメトキシ	内服薬	6213001	○	○	○	○		
サラゾスルファピリジン	内服薬	6219001	○	○	○	○	○	○
スルファメチゾール	内服薬	6219002	○	○	○	○	○	○
デラマニド	内服薬	6222006			○	○	○	○
ナリジクス酸	内服薬	6241001	○	○	○	○		
ピペミド酸水和物	内服薬	6241002	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6241003	○					
シノキサシン	内服薬	6241004	○	○	○			
ノルフロキサシン	内服薬	6241005	○	○	○	○	○	○
オフロキサシン	内服薬	6241006	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6241007	○					
シプロフロキサシン塩酸塩	内服薬	6241008					○	○
塩酸シプロフロキサシン	内服薬	6241008	○	○	○	○	○	○
塩酸ロメフロキサシン	内服薬	6241009	○	○	○	○	○	○

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
トスフロキサシントシル酸塩水和物	内服薬	6241010	○	○	○	○	○	○
	内服薬	6241011	○					
レボフロキサシン水和物	内服薬	6241013	○	○	○	○	○	○
プルリフロキサシン	内服薬	6241015	○	○	○	○	○	○
モキシフロキサシン塩酸塩	内服薬	6241016	○	○	○	○	○	○
メシル酸ガレノキサシン水和物	内服薬	6241017	○	○	○	○	○	○
シタフロキサシン水和物	内服薬	6241018	○	○	○	○	○	○
リネゾリド	内服薬	6249002	○	○	○	○	○	○
スルファメトキサゾール・トリメトプリム	内服薬	6290100	○	○	○	○	○	○

分子の定義：

1： 外来EFファイルより、経口カルバペネムの含まれる処方が実施された人日を算出する。 1日に複数の薬剤処方や複数回の処方が見られた場合も1人日で集約する。

分子のデータ1

レセプト電 算コード	漢字名称	成分名	薬価基準 コード7桁	薬価基準 コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020
610411055	ファロム錠 1.5  mg	ファロペネムナトリウム水和物	6139001	6139001F1028	○	○	○	○	○	○
610411056	ファロム錠 2   mg	ファロペネムナトリウム水和物	6139001	6139001F2024	○	○	○	○	○	○
620008702	ファロムドライシロップ小児用 1  % 1   mg	ファロペネムナトリウム水和物	6139001	6139001R1032	○	○	○	○	○	○
621926801	オラペネム小児用細粒 1  % 1   mg	テビペネム ピボキシル	6139002	6139002C1026	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：日

測定上の限界・解釈上の注意：

1：基本的に目標値はゼロである。

参考値：

参考資料：

1：薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000120769.pdf>

定義見直しのタイミング：2020年（アクションプランの期限）、レセプトコード変更時

最終更新日：2020-10-14

名称：アスピリン内服患者の退院時酸分泌抑制薬（PPI/H2RA）処方率

指標番号：

QIP：2132

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：循環器系疾患 薬剤

名称：アスピリン内服患者の退院時酸分泌抑制薬（PPI/H2RA）処方率

意義：治療内容をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：退院時にアスピリン内服薬が処方されている18歳以上の患者

分子：分母のうち退院時に酸分泌抑制薬（PPI/H2RA）が退院時に処方された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする。
- 2：退院時にアスピリン内服薬が処方されている18歳以上の症例 Fファイル、もしくはEFファイルにおいて、退院時に以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。

分母のデータ2

薬価基準コード上7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1143001	アスピリン	○	○	○	○	○	○
1143010	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○
3399007	アスピリン	○	○	○	○	○	○
3399100	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○
3399101	クロピドグレル硫酸塩・アスピリン		○	○	○	○	○
3399102	アスピリン・ランソプラゾール			○	○	○	○

- 3：退院時処方の判定：2010年度～2015年度：FファイルもしくはEFファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」2016年度～：EF-17・F-19 行為明細区分情報（12桁の数値）の1桁目「退院時処方区分」が「1」

- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：分母のうち酸分泌抑制薬（PPI/H2RA）が退院時に処方された症例 Fファイル、もしくはEFファイルにおいて、退院時に以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。

分子のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1179045	アリピプラゾール	○	○	○	○	○	○
2329022	オメプラゾール	○	○	○	○	○	○
2329023	ランソプラゾール	○	○	○	○	○	○
2329028	ラベプラゾールナトリウム	○	○	○	○	○	○
2329029	エソメプラゾールマグネシウム水和物	○	○	○	○	○	○
3399102	アスピリン・ランソプラゾール			○	○	○	○
3399103	アスピリン・ボノブラザンフマル酸塩						○
6199100	ランソプラゾール・アモキシシリン・クラリスロマイシン	○	○	○	○	○	

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
6199101	ランソプラゾール・アモキシシリン・メトロニダゾール	○	○	○	○	○	
6199102	ラベプラゾールナトリウム・アモキシシリン水和物・クラリスロマイシン		○	○	○	○	○
6199103	ラベプラゾールナトリウム・アモキシシリン水和物・メトロニダゾール		○	○	○	○	○
2325001	シメチジン	○	○	○	○	○	○
2325002	ラニチジン塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2325003	ファモチジン	○	○	○	○	○	○
2325004	ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	○	○	○	○	○	○
2325005	ニザチジン	○	○	○	○	○	○
2325006	ラフチジン	○	○	○	○	○	○
8211001	ペチジン塩酸塩	○	○	○	○	○	○

2：退院時処方判定： 2010年度～2015年度：FファイルもしくはEFファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」 2016年度～：EF-17・F-19 行為明細区分情報（12桁の数値）の1桁目「退院時処方区分」が「1」

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：アレルギーなどの適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。
- 2：他の疾患で処方済みの患者は含まれない可能性がある為、値が低く算出される可能性がある。
- 3：アスピリンの合剤も含んでいる。
- 4：ガイドラインでは低容量アスピリンとなっているが分母は用量にかかわらずアスピリンを内服している患者としている。
- 5：2020年5月にアスピリン/ボノブラザンフマル酸塩配合剤が新規販売開始で追加した。

参考値：

参考資料：

- 1：消化性潰瘍診療ガイドライン2015第2版

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤の投与

指標番号：

QIP： 2133

年度： 2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日： 2020-10-14

指標群： 化学療法

名称：シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤の投与

意義：化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

必要データセット： DPC様式1 Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の症例で、入院にてシスプラチンを含む化学療法を受けた、実施日数

分子：分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：解析期間に新生物で入院した症例 主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名のICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ1	
ICD- 10 コード	病名
C00-D48	新生物<腫瘍>

2：このうち、血液腫瘍症例は除外する。主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名に以下のいずれかが含まれる症例を除外する

分母のデータ2	
ICD- 10 コード	病名
C81-C96	リンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>，原発

3：このうち、様式1の生年月日、入院日より年齢を求め18歳以上の症例

4：このうち、抗がん剤としてシスプラチンを受けた症例を対象とし、シスプラチンの実施日を検索する。このとき、シスプラチンは静注用のみを含む。Fファイル、もしくはEFファイルにおいて解析期間において、以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる実施日数。 ※注 4291401Dは動注用シスプラチン

分母のデータ4

漢字名称	成分名	薬価基準コード7桁	薬価基準コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020
シスプラチン注 1 ●mg「日医工」 2 ●mL	シスプラチン	4291401	4291401A****	○	○	○	○	○	○

5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く。

6：解析期間に退院した症例を対象とする。

分子の定義：

1：分母の抗がん剤投与日当日あるいは前日に5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬、デキサメタゾンの3剤がすべて併用されている数。2日間の内、必ずしもいずれかの日にまとまって併用されている必要はなく、2日間に少なくとも3剤がそれぞれ1回以上実施されている場合に分子とする。 E/Fファイルの薬剤情報の点数コードに、以下の3つのカテゴリーについてそれぞれいずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる症例。5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬、デキサメタゾン（いずれも内服もしくは注射）。

分子のデータ1

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
グラニセトロン塩酸塩	注射薬	2391400	○	○	○	○	○	○
オンダンセトロン塩酸塩水和物	注射薬	2391401	○	○	○	○	○	○
アザセトロン塩酸塩	注射薬	2391402	○	○	○	○	○	○
ラモセトロン塩酸塩	注射薬	2391403	○	○	○	○	○	○
パロノセトロン塩酸塩	注射薬	2391404	○	○	○	○	○	○
ホスアプレピタントメグルミン	注射薬	2391405	○	○	○	○	○	○
デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム	注射薬	2454405	○	○	○	○	○	○
オンダンセトロン塩酸塩水和物	内服薬	2391001	○	○	○	○	○	○
グラニセトロン塩酸塩	内服薬	2391002	○	○	○	○	○	○
トロピセトロン塩酸塩	内服薬	2391003	○	○	○			
ラモセトロン塩酸塩	内服薬	2391004	○	○	○	○	○	○
アザセトロン塩酸塩	内服薬	2391005	○	○	○	○	○	○
オンダンセトロン	内服薬	2391006	○	○	○	○	○	
インジセトロン塩酸塩	内服薬	2391007	○	○	○	○	○	○
アプレピタント	内服薬	2391008	○	○	○	○	○	○
ラモセトロン塩酸塩	内服薬	2399014	○	○	○	○	○	○
デキサメタゾン	内服薬	2454002	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

1：ステロイドを使用できない理由がある場合（糖尿病など）、NK1受容体拮抗薬を使用できない理由がある場合（相互作用のある薬剤を内服している）など、低く見積もられる可能性がある

2：持参薬がデータに反映されていない場合、低く見積もられる可能性がある（2016年度以前は原則持参薬の使用は禁止、以降はEFファイルに登録可能となっている）

3：3：オランザピンが制吐剤として2017年6月に保険承認された。海外ではオランザピンを含む4剤併用がガイドライン上推奨されているが、本邦における推奨用量、使用方法については未だ検証段階であるため、適切な患者に慎重に投与とされている。（一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン2015年10月【第2版】一部改訂版 ver.2.2 （2018 年10 月）より）

参考値:

1：高度催吐性リスクの化学療法を受けた患者のうち83%が5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬、デキサメタゾンの3剤併用で予防が実施されていた。（一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン2015年10月【第2版】より）

参考資料:

1：好な治療アドヒアランスを得て化学療法を円滑に進めるために、催吐リスクに応じた予防的な制吐剤の使用は重要である。高度の抗がん薬による急性の悪心・嘔吐に対しては、アプレピタント（もしくはホスアプレピタント）と5HT3受容体拮抗薬およびデキサメタゾンを併用する。（推奨グレードA） シスプラチンは「高度催吐性リスク」に分類される。 一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン2015年10月【第2版】

定義見直しのタイミング: オランザピンの本邦における推奨用量、使用方法について詳細記述がされガイドライン推奨が変更となった際に改定を行う

最終更新日: 2020-10-14

名称：EC（エピルピシン、シクロホスファミド）療法後の急性期予防的制吐剤の投与

指標番号：

QIP：2137

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：化学療法

名称：EC（エピルピシン、シクロホスファミド）療法後の急性期予防的制吐剤の投与

意義：化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

必要データセット：DPC様式1 Fファイル EFファイル

定義の要約：

分母：18歳以上の症例で、入院にてエピルピシン、シクロホスファミドの両薬剤を同日に含む化学療法を受けた、実施日数

分子：分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：解析期間に入院で新生物と診断された症例 主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名のICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

分母のデータ1	
ICD- 10 コード	病名
C00-D48	新生物<腫瘍>

2：このうち、血液腫瘍症例は除外する。主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名に以下のいずれかが含まれる症例を除外する

分母のデータ2	
ICD- 10 コード	病名
C81-C96	リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>，原発

3：このうち、様式1の生年月日、入院日より年齢を求め18歳以上の症例

4：このうち、エピルピシン、シクロホスファミドの両薬剤を同日に実施した症例を対象とし、実施日を検索する。 Fファイル、もしくはEFファイルにおいて解析期間において、以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる実施日数。

分母のデータ4

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
シクロホスファミド水和物	注射薬	4211401	○	○	○	○	○	○
エピルピシン塩酸塩	注射薬	4235404	○	○	○	○	○	○

5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く。

分子の定義：

1：分母の抗がん剤投与日当日あるいは前日に5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬、デキサメタゾンの3剤がすべて併用されている数。2日間の内、必ずしもいずれかの日にまとめて併用されている必要はなく、2日間に少なくとも3剤がそれぞれ1回以上実施されている場合に分子とする。 E/Fファイルの薬剤情報の点数コードに、以下の3つのカテゴリーについてそれぞれいずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる症例。5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬、デキサメタゾン（いずれも内服もしくは注射）。

分子のデータ1

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
グラニセトロン塩酸塩	注射薬	2391400	○	○	○	○	○	○
オンダンセトロン塩酸塩水和物	注射薬	2391401	○	○	○	○	○	○

成分名	投与経路	薬価基準コード7桁	2010	2012	2014	2016	2018	2020
アザセトロン塩酸塩	注射薬	2391402	○	○	○	○	○	○
ラモセトロン塩酸塩	注射薬	2391403	○	○	○	○	○	○
パロノセトロン塩酸塩	注射薬	2391404	○	○	○	○	○	○
ホスアプレピタントメグルミン	注射薬	2391405	○	○	○	○	○	○
デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム	注射薬	2454405	○	○	○	○	○	○
オンダンセトロン塩酸塩水和物	内服薬	2391001	○	○	○	○	○	○
グラニセトロン塩酸塩	内服薬	2391002	○	○	○	○	○	○
トロピセトロン塩酸塩	内服薬	2391003	○	○	○			
ラモセトロン塩酸塩	内服薬	2391004	○	○	○	○	○	○
アザセトロン塩酸塩	内服薬	2391005	○	○	○	○	○	○
オンダンセトロン	内服薬	2391006	○	○	○	○	○	
インジセトロン塩酸塩	内服薬	2391007	○	○	○	○	○	○
アプレピタント	内服薬	2391008	○	○	○	○	○	○
ラモセトロン塩酸塩	内服薬	2399014	○	○	○	○	○	○
デキサメタゾン	内服薬	2454002	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

- 1: ステロイドを使用できない理由がある場合（糖尿病など）、NK1受容体拮抗薬を使用できない理由がある場合（相互作用のある薬剤を内服している）など、低く見積もられる可能性がある
- 2: 持参薬がデータに反映されていない場合、低く見積もられる可能性がある（2016年度以前は原則持参薬の使用は禁止、以降はEFファイルに登録可能となっている）
- 3: オランザピンが制吐剤として2017年6月に保険承認された。海外ではオランザピンを含む4剤併用がガイドライン上推奨されているが、本邦における推奨用量、使用方法については未だ検証段階であるため、適切な患者に慎重に投与とされている。（一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン2015年10月【第2版】一部改訂版 ver.2.2 （2018 年10 月）より）

参考値:

- 1: 高度催吐性リスクの化学療法を受けた患者のうち83%が5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬、デキサメタゾンの3剤併用で予防が実施されていた。（一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン2015年10月【第2版】より）

参考資料:

- 1: 好な治療アドヒアランスを得て化学療法を円滑に進めるために、催吐リスクに応じた予防的な制吐剤の使用は重要である。高度の抗がん薬による急性の悪心・嘔吐に対しては、アプレピタント（もしくはホスアプレピタント）と5HT3受容体拮抗薬およびデキサメタゾンを併用する。（推奨グレードA） EC（エピルピシン、シクロホスファミド）療法は「高度催吐性リスク」に分類される。 一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐剤適正使用ガイドライン2015年10月【第2版】

定義見直しのタイミング: オランザピンの本邦における推奨用量、使用方法について詳細記述がされガイドライン推奨が変更となった際に改定を行う

最終更新日: 2020-10-14

名称：急性膵炎に対する 入院2日以内の造影CT実施割合

指標番号：

QIP： 2138

年度： 2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日： 2020-10-14

指標群： 消化器系

名称：急性膵炎に対する 入院2日以内の造影CT実施割合

意義：急性膵炎においては、診断、重症度判定のため造影CT検査を施行することが勧められている

必要データセット： DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：急性膵炎で退院した症例

分子：分母のうち、入院日から2日以内に造影CTが施行された症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、急性膵炎で入院した症例。入院の契機となった傷病名に下記のICD-10コードが該当すれば対象とする

分母のデータ2

ICD-10コード	病名
K85	急性膵炎（ICD10 ver.2003）
K85\$	急性膵炎（ICD10 ver.2013）

- 3：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：入院2日以内に造影CT検査を受けた症例。EFファイルで 入院日または入院日翌日に下記のいずれかが請求されている症例

分子のデータ1

請求コード	行為名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
170012070	造影剤使用加算（CT）	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力： false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)： 分子÷分母

指標の算出方法(単位)： パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

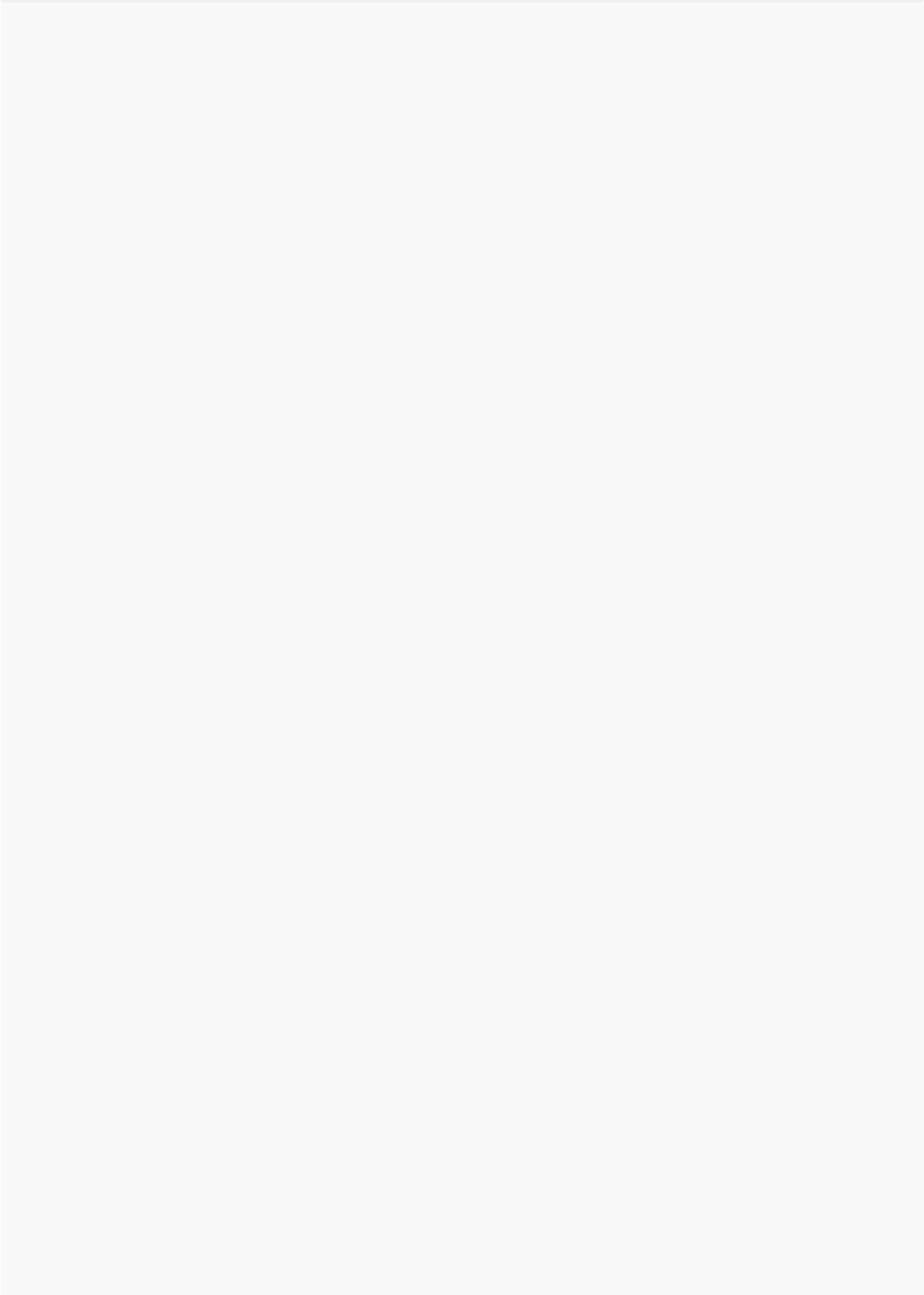
- 1：急性膵炎においては、診断あるいは重症度の判定のためにCTの施行が勧められている。 2010年ガイドラインでは「CTを施行すべきである」となっていたが、2015年ガイドラインには「積極的に造影ダイナミック CT を施行すべきである（中略）単純 CT のみでは原因となる膵腫瘍が見逃される危険性が高い」となった。

参考値：

参考資料：

- 1：急性膵炎診療ガイドライン2010
- 2：急性膵炎診療ガイドライン 2015

定義見直しのタイミング：



名称：薬剤管理指導入院3日以内実施割合（実施患者数ベース）

指標番号：

QIP：2139

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：マネジメント

名称：薬剤管理指導入院3日以内実施割合（実施患者数ベース）

意義：薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：入院症例数

分子：分母のうち、入院3日内（入院日を1とする）に薬剤管理指導を受けた症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：入院3日内（入院日を1とする）に薬剤指導管理実施の算定されている症例

分子のデータ1		2010	2012	2014	2016	2018	2020
レセ電コード	診療行為名						
113010710	薬剤管理指導料 1（救命救急入院料等算定患者）	○	○	○	○		
113010810	薬剤管理指導料（安全管理を要する医薬品投与患者）	○	○	○	○	○	○
120001610	薬剤管理指導料	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：false

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：パーセント

測定上の限界・解釈上の注意：

1：薬剤管理指導料は、算定には特定の施設基準を満たしている必要があり、実施が「●」の施設は、未実施という意味ではない可能性が高い（これらの施設件数も比較には参考となると考えられるため、表・グラフには、0の施設も併記はする）。必ずしも、すべての患者に薬剤管理指導を要するわけではなく、100%を目指す指標ではない。分子の薬剤管理指導は、特に安全管理が必要な医薬品が投薬又は注射されている患者に対して行う場合以外も含め、管理指導が実施の有無の計測を主旨とする。指標としては、このほかに、実施回数を考慮したものが考えられる。

参考値：

参考資料：

- 1：日本医療・病院管理学会誌49(4)195-203

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：乳房切除術

指標番号：

QIP：3321

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：乳房切除術

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：乳房切除術が行われた症例

分子：抗菌薬の予防的投与日数の総計（推奨薬剤かどうかは問わない）

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に入退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150121410	K475	乳房切除術	○	○	○	○	○	○
150405810	K475	乳房切除術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）					○	○
150413710	K475	乳房切除術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対して行った場合）						○
150121610	K4761	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）（乳腺全摘術）	○	○	○	○	○	○
150303110	K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	○	○	○	○	○	○
150316510	K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	○	○	○	○	○	○
150262710	K4764	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む））	○	○	○	○	○	○
150121710	K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施しないもの）	○	○	○	○	○	○
150121810	K4766	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施するもの）	○	○	○	○	○	○
150121910	K4767	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術）（胸骨旁、鎖骨上、下窩など郭清を併施するもの）	○	○	○	○	○	○
150122150	K4767	乳腺悪性腫瘍手術と両側腋窩リンパ節郭清術併施	○	○	○			
150386410	K4768	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの））				○	○	○
150386510	K4769	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴うもの））				○	○	○

- 3：このうち、「手術点数コード」の実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が開始されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、以下の抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ3

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

4：このうち、手術実施日の前日（手術日－1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。

5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く。

分子の定義：

1：手術実施日以降に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が使用された連続した日数の病院毎の集計。一度中断があった場合はそれ以降のデータは使用しない。

2：14日を超える症例は14日として集計する。

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：日

測定上の限界・解釈上の注意：

1：本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。

2：手術前日の抗菌薬投与症例を除外することで、治療的抗菌薬投与症例を除外する。

3：抗菌薬の種類は問わないため、抗菌薬治療に連続して切り替えた場合、投与日数が長く集計される。ただし、これらの症例数は多くないと考えられ、また最大値として14日を設定することにより集計は対応する。また本指標に関連した抗菌薬を特定したほかの指標も併せて参考にされたい。

参考値：

参考資料：

1：術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：乳房切除術

指標番号：

QIP：3322

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：乳房切除術

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間：24時間以内停止）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：乳房切除術が行われた症例

分子：手術実施日の翌日（手術実施日+1）に抗菌薬（推奨薬剤かどうかは問わない）が投与されていない症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に入退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150121410	K475	乳房切除術	○	○	○	○	○	○
150405810	K475	乳房切除術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）					○	○
150413710	K475	乳房切除術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対して行った場合）						○
150121610	K4761	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）（乳腺全摘術）	○	○	○	○	○	○
150303110	K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	○	○	○	○	○	○
150316510	K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	○	○	○	○	○	○
150262710	K4764	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む））	○	○	○	○	○	○
150121710	K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施しないもの）	○	○	○	○	○	○
150121810	K4766	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施するもの）	○	○	○	○	○	○
150121910	K4767	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術）（胸骨旁、鎖骨上、下窩など郭清を併施するもの）	○	○	○	○	○	○
150122150	K4767	乳腺悪性腫瘍手術と両側腋窩リンパ節郭清術併施	○	○	○			
150386410	K4768	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの））				○	○	○
150386510	K4769	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴うもの））				○	○	○

- 3：このうち、手術実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。 【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ3

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

4：このうち、手術実施日の前日（手術日－1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。

5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1：手術実施日の翌日（手術実施日＋1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されていない（薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれていない）症例。

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：％

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
- 2：本指標は2016年度のガイドラインを参照し作成したものであり、それ以前のデータは参考値。

参考値：

参考資料：

1：術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：乳房切除術

指標番号：

QIP：3323

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：乳房切除術

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（薬剤種類：CEZ）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：乳房切除術が行われた症例

分子：手術実施日に推奨抗菌薬が投与されている件数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に入退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為 コード	Kコー ド	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150121410	K475	乳房切除術	○	○	○	○	○	○
150405810	K475	乳房切除術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）					○	○
150413710	K475	乳房切除術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対して行った場合）						○
150121610	K4761	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）（乳腺全摘術）	○	○	○	○	○	○
150303110	K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	○	○	○	○	○	○
150316510	K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	○	○	○	○	○	○
150262710	K4764	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む））	○	○	○	○	○	○
150121710	K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施しないもの）	○	○	○	○	○	○
150121810	K4766	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施するもの）	○	○	○	○	○	○
150121910	K4767	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術）（胸骨旁、鎖骨上、下窩など郭清を併施するもの）	○	○	○	○	○	○
150122150	K4767	乳腺悪性腫瘍手術と両側腋窩リンパ節郭清術併施	○	○	○			
150386410	K4768	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの））				○	○	○
150386510	K4769	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴うもの））				○	○	○

- 3：このうち、手術実施日の前日（手術日 - 1）に抗菌薬（注射薬抗菌薬）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ3

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1：分母条件2「手術点数コード」の実施日にCEZが投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例、かつ当該薬剤以外の抗菌薬が同日に投与されていない症例。

分子のデータ1

推奨抗菌薬	薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム	○	○	○	○	○	○
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム水和物					○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：％

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
- 2：抗菌薬アレルギー患者などに対しては、予防的抗菌薬として推奨抗菌薬以外の抗菌薬が投与され、分子に含まれない可能性がある。
- 3：本指標は2016年度のガイドラインを参考に作成しているため、それ以前での算出は経年変化を見るための参考値。
- 4：SBT/ABPCの供給不足(2018年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。
- 5：CEZの供給停止(2019年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。（代替薬として厚生労働省より通知があり、下記にリンクを添付）

参考値：

参考資料：

1：術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

2：厚生労働省健康局結核感染症課・医政局経済課からの通知(平成31年3月29日)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000498133.pdf>

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類および投与期間遵守率：乳房切除術

指標番号：

QIP：3324

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類および投与期間遵守率：乳房切除術

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（薬剤種類：CEZ、および投与期間：24時間以内停止）をみるプロセス指標。推奨抗菌薬を投与している施設における投与期間遵守率。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：乳房切除術が行われた症例のうち、手術実施日に推奨抗菌薬が投与されている症例

分子：手術実施日の翌日（手術実施日+1）に推奨抗菌薬が投与されていない症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に入退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150121410	K475	乳房切除術	○	○	○	○	○	○
150405810	K475	乳房切除術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）					○	○
150413710	K475	乳房切除術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対して行った場合）						○
150121610	K4761	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術）（乳腺全摘術）	○	○	○	○	○	○
150303110	K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	○	○	○	○	○	○
150316510	K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	○	○	○	○	○	○
150262710	K4764	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む））	○	○	○	○	○	○
150121710	K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施しないもの）	○	○	○	○	○	○
150121810	K4766	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）（胸筋切除を併施するもの）	○	○	○	○	○	○
150121910	K4767	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術）（胸骨旁、鎖骨上、下窩など郭清を併施するもの）	○	○	○	○	○	○
150122150	K4767	乳腺悪性腫瘍手術と両側腋窩リンパ節郭清術併施	○	○	○			
150386410	K4768	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの））				○	○	○
150386510	K4769	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴うもの））				○	○	○

- 3：このうち、手術実施日にCEZが投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。当該薬剤以外の抗菌薬が同時に投与されている症例を除く。【推奨抗菌薬（CEZ）表】

分母のデータ3

推奨抗菌薬	薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム	○	○	○	○	○	○
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム水和物					○	○

4：このうち、手術実施日の前日（手術日－1）に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が投与されている症例は分母から除外する。【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ4									
薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○	
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○	

5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

1：手術実施日の翌日（手術実施日＋1）に当該抗菌薬が投与されていない(薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれていない)症例（【推奨抗菌薬（CEZ）表】参照）。

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：％

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
- 2：予防的抗菌薬として推奨抗菌薬を利用していない症例は分母に含まれない。このため、例えば広域抗菌薬を予防的抗菌薬として専ら利用する病院では分母が少なくなるなど指標値に影響する。本指標に関連した他の指標も併せて参照されたい。
- 3：本指標は2016年度のガイドラインを参照し作成したものであり、それ以前のデータは参考値。
- 4：SBT/ABPCの供給不足(2018年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。
- 5：CEZの供給停止(2019年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。（代替薬として厚生労働省より通知があり、下記にリンクを添付）

参考値：

参考資料：

- 1：術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会／一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．
- 2：厚生労働省健康局結核感染症課・医政局経済課からの通知(平成31年3月29日)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000498133.pdf>

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：腹式子宮摘出術（開腹）

指標番号：

QIP: 3331

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：腹式子宮摘出術（開腹）

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：腹式子宮摘出術（開腹）が行われた症例

分子：抗菌薬の予防的投与日数の総計（推奨薬剤かどうかは問わない）

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に入退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150215410	K865_4	子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮全摘術）（腔式、腹式）	○	○	○	○	○	○
150217510	K877	子宮全摘術	○	○	○	○	○	○
150409010	K877	子宮全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）					○	○
150217710	K879	子宮悪性腫瘍手術	○	○	○	○	○	○

- 3：このうち、「手術点数コード」の実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が開始されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、以下の抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ3

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

- 4：このうち、手術実施日の前日（手術日 - 1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。

- 5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く。

分子の定義：

- 1：手術実施日以降に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が使用された連続した日数の病院毎の集計。一度中断があった場合はそれ以降のデータは使用しない。

2：14日を超える症例は14日として集計する。

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：日

測定上の限界・解釈上の注意：

1：本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。

2：手術前日の抗菌薬投与症例を除外することで、治療的抗菌薬投与症例を除外する。

3：抗菌薬の種類は問わないため、抗菌薬治療に連続して切り替えた場合、投与日数が長く集計される。ただし、これらの症例数は多くないと考えられ、また最大値として14日を設定することにより集計は対応する。また本指標に関連した抗菌薬を特定したほかの指標も併せて参考にされたい。

参考値：

参考資料：

1：術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：腹式子宮摘出術（開腹）

指標番号：

QIP：3332

年度：2010，2012，2014，2016，2018，2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：腹式子宮摘出術（開腹）

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間：24時間以内停止）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：腹式子宮摘出術（開腹）が行われた症例

分子：手術実施日の翌日（手術実施日+1）に抗菌薬（推奨薬剤かどうかは問わない）が投与されていない症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に入退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150215410	K865_4	子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮全摘術）（腔式、腹式）	○	○	○	○	○	○
150217510	K877	子宮全摘術	○	○	○	○	○	○
150409010	K877	子宮全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）					○	○
150217710	K879	子宮悪性腫瘍手術	○	○	○	○	○	○

- 3：このうち、手術実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ3

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

- 4：このうち、手術実施日の前日（手術日-1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。

分母のデータ4

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1：手術実施日の翌日（手術実施日+1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されていない(薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれていない)症例。

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：%

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
- 2：本指標は2016年度のガイドラインを参照し作成したものであり、それ以前のデータは参考値。

参考値：

参考資料：

1：術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：腹式子宮摘出術（開腹）

指標番号：

QIP: 3333

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：腹式子宮摘出術（開腹）

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（薬剤種類：CMZ、FMOX、SBT/ABPC、CEZ&MNZ）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：腹式子宮摘出術（開腹）が行われた症例

分子：手術実施日に推奨抗菌薬が投与されている件数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に入退院した症例を対象とする。
- 2：このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150215410	K865_4	子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮全摘術）（腔式、腹式）	○	○	○	○	○	○
150217510	K877	子宮全摘術	○	○	○	○	○	○
150409010	K877	子宮全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）					○	○
150217710	K879	子宮悪性腫瘍手術	○	○	○	○	○	○

- 3：このうち、手術実施日の前日（手術日 - 1）に抗菌薬（注射薬抗菌薬）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ3

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

- 4：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：分母条件2「手術点数コード」の実施日にCMZ、FMOX、SBT/ABPC、CEZ&MNZが投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例、かつ当該薬剤以外の抗菌薬が同日に投与されていない症例。

分子のデータ1

推奨抗菌薬	薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
CMZ	6132408	セフメタゾールナトリウム	○	○	○	○	○	○
FMOX	6133401	フロモキシセフナトリウム	○	○	○	○	○	○
SBT/ABPC	6139504	スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム	○	○	○	○	○	○
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム	○	○	○	○	○	○
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム水和物	○	○	○	○	○	○
MNZ	6419401	メトロニダゾール	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：％

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
- 2：抗菌薬アレルギー患者などに対しては、予防的抗菌薬として推奨抗菌薬以外の抗菌薬が投与され、分子に含まれない可能性がある。
- 3：本指標は予防的抗菌薬として推奨抗菌薬を使用しているかをみる指標であり、推奨抗菌薬が2種類以上同時に投与されている症例も分子に含まれる（例：CMZ&FMOX、CMZ&SBT/ABPCなど）。ただし、CEZ&MNZは同時投与が推奨されているため、CEZ単剤が投与されている症例は分子に含まない（CEZの場合は、MNZ以外の推奨抗菌薬と投与されていても分子に含まない）。
- 4：本指標は2016年度のガイドラインを参考に作成しているため、それ以前での算出は経年変化を見るための参考値。
- 5：ガイドラインの対象術式は腹式子宮摘出術であるが、本指標の対象術式のうち子宮脱手術には膣式手術が含まれる。
- 6：SBT/ABPCの供給不足(2018年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。
- 7：CEZの供給停止(2019年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。（代替薬として厚生労働省より通知があり、下記にリンクを添付）

参考値：

参考資料：

- 1：術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．
- 2：厚生労働省健康局結核感染症課・医政局経済課からの通知(平成31年3月29日)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000498133.pdf>

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）

指標番号：

QIP：3391

年度：2010，2012，2014，2016，2018，2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）が行われた症例

分子：抗菌薬の予防的投与日数の総計（推奨薬剤かどうかは問わない）

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：
解析期間に入退院した症例を対象とする。

2：
このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150159010	K6335	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	○	○	○	○	○	○

3：
このうち、手術実施日にメッシュが算定されている（EFファイルの特定器材コードに、下記9桁に対応する特定器材コードが含まれる）症例。

分母のデータ3

特定器材コード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
736670000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・一般	×	○	○	○	○	○
736680000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・形状付加型	×	○	○	○	○	○
736690000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・腹膜欠損用	×	○	○	○	○	○

4：
このうち、「手術点数コード」の実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が開始されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、以下の抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。
【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ4

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

5:

このうち、手術実施日の前日（手術日 - 1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。

6:

調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く。

分子の定義:

1:

手術実施日以降に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が使用された連続した日数の病院毎の集計。一度中断があった場合はそれ以降のデータは使用しない。

2:

14日を超える症例は14日として集計する。

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): 日

結果提示時の並び順: 昇順

測定上の限界・解釈上の注意:

1:

本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。

2:

手術前日の抗菌薬投与症例を除外することで、治療的抗菌薬投与症例を除外する。

3:

抗菌薬の種類は問わないため、抗菌薬治療に連続して切り替えた場合、投与日数が長く集計される。ただし、これらの症例数は多くないと考えられ、また最大値として14日を設定することにより集計は対応する。また本指標に関連した抗菌薬を特定したほかの指標も併せて参考にされたい。

参考値:

参考資料:

1:

術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

2:

日本外科感染症学会 消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドライン作成委員会 消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドライン2018

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）

指標番号：

QIP：3392

年度：2010，2012，2014，2016，2018，2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間：24時間以内停止）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）が行われた症例

分子：手術実施日の翌日（手術実施日+1）に抗菌薬（推奨薬剤かどうかは問わない）が投与されていない症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：
解析期間に入退院した症例を対象とする。

2：
このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150159010	K6335	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	○	○	○	○	○	○

3：
このうち、手術実施日にメッシュが算定されている（EFファイルの特定器材コードに、下記9桁に対応する特定器材コードが含まれる）症例。

分母のデータ3

特定器材コード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
736670000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・一般	×	○	○	○	○	○
736680000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・形状付加型	×	○	○	○	○	○
736690000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・腹膜欠損用	×	○	○	○	○	○

4：
このうち、手術実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。
【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ4

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

5:

このうち、手術実施日の前日（手術日 - 1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。

6:

調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義:

1:

手術実施日の翌日（手術実施日 + 1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されていない（薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれていない）症例。

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子 ÷ 分母

指標の算出方法(単位): %

結果提示時の並び順: 降順

測定上の限界・解釈上の注意:

1:

本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。

2:

本指標は2016年度のガイドラインを参照し作成したものであり、それ以前のデータは参考値。

参考値:

参考資料:

1:

術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

2:

日本外科感染症学会 消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドライン作成委員会 消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドライン2018

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）

指標番号：

QIP：3393

年度：2010，2012，2014，2016，2018，2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（薬剤種類：CEZ又はSBT/ABPC）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）が行われた症例

分子：手術実施日に推奨抗菌薬が投与されている件数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：
解析期間に入退院した症例を対象とする。

2：
このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150159010	K6335	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	○	○	○	○	○	○

3：
このうち、手術実施日にメッシュが算定されている（EFファイルの特定器材コードに、下記9桁に対応する特定器材コードが含まれる）症例。

分母のデータ3

特定器材コード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
736670000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・一般	×	○	○	○	○	○
736680000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・形状付加型	×	○	○	○	○	○
736690000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・腹膜欠損用	×	○	○	○	○	○

4：
このうち、手術実施日の前日（手術日－1）に抗菌薬（注射薬抗菌薬）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。
【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ4

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

5 :
調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義:

1 :
分母条件2「手術点数コード」の実施日にCEZ又はSBT/ABPCが投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例、かつ当該薬剤以外の抗菌薬が同日に投与されていない症例。

分子のデータ1

推奨抗菌薬	薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム			○	○	○	○
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム水和物	○	○	○	○	○	○
SBT/ABPC	6139504	スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): %

結果提示時の並び順: 降順

測定上の限界・解釈上の注意:

- 1 :
本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
- 2 :
抗菌薬アレルギー患者などに対しては、予防的抗菌薬として推奨抗菌薬以外の抗菌薬が投与され、分子に含まれない可能性がある。
- 3 :
本指標は2016年度のガイドラインを参考に作成しているため、それ以前での算出は経年変化を見るための参考値。
- 4 :
SBT/ABPCの供給不足(2018年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。
- 5 :
CEZの供給停止(2019年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。

参考値:

参考資料:

- 1 :
術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会／一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．
- 2 :
日本外科感染症学会 消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドライン作成委員会 消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドライン2018
- 3 :
厚生労働省健康局結核感染症課・医政局経済課からの通知(平成31年3月29日)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000498133.pdf>

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類および投与期間遵守率：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）

指標番号：

QIP：3394

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類および投与期間遵守率：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（薬剤種類：CEZ又はSBT/ABPC、および投与期間：24時間以内停止）をみるプロセス指標。推奨抗菌薬を投与している施設における投与期間遵守率。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：鼠径部ヘルニア根治術（開腹、メッシュ使用）が行われた症例のうち、手術実施日に推奨抗菌薬が投与されている症例

分子：手術実施日の翌日（手術実施日+1）に推奨抗菌薬が投与されていない症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：解析期間に入退院した症例を対象とする。

2：このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150159010	K6335	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	○	○	○	○	○	○

3：このうち、手術実施日にメッシュが算定されている（EFファイルの特定器材コードに、下記9桁に対応する特定器材コードが含まれる）症例。

分母のデータ3

特定器材コード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
736670000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・一般	x	○	○	○	○	○
736680000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・形状付加型	x	○	○	○	○	○
736690000	組織代用人工繊維布・ヘルニア修復・胸壁補強用・腹膜欠損用	x	○	○	○	○	○

4：このうち、手術実施日にCEZ又はSBT/ABPCが投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。当該薬剤以外の抗菌薬が同時に投与されている症例を除く。

【推奨抗菌薬（CEZ又はSBT/ABPC）表】

分母のデータ4

推奨抗菌薬	薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム			○	○	○	○
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム水和物	○	○	○	○	○	○
SBT/ABPC	6139504	スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム	○	○	○	○	○	○

5：このうち、手術実施日の前日（手術日-1）に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が投与されている症例は分母から除外する。

【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ5

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

6 :
調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義:

1 :
手術実施日の翌日（手術実施日+1）に当該抗菌薬が投与されていない（薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれていない）症例（【推奨抗菌薬（CEZ又はSBT/ABPC）表】参照）。

薬剤一覧の出力: true

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): %

結果提示時の並び順: 降順

測定上の限界・解釈上の注意:

1 :
本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。

2 :
予防的抗菌薬として推奨抗菌薬を利用していない症例は分母に含まれない。このため、例えば広域抗菌薬を予防的抗菌薬として専ら利用する病院では分母が少なくなるなど指標値に影響する。本指標に関連した他の指標も併せて参照されたい。

3 :
本指標は2016年度のガイドラインを参照し作成したものであり、それ以前のデータは参考値。

4 :
SBT/ABPCの供給不足(2018年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。

5 :
CEZの供給停止(2019年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。

参考値:

参考資料:

1 :
術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

2 :
日本外科感染症学会 消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドライン作成委員会 消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドライン2018

3 :
厚生労働省健康局結核感染症課・医政局経済課からの通知(平成31年3月29日)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000498133.pdf>

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：人工関節置換術

指標番号：

QIP：3411

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：人工関節置換術

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：人工関節置換術が行われた症例

分子：抗菌薬の予防的投与日数の総計（推奨薬剤かどうかは問わない）

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：
解析期間に入退院した症例を対象とする。
- 2：
このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150050310	K0821	人工関節置換術（肩）	○	○	○	○	○	○
150050410	K0821	人工関節置換術（股）	○	○	○	○	○	○
150050510	K0821	人工関節置換術（膝）	○	○	○	○	○	○
150050610	K0822	人工関節置換術（胸鎖）	○	○	○	○	○	○
150050710	K0822	人工関節置換術（肘）	○	○	○	○	○	○
150050810	K0822	人工関節置換術（手）	○	○	○	○	○	○
150050910	K0822	人工関節置換術（足）	○	○	○	○	○	○
150051010	K0823	人工関節置換術（肩鎖）	○	○	○	○	○	○
150051110	K0823	人工関節置換術（指（手、足））	○	○	○	○	○	○
150255910	K082-31	人工関節再置換術（肩）	○	○	○	○	○	○
150256010	K082-31	人工関節再置換術（股）	○	○	○	○	○	○
150256110	K082-31	人工関節再置換術（膝）	○	○	○	○	○	○
150256210	K082-32	人工関節再置換術（胸鎖）	○	○	○	○	○	○
150256310	K082-32	人工関節再置換術（肘）	○	○	○	○	○	○
150256410	K082-32	人工関節再置換術（手）	○	○	○	○	○	○
150256510	K082-32	人工関節再置換術（足）	○	○	○	○	○	○
150256610	K082-33	人工関節再置換術（肩鎖）	○	○	○	○	○	○
150256710	K082-33	人工関節再置換術（指（手、足））	○	○	○	○	○	○
150411610	K082-5	人工距骨全置換術						○
150411710	K082-6	人工股関節摺動面交換術						○

- 3：
このうち、「手術点数コード」の実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が開始されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、以下の抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。

【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ3

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

4：

このうち、手術実施日の前日（手術日－1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。

5：

調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く。

分子の定義：

1：

手術実施日以降に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が使用された連続した日数の病院毎の集計。一度中断があった場合はそれ以降のデータは使用しない。

2：

14日を超える症例は14日として集計する。

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：日

結果提示時の並び順：昇順

測定上の限界・解釈上の注意：

1：

本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。

2：

手術前日の抗菌薬投与症例を除外することで、治療的抗菌薬投与症例を除外する。

3：

抗菌薬の種類は問わないため、抗菌薬治療に連続して切り替えた場合、投与日数が長く集計される。ただし、これらの症例数は多くないと考えられ、また最大値として14日を設定することにより集計は対応する。また本指標に関連した抗菌薬を特定したほかの指標も併せて参考にされたい。

参考値：

参考資料：

1：

術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：人工関節置換術

指標番号：

QIP：3412

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018

更新日：2020-09-25

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期抗菌薬の予防的な投与期間遵守率：人工関節置換術

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間：24時間以内停止）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：人工関節置換術が行われた症例

分子：手術実施日の翌々日（手術実施日+3）に抗菌薬（薬剤種類かどうかは問わない）が投与されていない症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：
解析期間に入退院した症例を対象とする。

2：
このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150050310	K0821	人工関節置換術（肩）	○	○	○	○	○	○
150050410	K0821	人工関節置換術（股）	○	○	○	○	○	○
150050510	K0821	人工関節置換術（膝）	○	○	○	○	○	○
150050610	K0822	人工関節置換術（胸鎖）	○	○	○	○	○	○
150050710	K0822	人工関節置換術（肘）	○	○	○	○	○	○
150050810	K0822	人工関節置換術（手）	○	○	○	○	○	○
150050910	K0822	人工関節置換術（足）	○	○	○	○	○	○
150051010	K0823	人工関節置換術（肩鎖）	○	○	○	○	○	○
150051110	K0823	人工関節置換術（指（手、足））	○	○	○	○	○	○
150255910	K082-31	人工関節再置換術（肩）	○	○	○	○	○	○
150256010	K082-31	人工関節再置換術（股）	○	○	○	○	○	○
150256110	K082-31	人工関節再置換術（膝）	○	○	○	○	○	○
150256210	K082-32	人工関節再置換術（胸鎖）	○	○	○	○	○	○
150256310	K082-32	人工関節再置換術（肘）	○	○	○	○	○	○
150256410	K082-32	人工関節再置換術（手）	○	○	○	○	○	○
150256510	K082-32	人工関節再置換術（足）	○	○	○	○	○	○
150256610	K082-33	人工関節再置換術（肩鎖）	○	○	○	○	○	○
150256710	K082-33	人工関節再置換術（指（手、足））	○	○	○	○	○	○
150411610	K082-5	人工距骨全置換術						○
150411710	K082-6	人工股関節摺動面交換術						○

3：
このうち、手術実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。

【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ3

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

4：
このうち、手術実施日の前日（手術日－1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。

5：
調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

1：
手術実施日の翌々日（手術実施日+3）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されていない（薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれていない）症例。

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：％

結果提示時の並び順：降順

測定上の限界・解釈上の注意：

1：
本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。

2：
本指標は2016年度のガイドラインを参照し作成したものであり、それ以前のデータは参考値。

参考値：

参考資料：

1：
術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-09-25

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：人工関節置換術

指標番号：

QIP：3413

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：人工関節置換術

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（薬剤種類：CEZ）をみるプロセス指標

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：人工関節置換術が行われた症例

分子：手術実施日に推奨抗菌薬が投与されている件数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：
解析期間に入退院した症例を対象とする。
- 2：
このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150050310	K0821	人工関節置換術（肩）	○	○	○	○	○	○
150050410	K0821	人工関節置換術（股）	○	○	○	○	○	○
150050510	K0821	人工関節置換術（膝）	○	○	○	○	○	○
150050610	K0822	人工関節置換術（胸鎖）	○	○	○	○	○	○
150050710	K0822	人工関節置換術（肘）	○	○	○	○	○	○
150050810	K0822	人工関節置換術（手）	○	○	○	○	○	○
150050910	K0822	人工関節置換術（足）	○	○	○	○	○	○
150051010	K0823	人工関節置換術（肩鎖）	○	○	○	○	○	○
150051110	K0823	人工関節置換術（指（手、足））	○	○	○	○	○	○
150255910	K082-31	人工関節再置換術（肩）	○	○	○	○	○	○
150256010	K082-31	人工関節再置換術（股）	○	○	○	○	○	○
150256110	K082-31	人工関節再置換術（膝）	○	○	○	○	○	○
150256210	K082-32	人工関節再置換術（胸鎖）	○	○	○	○	○	○
150256310	K082-32	人工関節再置換術（肘）	○	○	○	○	○	○
150256410	K082-32	人工関節再置換術（手）	○	○	○	○	○	○
150256510	K082-32	人工関節再置換術（足）	○	○	○	○	○	○
150256610	K082-33	人工関節再置換術（肩鎖）	○	○	○	○	○	○
150256710	K082-33	人工関節再置換術（指（手、足））	○	○	○	○	○	○
150411610	K082-5	人工距骨全置換術						○
150411710	K082-6	人工股関節摺動面交換術						○

- 3：
このうち、手術実施日の前日（手術日 - 1）に抗菌薬（注射薬抗菌薬）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。

【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ3

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

4：
調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

1：
分母条件2「手術点数コード」の実施日にCEZが投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例、かつ当該薬剤以外の抗菌薬が同日に投与されていない症例。

分子のデータ1

推奨抗菌薬	薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム	○	○	○	○	○	○
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム水和物	○	○	○	○	○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：％

結果提示時の並び順：降順

測定上の限界・解釈上の注意：

- 1：
本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
- 2：
抗菌薬アレルギー患者などに対しては、予防的抗菌薬として推奨抗菌薬以外の抗菌薬が投与され、分子に含まれない可能性がある。
- 3：
本指標は2016年度のガイドラインを参考に作成しているため、それ以前での算出は経年変化を見るための参考値。
- 4：
SBT/ABPCの供給不足(2018年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。
- 5：
CEZの供給停止(2019年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。（代替薬として厚生労働省より通知があり、下記にリンクを添付）

参考値：

参考資料：

- 1：
術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会／一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．
- 2：
厚生労働省健康局結核感染症課・医政局経済課からの通知(平成31年3月29日)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000498133.pdf>

定義見直しのタイミング：

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類および投与期間遵守率：人工関節置換術

指標番号：

QIP：3414

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：周術期抗菌薬予防投与

名称：周術期予防的抗菌薬の薬剤種類および投与期間遵守率：人工関節置換術

意義：周術期抗菌薬の適切な使用（薬剤種類：CEZ、および投与期間：24時間以内停止）をみるプロセス指標。推奨抗菌薬を投与している施設における投与期間遵守率。

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：人工関節置換術が行われた症例のうち、手術実施日に推奨抗菌薬が投与されている症例

分子：手術実施日の翌々日（手術実施日+3）に推奨抗菌薬が投与されていない症例数

指標の定義算出方法：

分母の定義：

1：
解析期間に入退院した症例を対象とする。

2：
このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

分母のデータ2

診療行為コード	Kコード	基本漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020
150050310	K0821	人工関節置換術（肩）	○	○	○	○	○	○
150050410	K0821	人工関節置換術（股）	○	○	○	○	○	○
150050510	K0821	人工関節置換術（膝）	○	○	○	○	○	○
150050610	K0822	人工関節置換術（胸鎖）	○	○	○	○	○	○
150050710	K0822	人工関節置換術（肘）	○	○	○	○	○	○
150050810	K0822	人工関節置換術（手）	○	○	○	○	○	○
150050910	K0822	人工関節置換術（足）	○	○	○	○	○	○
150051010	K0823	人工関節置換術（肩鎖）	○	○	○	○	○	○
150051110	K0823	人工関節置換術（指（手、足））	○	○	○	○	○	○
150255910	K082-31	人工関節再置換術（肩）	○	○	○	○	○	○
150256010	K082-31	人工関節再置換術（股）	○	○	○	○	○	○
150256110	K082-31	人工関節再置換術（膝）	○	○	○	○	○	○
150256210	K082-32	人工関節再置換術（胸鎖）	○	○	○	○	○	○
150256310	K082-32	人工関節再置換術（肘）	○	○	○	○	○	○
150256410	K082-32	人工関節再置換術（手）	○	○	○	○	○	○
150256510	K082-32	人工関節再置換術（足）	○	○	○	○	○	○
150256610	K082-33	人工関節再置換術（肩鎖）	○	○	○	○	○	○
150256710	K082-33	人工関節再置換術（指（手、足））	○	○	○	○	○	○
150411610	K082-5	人工距骨全置換術						○
150411710	K082-6	人工股関節摺動面交換術						○

3：

このうち、手術実施日にCEZが投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。当該薬剤以外の抗菌薬が同時に投与されている症例を除く。

【推奨抗菌薬（CEZ）表】

分母のデータ3

推奨抗菌薬	薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム	○	○	○	○	○	○
CEZ	6132401	セファゾリンナトリウム水和物	○	○	○	○	○	○

4：

このうち、手術実施日の前日（手術日 - 1）に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が投与されている症例は分母から除外する。

【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

分母のデータ4

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○

5：

調査対象となる一般病棟への入院の有無が「○」の症例を除く

分子の定義：

1：

手術実施日の翌々々日（手術実施日+3）に当該抗菌薬が投与されていない（薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれていない）症例（【推奨抗菌薬（CEZ）表】参照）。

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位)：％

結果提示時の並び順：降順

測定上の限界・解釈上の注意：

1：

本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。

2：

予防的抗菌薬として推奨抗菌薬を利用していない症例は分母に含まれない。このため、例えば広域抗菌薬を予防的抗菌薬として専ら利用する病院では分母が少なくなるなど指標値に影響する。本指標に関連した他の指標も併せて参照されたい。

3：

本指標は2016年度のガイドラインを参照し作成したものであり、それ以前のデータは参考値。

4：

SBT/ABPCの供給不足(2018年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。

5：

CEZの供給停止(2019年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。（代替薬として厚生労働省より通知があり、下記にリンクを添付）

参考値：

参考資料：

1：

術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会，公益社団法人日本化学療法学会／一般社団法人日本外科感染症学会．術後感染予防

抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン．2016．

2：

厚生労働省健康局結核感染症課・医政局経済課からの通知(平成31年3月29日)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000498133.pdf>

定義見直しのタイミング：

最終更新日：2020-10-14

名称：脳梗塞の診断で入院し、抗凝固薬を投与しない割合

指標番号：

QIP: 5001

年度：2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日：2020-10-14

指標群：脳卒中

名称：脳梗塞の診断で入院し、抗凝固薬を投与しない割合

意義：Choosing Wisely

必要データセット：DPC様式1 EFファイル

定義の要約：

分母：18 歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子：分母のうち、抗凝固薬内服を投与されていない症例

指標の定義算出方法：

分母の定義：

- 1：解析期間に退院した症例を対象とする
- 2：このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め18 歳以上の症例
- 3：このうち、脳梗塞のため入院した症例。入院の契機となった傷病名と医療資源を最も投入した傷病名両方に、ICD-10 コードとして「I63\$」（脳梗塞）が含まれる症例
- 4：このうち、退院時転帰が「6．最も医療資源を投入した傷病による死亡」「7．最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」の症例を除外する。
- 5：調査対象となる一般病棟への入院の有無が「●」の症例を除く

分子の定義：

- 1：分母のうち、抗凝固薬の内服を処方されていない症例

分子のデータ1

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020
1124003	ニトラゼパム	○	○	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	○	○	○	○	○	○
1124017	ジアゼパム	○	○	○	○	○	○
1124402	ジアゼパム	○	○	○	○	○	○
1125003	フェノバルビタール	○	○	○	○	○	○
1125402	フェノバルビタール	○					
1132002	フェニトイン	○	○	○	○	○	○
1135002	プリミドン	○	○	○	○	○	○
1139002	カルバマゼピン	○	○	○	○	○	○
1139004	バルプロ酸ナトリウム	○	○	○	○	○	○
1139005	ゾニサミド		○	○	○	○	○
1139008	トピラマート				○	○	○
1139009	ラモトリギン					○	○

薬剤一覧の出力：true

リスク調整因子の条件：

指標の算出方法(説明)：分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

測定上の限界・解釈上の注意:

- 1: 予防治療をしない率を測定する指標であるが、治療が必要な症例も混在している。
- 2: 抗てんかん薬は、他の効能（例: 抗精神病薬）もありほかの治療目的に利用している場合指標値に誤差がでる。

参考値:

参考資料:

1: Don' t routinely use seizure prophylaxis in patients following ischemic stroke.
<http://www.choosingwisely.org/clinician-lists/american-association-neurological-surgeons-seizure-prophylaxis-following-ischemic-stroke/>

2: 「脳卒中治療ガイドライン2015」日本脳卒中学会 https://www.jsts.gr.jp/img/guideline2015_tuiho2019_10.pdf

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2020-10-14